

# 総務

## 1 任務

総務の任務については、競技規則第122条に記載されている。

- (1) 競技会を管理し、競技会を順調に進行させる責任を負う。
- (2) すべての役員の任務遂行の状況を監視し必要に応じて代わりを指名する。競技規則に精通していない役員を解任する。
- (3) 新記録（日本・アジア・世界）が誕生した場合の記録公認要件・申請手続きに関する認識と関係部署への連絡・指示を行なう。
- (4) 監督会議（国際競技会では技術代表の任務）を主導し、そこで変更になった事項や新たな決定事項があれば、競技会の開始前に関係全部署に連絡し、周知徹底を図る。
- (5) マーシャル（Marshal：場内司令）と連携し、権限ある者以外は競技場内に入れないように競技場内を整理する。  
そして、競技会の規模に応じて総務員を置き、任務の一部を代行させることができる。

## 2 競技会前の準備と留意点

- (1) 競技施設・用器具等の準備
  - ① 公認競技場の適格性ならびに競技場、ウォームアップ場整備状況の確認（公認競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程第1条～3条、第5条、競技規則第135条）。  
競技場内諸施設の状況点検は、借用側の責任管理者として前日までに必ず実施しなければならない。
    - (a) 競技場施設（総務担当）。
    - (b) 競技場トラック・フィールド施設状況（技術総務）。
  - ② 用器具の準備補充の点検、および物品、消耗品、賞品などの管理整備。
  - ③ 得点表、成績表、記録表等の整備。広告表示方法（IAAF競技規則第8条、国際競技会における広告および展示物に関する規程、競技規則第143条9〔国内〕3、4。
    - (a) 用器具、得点表、成績表、記録表、その他の施設に類する機材は技術総務が準備状況を確認する。

用器具施設に類する器材はさらに用器具係が用意して、技術総務に報告する。記録用紙、物品、消耗品は庶務係が用意する。

(b) 競技会当日に関係部署へ流す記録用紙は、前日までに競技者係に確実に作成させる（プログラムを切り取って利用する方法が多い）。

(c) 競技会・記録の公認申請に必要な申請用紙や新記録（日本・アジア・世界）が誕生した際の申請用紙の準備を行なう。

- ④ 記念品、賞品、賞状については、従来のものの確認、新しく調達する場合の考慮。あわせて賞状についても、受け取る競技者の立場になって新しいアイデアによるデザイン、形式、内容の吟味（賞品の管理は表彰係に委任するのが慣例）。

## (2) 競技役員

競技役員の委嘱と解任、欠席役員の補充、補助員の委嘱（依頼）、規模に応じた役員数の考慮、訓練方法、処遇、定位置、競技会終了までの遵守事項の確認。

- ① 競技役員（補助員）の習熟度合
- ② 競技役員（補助員）の新しい競技規則、審判方法の理解度
- ③ 競技規則に精通していない役員の任を解く
- ④ 基幹役員の活動範囲および管理能力——各競技役員が円滑に動いているか。特に審判長、各主任、総務員（進行担当）、技術総務など。
- ⑤ 競技役員（補助員）の不参加者に対する補充措置。
- ⑥ 処遇給与方法——交通費、食事代、日当などについて、具体的な活動に対する代価が出されているか。
- ⑦ 競技会当日の集合、解散、服装、打ち合わせ会、残留特別任務などを決定し、連絡する。
- ⑧ 競技役員省力化を念頭に置く。

## (3) 競技規則の確認

- ① 抗議申し立てのあったときの用意
- ② 大会要項の確認
- ③ 申し込みの確認
- ④ 競技注意事項の確認

- ⑤ プログラム記載事項の確認。
- (a) 出場資格（競技規則第2条，第20条，第142条），外国人競技者の資格（競技規則第2条，第20条，第142条2），加盟団体（定款第49条），登録会員（登録会員規程第1条，第14条），および参加者への受付連絡。
- (b) 申し込み締め切り後，プログラム原稿作成にあたっては，記入もれなどにより競技者へ迷惑をかけてはならない。また競技注意事項は草案から校閲し，その他挿入する事項についての注意を怠らないこと。また，申し込み原簿は受付終了後も保管し，競技会当日は本部に置く。
- ⑥ トラック競技の予選組み合わせの確認（競技規則第166条1,2,3,4,5,6）。
- ⑦ トラック競技の中距離種目1組あたりの人数の確認（競技規則第166条2）。
- ⑧ トラック競技日程の確認（競技規則第166条7）。
- ⑨ トラック競技でのつぎのラウンドへ進出する方法の確認（競技規則第166条2,6）。
- ⑩ フィールド競技試技順の確認（競技規則第180条5,6）。
- ⑪ フィールド競技の予選の人数の確認（競技規則第180条9,10,12）。
- ⑫ 混成競技の組み合わせの確認（競技規則第200条7）。
- ⑬ 混成競技のトラック種目1組毎の出場者の確認（競技規則第200条7）。
- ⑭ ナンバーカードの用意（競技規則第143条7）。
- 広告挿入のナンバーカードが使用されるときには，同ナンバーカードの配布状況，競技者の着用状況などに注意する。
- (4) その他
- ① ドーピング検査実施の有無（IAAF 競技規則第3章第30条～第47条）
- ② 総務員による各種進行計画の確認。
- ③ 式典表彰の準備と確認。

トラック，フィールド進行担当総務員，表彰係，技術総務，庶務係，競技者係などからプログラムに基づく計画表を作成さ

せ確認する。

(a) 「トラック種目・フィールド種目」進行計画表。

(b) 表彰進行計画（表彰係）。

(c) 競技場整備用具搬入方法（技術総務）。

(d) 各審判員別の備品・消耗品の配布表（庶務係）。

(e) 競技者係招集誘導計画表（競技者係）。

- ④ 総務による諸会議計画，申込原簿，諸記録書，記録申請用紙，競技場内諸施設（抗議受付場所，本部，大会役員席，競技役員席，競技者席，招集所，競技者更衣室，医務室，会議室，各出入り口，ウォームアップ場，浴室，シャワー室，便所，報道席，インタビュー室，被表彰者控え室，アナウンサー室，掲示場所，写真判定室，駐車場，ジュリー（Jury：上訴審判員）控え室，ドーピング検査室など）管理整備状況点検。

IAAFが決めるパーミット・ミーティングに該当する場合の措置。

- ⑤ マーシャルによる場内整理方法の聴取と指示（規則第133条）
- ⑥ 道路競技申込競技者の健康検査状況聴取。
- ⑦ 道路競技各ポイント整備措置ならびに実施について，警察その他の折衝状況聴取。
- ⑧ 道路競技の競技役員輸送方法，随行車輛配置，医師の特別手配，救急措置時の手配先確認（消防署，病院など）。
- ⑨ 記録通信の方法（ファクシミリ，コンピューター使用時の配慮）。
- ⑩ 競技会当日の流し記録用紙の手配。
- ⑪ 雨天，荒天など天候急変に備える態勢の準備。
- ⑫ 報道機関への情報提供，報道席，資料の配付，場内通行証，IDカード，腕章・ビブス，カメラマン取材方法の手配（撮影エリアの設定等）。
- ⑬ 監督会議，審判主任会議（大会規模の大きいときには全体役員打ち合わせ会）による具体的実施計画の確認，参加者の意図反映。
- ⑭ 審判必携（大会実施計画，競技役員編成，同活動方法など）の作成。

- ⑮ 競技実施に必要な事項についての競技場管理者との連絡協議。
- ⑯ その他の必要事項の指示。

### 3 競技会当日の任務と留意点

- (1) 役員の集合状態の確認，一定時刻までに参集しなかった役員の補充措置。
- (2) 道路競技参加者の医師の検査の結果についての指示。
- (3) 抗議申し立て中の競技者出場の場合，審判長との連絡。
- (4) 競技場内の整理状況を観察し，マーシャルに指示を与える。練習場も含めた競技場内は，マーシャルに指示をして事故などが発生しないようにする。トラック競技，フィールド競技ならびに競合する個所の整理方法など。特に投てき競技の危険防止については万全を期す。
- (5) 掲示広告物のチェック。
- (6) あらかじめ審判長と打ち合わせをしておいた事項で，審判長の報告により措置するもの
  - ① フィールド競技場所の変更（競技規則第180条20）
  - ② ユニフォーム，競技用靴の規格（全天候舗装のとき），ナンバーカードの注意（競技規則第143条）。
  - ③ 競技の判定が手間取り，状況を説明した方がよいと思われるときの報道関係者，関係競技役員あるいは関係監督，競技者，観客への説明の徹底。
 

現場でその事情をよく把握した後，進行担当総務員によく説明し，速やかにその解決手段を出して，関係役員，関係監督，競技者などにも連絡する。また，アナウンサーによる観客への説明が必要となる場合，間違いが生じないためにも，アナウンス原稿を書いて解決方法を十分に理解させることが必要である。
  - ④ 不都合な競技者が除外されたとき（競技規則第125条5，第163条2），勝手にトラックから退場した競技者がでたとき（競技規則第163条6），または競技者の行為に関する抗議が出たとき（競技規則第125条4），その措置，成り行きに注意する。
  - ⑤ 競技規則にない事項を審判長が裁定したときは，その理由を

よく聞いておく（競技規則第125条2）。

- ⑥ 審判長が混成競技で発表された組み合わせを変更しようとしたときの処置に注意（競技規則第200条7）
- ⑦ 途中時間をアナウンスする役員の決定（競技規則第144条1）。
- ⑧ 新記録が生まれたときの審判長への協力と、記録申請に関する関係部署への連絡・指示。
- ⑨ ドーピング検査実施方法の注意（IAAF競技規則第3章）。
- ⑩ 抗議に対応できるように、全ての記録のアナウンス時刻記入責任者を決定する（競技規則第146条2）。

一般にはアナウンサー自身に結果発表時刻を記録させておくことが多いが、進行担当総務に記録させる場合もある。最終種目終了後も当該種目関係者を抗議に備え結果発表後30分間は待機させるべきである。

- (7) 競技会が正しく行われているかの認定（競技規則第142条3、第144条、第145条、第147条、第149条、第162条、第163条、第166条、第180条、第187条、第240条9）。

あらかじめ進行担当総務員から提出された進行計画表通りプログラムが進行していれば問題ないが、遅れる状況にあるとき、遅れ始めたときには、その理由、対応策を併せて担当総務員から報告させる。

- (8) 流し記録用紙の流れ方への注意。
- (9) 予選通過者ならびに次のラウンドの組み合わせの注意。同アナウンス、告示方法の確認。

予選の結果、次のラウンドに進む編成は、競技終了後ただちにいき、速やかに発表する。番組編成用紙の形式は、そのまま流し用紙として利用できるものが便利である。

- (10) 競技進行状況についての各担当総務員、審判員の注意。

招集所については、案外忘れられがちであるが、招集方法とともに進行状況をチェックする必要がある。

- (11) 記録員からの記録原票の受理保管。
- (12) 各種目終了後、記録発表（特にアナウンス、フィールドの記録表示）までの進行状況の注意。

- ① トラック競技における結果発表はつぎのレースの紹介前に発

表するように心掛けるべきである。

② トラック競技において、タイムで次のラウンドに進む競技者の発表については、その種目の最終組の結果発表直後に、何組、何着、ナンバー、競技者名、所属等を発表させる。

③ フィールド競技では、電光掲示盤、記録表示器などを活用して、ナンバー、回数、高さ、距離等を試技ごとに表示する。

表示器の不足、同装置の不完全、操作の習熟度不足、表示しようとする熱意の不足などが障害となっているところもあるが、観客に配慮し面白みを増す工夫が必要である。

- (13) 報道関係者への記録の流れ、資料提供状態の注意
- (14) 道路競技の進行運営状況の聴取指示。
- (15) 技術総務に対する競技施設、用器具整備状況の指示。
- (16) 物品、消耗品、記録用紙などの需給ならびに使用状況の聴取指示。
- (17) 救急医療措置の注意ならびに患者発生時の措置の確認。
- (18) 雨天、荒天などの天候に応ずる措置。
- (19) 競技場内施設の使用状況の点検。
- (20) 式典、表彰運営計画の確認。
  - ① 表彰の行われる競技会では、表彰時刻を競技時間と関連して設定しておくことよい。表彰はトラック競技の合間に実施すべきである。
  - ② 入賞者の表彰係までの誘導方法も事前に検討し、関連部署に徹底させておく必要がある。
- (21) その他競技会前に準備した事項の実施。
- (22) ウォームアップ場使用状況の点検。
- (23) 風力計測状況の確認点検。

### 競技会における広告・商標の規定について

競技会において競技者や審判員が身に着けることができる、あるいは競技場内に掲示できる広告・商標の規定については、「競技会における広告および展示物に関する規程」としてルー

ルブックに収録されている。

それまでは、どのような競技会にこの規定を適用するか範囲が不明確であったが、2011年の改定で、以下の競技会において適用されることになった。

- (1) 本連盟主催・共催競技会
- (2) 本連盟後援競技会
- (3) テレビ放映またはインターネット等による不特定多数に公衆送信される競技会
- (4) ナンバーカード広告協賛を付した競技会
- (5) その他大会要項において本規程の適用を定める競技会

競技会の運営には多額の費用がかかる。このために多くの企業にスポンサーとして出資していただき、その見返りにプログラム、ナンバーカードあるいは競技場内にスポンサーの広告看板を出している。このルールはそれら多額の資金を出資しているスポンサー企業の広告を保護するというのが目的である。また、競技者をいたずらに広告塔にしないということも目的となっている。

ここでは競技会の運営に関わる競技者や審判員の服装に関する規定について説明する。衣類に関する規定において、ロゴマーク・製造会社名の大きさは、いずれの場合も着用した状態でのものである。

- (1) 競技者の広告：衣類にのみ可能、ボディーペインティング、刺青、髪の毛を剃ることによる広告は禁止。
- (2) 上半身の衣類（ベスト・レオタード）：製造会社名＝面積 $30\text{cm}^2$  1カ所。文字の高さは4cm以内、トータルのロゴの高さは5cm以内。
- (3) 上半身の衣類（Tシャツ・トレーナー・レインジャケット等）：製造会社名＝面積 $40\text{cm}^2$  1カ所。
- (4) 下半身の衣類：製造会社名＝面積 $20\text{cm}^2$  1カ所、高さ4cm以内。
- (5) ソックス：製造会社名＝面積 $6\text{cm}^2$  1カ所、高さ3cm以内。
- (6) その他の衣類：ヘッドギア・手袋・アームバンド・サン



グラス等：製造会社名は製品1つにつき1カ所で面積は6cm<sup>2</sup>以内。

(7) バッグ：製造会社名＝面積25cm<sup>2</sup> 以内で2カ所まで。

(8) 用器具類：

○投てき用器具・ポール・バトン・スターティングブロック等＝高さ4cm以内で2カ所。

○ランディングマット：高さ10cm以内で4カ所。

○ハードルと障害物：高さ5cm以内。

(9) 役員の服装：競技者に準ずるが、上半身の衣類は競技者より大きくなっている。製造会社名＝面積40cm<sup>2</sup> 1カ所、文字の高さは4cm以内、トータルのロゴの高さは5cm以内。

以上の規定は、IAAFの競技会では広告コミッショナーが責任者となって取り締まるが、国内では適用していないので通常は総務・総務員の管轄となる。競技者については、まず競技者係で点検し、競技場内に入ってからトラック・フィールドの全審判員が注意をしなくてはならない。

違反している競技者には衣類を替えさせるか、代替物がな

い場合はテープなどでマスクングする必要がある。国体などのスローガンが記された記念シールがあるとロゴマークをシールで隠すにしても喜ばれるので用意できるとよい(写真参照)。

<2015年4月1日より>

日本学生陸上競技連合、全国高等



学校体育連盟および日本中学校体育連盟に加盟している学校の、学校名／マークについては、大きさについて制限は設けない事となっているが、表示できる箇所は「衣類の前部及び後部にそれぞれ1カ所まで」と定められているので注意が必要である。

## スタンドからの怪しげな撮影行為に対する対応

関係者以外の怪しげな撮影に対しては、以下のような対策が考えられる；

- 1 そのような撮影を可能にする場所は「撮影禁止区域」とし、張り紙などで周知する。
- 2 仮に怪しい人物がいた場合、マーシャル・総務員などが撮影を遮るような位置で往復するなど、撮影が困難になる状況を作り出す。
- 3 女子走高跳の着地場所はトラック側に設置し、直近のスタンド側からは背面しか写せないようにする。
- 4 フィニッシュしたランナーの腰ナンバー回収の際、できるだけ迅速にランナーをスタンドから見えない場所に誘導する。フィニッシュ後に倒れこんですぐに動けないような場合は、補助員（できれば女性が好ましい）の協力を得ながら、できるだけ撮影を遮ることのできる位置取りをしてもらう。駅伝など道路競技の場合は、救護場所を幕で囲うなど外から見えないようにすることも効果がある。
- 5 また、以下のような場所も可能性があるので、マーシャルや総務員は注意が必要である；
  - ① 走幅跳・三段跳の砂場の延長線上
  - ② ハードルの正面
  - ③ 障害物競走の水濠付近

とはいえ、当然善意の撮影者の場合もあるので「熱心に撮影されていますね。選手のご家族の方ですか（選手の学校関係者の方ですか）？」などの声掛けも牽制効果がある。

それでも続く場合は、「昨今は疑われることがあるので」と説明し、少し場所を移動してもらうなどの対応をお願いする。

いずれにしても落ち着いて丁寧に対応することが肝要であり、ご家族や競技関係者であればすぐに理解してくれるであろう。

# 進行担当総務員

## 1 任務

進行担当総務員の任務は、競技規則第122条に記載されている総務の任務の中から、競技会進行に関する部分について分担し、代行することである。

進行担当総務員の任務分担や人数は、競技会の規模や性格、競技種目数などを条件として決定する。

特に大規模競技会においては、一つの種目を行うのにも数種以上の競技役員が関与しており、関連する部署間の連携を密接なものにするために、調整役として、進行担当総務員を設定する必要がある。

以上のような観点から、おおよそ次のように分けている例が多い。

総括担当（全体進行担当）

トラック進行担当

フィールド進行担当（跳躍担当、投てき担当）

表彰・式典担当

## 2 任務分担と留意点

### (1) 総括担当進行総務員の任務と留意点

① 競技会の準備段階において、イベント・プレゼンテーション・マネージャー（EPM）の役割も一部担いながら、主としてプログラムの円滑な進行という視点から総務に各種進言を行ない、了承と委任を受ける。

(a) タイムテーブルの検証と調整。

表彰式、フィールド競技、トラック競技の同時刻設定に注意する。

(b) 電光掲示板、映像、スコアボードの表示方法とアナウンスの連携について事前調整。

アナウンスの省力化ルール、用語の統一、アナウンススクリプトの作成。

(c) 総括進行表の策定と決定。

主要役員配布用の総括進行表を作成し、総務の承認を得て配布。

(d) 観衆・テレビ中継対応

- (イ) 写真判定結果をライブで電光掲示板に表示したり、フィールド競技終了直後に結果を表示したりする場合には、その運用方法などについて、事前に関係審判員（長）の了解を得る。
  - (ロ) 場内インタビューが行われる場合のカメラ位置や音声の調整。
  - (ハ) テレビ中継が行われる場合、中継局ディレクターとの連絡調整。
- ② 競技中に発生しうるすべての事項について状況を把握し、総務（担当総務員）と調整のうえ、プログラムが順調に進行するように連絡調整を行なう。
- (a) 競技役員，補助役員の配置状況。
  - (b) マーシャル（Marshal:場内司令），場内整理状況。
  - (c) 競技者係・招集所の状況。
  - (d) 記録・情報処理員の作業状況  
（記録作成状況，成績記録の流れ方，記録管理，新記録申請，記録の発表）
  - (e) アナウンスならびにアナウンス方法。
  - (f) 記念品，賞状，表彰方法。
  - (g) 医師，救急関係措置。
  - (h) 報道関係との折衝，インタビューなど報道に関する措置。
  - (i) 雨天，荒天対策（用器具係との連携）。
  - (j) 広告商標違反者への措置（競技者係・フィールド競技審判員との連携）。
- (2) トラック進行担当総務員の任務と留意点  
次の事項についてその状況を確認し，プログラムが順調に進行するように配慮する。
- ① トラック競技進行計画表の作成と進行結果の記録。  
競技日程が進行計画表通り進んでいるか。遅れている場合どのように回復させるか。
  - ② 招集，誘導方法，ナンバーカード（胸・背・腰）の準備状況。
    - (a) 招集は予定通り完了し，予定通りの組数ずつ誘導されているか。

- (b) スタートライン付近に早く誘導された競技者が溜まっているか。スタートライン付近で勝手に練習していないか。
- (c) リレー競技の2～4走者用のマーカーは用意されているか。
- ③ 施設の整備状況、各ラインなど。
  - (a) スタートライン、テーク・オーバー・ゾーンライン、ブレイクライン、フィニッシュライン等が正しく引かれているか。
  - (b) ブレイクラインマーカー、オープン旗等が正しく設置されているか。
  - (c) スタートライン付近に凸凹はないか。
  - (d) 3,000m障害物の水濠の状況はどうか。
- ④ 用器具の準備状況（レーンナンバー標識、スターティング・ブロック、スターター台、ハードルの数・位置、周回表示板等）。
- ⑤ 写真判定装置、途中計時装置、速報計時装置の整備状況。
- ⑥ トラック関係記録用紙、流し用紙の流れ方。
- ⑦ トラック競技関係役員の入退場、配置状況。
  - (a) 隊列行進がなされているか。
  - (b) 予定時間に配置が完了しているか。
- ⑧ トラック競技関係役員の連携状況（トラック審判長、競技者係、出発係スターター、監察員、競歩 審判員、周回記録員、写真判定員、風力計測員、用器具係、アナウンサー）。
  - (a) スタート側の準備状況。スタートできる態勢か。
  - (b) フィニッシュ側（写真判定員）の準備状況。
  - (c) 出場競技者は誤りなくアナウンスされたか。
  - (d) 通過タイムの発表。ブレイクラインマーカーの撤去。周回表示、最終回の鐘。
- ⑨ 競技終了後の関係役員の対応状況、特に記録の正確、迅速な処理。
  - (a) 決勝審判員、計時員の記録集計。写真判定員からの結果連絡。
  - (b) 記録の速報表示、アナウンス内容。
- ⑩ 風向風速に関する種目の記録。
- ⑪ 黄旗があがったときの措置。
- ⑫ 新記録が出たときの措置。

トラック進行担当総務員は、無線やインカムなどの通信機器が備わっていて、関係部署への連絡回線が確保される競技場の場合には、なるべく全体の流れが見渡せるスタンドの最上階に位置し、アナウンサーと同席した方がよい。

競技時間の進行状況、競技役員の配置、活動状況、参加競技者の誘導ならびに練習状況、施設用器具の設置状況などを詳細にチェックして、プログラムが順調に進行しているかについて、たえず細かい配慮をする。また、進行計画表を作成、携帯し、1組毎の競技開始、終了、速報発表、記録発表時刻を記録する。

### (3) フィールド進行担当総務員の任務と留意点

次の事項についてその状況を確認し、プログラムが順調に進行するように配慮する。

#### ① フィールド競技進行計画表の作成と進行結果の記録。

競技日程が進行計画通り進行しているか。遅れている場合などのようにして回復させるか。

#### ② 招集、誘導方法、ナンバーカード（胸、背）の準備状況。

招集は予定通り完了したか。誘導は予定通り行われているか。

#### ③ 施設の整備状況。

(a) 跳躍種目では、砂場やマットの整備状況。助走路、踏切板。

(b) 投てき種目では、サークル、踏切線、囲いの状況。投てきエリアや距離ライン。

#### ④ 用器具、機材の準備状況。

判定用紅白旗、鋼製巻尺、記録用机、競技者用休憩長椅子。走高跳・棒高跳用支柱、バー、高度計。

砲丸・円盤・ハンマー・やり等の投てき器具。

足ふきマット、炭酸マグネシウム、サークル清掃用具。

距離表示器、ペグ、助走用マーク、吹き流し、記録表示器等。

#### ⑤ 危険防止の措置（ウォームアップ場、投てき場所）。

投てき種目のウォームアップ場がない場合、入場後にフィールド内で各競技者に同じ回数だけ練習させる。勝手に練習させない。

#### ⑥ フィールド競技関係記録用紙、流し用紙の流れ方。

#### ⑦ フィールド競技関係役員の入退場、配置状況。

- ⑧ 競技者の競技場入場時刻と練習方法。  
公平に練習が行われているか。時間はどうか。投てき練習に危険はないか。
- ⑨ 関係役員の連携状況。
- (a) 呼び出し係のタイミング。1回の所要時間の測定。明瞭な判定。距離測定の手際。
  - (b) 走幅跳・三段跳では、風向風速の記録伝達。
  - (c) 記録表示器の見やすさ。
  - (d) トップ8の選出。
- ⑩ 競技進行途中の成績の表示方法。  
記録表示器の有効利用（順位・記録表示板を利用する方法もある）。
- ⑪ 競技終了後の関係役員の対応状況，特に記録の正確，迅速な処理。記録担当審判員は記録した用紙を審判長に署名してもらい，本部記録主任に提出。記録主任はコピーをアナウンサーへ配送し発表。
- ⑫ 新記録が出たときの措置。
- ⑬ 進行計画表による進行管理。
- ⑭ 競技者の衣類，持ち物の広告商標の点検。  
フィールド進行担当総務員は，トラック進行担当総務員と同様，なるべく全体の流れが見渡せるスタンド最上階に位置し，アナウンサーと同席した方がよい。  
競技の進行状況，競技役員の配置，活動状況，参加競技者の誘導ならびに練習状況，施設用器具の設置状況などを詳細にチェックして，プログラムが順調に進行しているかについて，たえず細かい配慮をする。また進行計画表を作成，携帯し，入場，練習開始，競技開始，終了時刻，各ラウンドの所要時間，試技回数，記録発表時刻等を記録する。

### 3 競技日程の遅延原因

一つの種目を実施するにも，多数の審判員がそれぞれの分担した任務により活動しているのが陸上競技会の特徴の一つである。それゆえ競技会の円滑な運営には，審判員相互の連携が必要である。1箇所でも任務が滞れば全体が遅延することとなり，競技者だけでな

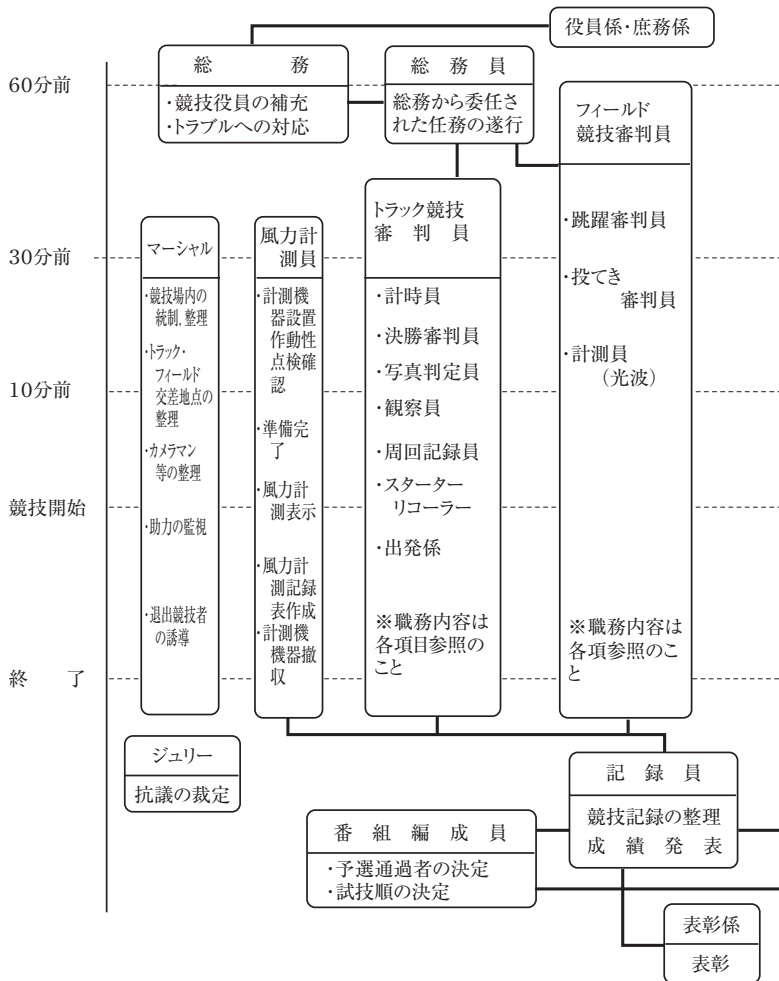


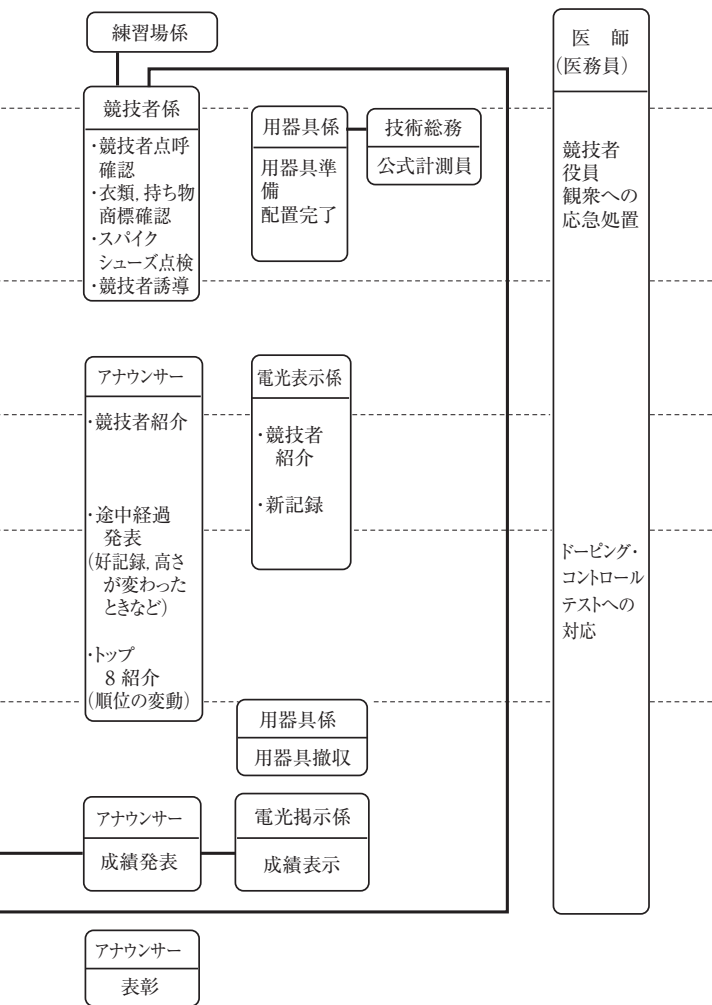
く、観衆にとっても集中を欠いた盛り上がりがない競技会となってしまふ。

以下に、過去の事例から遅延等のトラブルの原因を例示する。

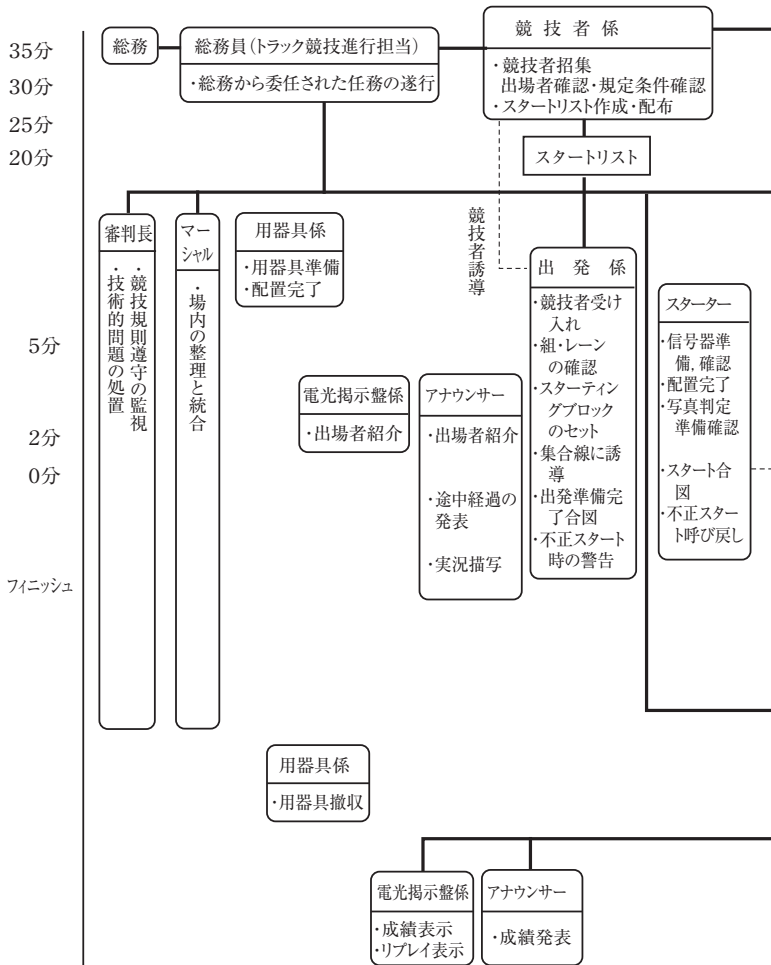
- (1) 競技者に入場遅延（競技者係）
- (2) 器具、施設の準備不十分。ラインの引き直し、スターティングブロック、バトン、ハードルの置き違い等（技術総務、公式計測員、用器具係）。
- (3) 役員の入場遅延・準備遅延。
- (4) リレー種目での第2走者以降の準備不十分（出発係）。
- (5) 流し記録用紙の遅延（番組編成員、競技者係）。
- (6) 競技者紹介の不十分（アナウンサー、電光掲示係）。
- (7) スターターと決勝主任、写真判定員との連絡不十分。
- (8) 途中計時時間発表の拙劣（アナウンサー）。
- (9) 計時・順位判定の遅延（計時員、決勝審判員、写真判定員、審判長）。
- (10) 速報発表の遅延（計時員、決勝審判員、写真判定員、アナウンサー）。
- (11) 成績発表の遅延（計時員、決勝審判員、写真判定員、記録・情報処理員、総務、審判長、番組編成員、アナウンサー）。
- (12) 雨天・荒天のための遅延（各審判員の雨天服装、器具器材の防雨態勢）。
- (13) 競技者に対する練習の不徹底（跳躍審判員、投てき審判員）。
- (14) 競技時間、順序の指示不十分（フィールド審判員の中の呼び出し担当）。
- (15) 開始合図の不徹底（跳躍審判員、投てき審判員）。
- (16) 競技役員の判定、計測動作の緩慢（跳躍審判員、投てき審判員）。
- (17) 記録表示方法の不十分（跳躍審判員、投てき審判員）。
- (18) TOP8発表の遅延（フィールド審判中の記録担当員、アナウンサー）。

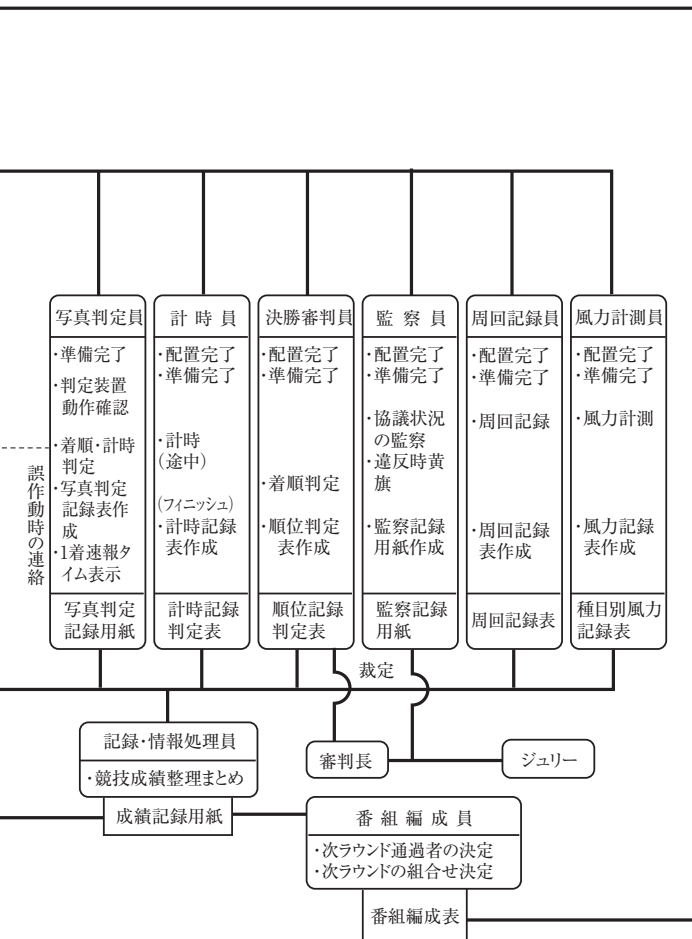
# 競技の進行と総務系統競技役員間の連携



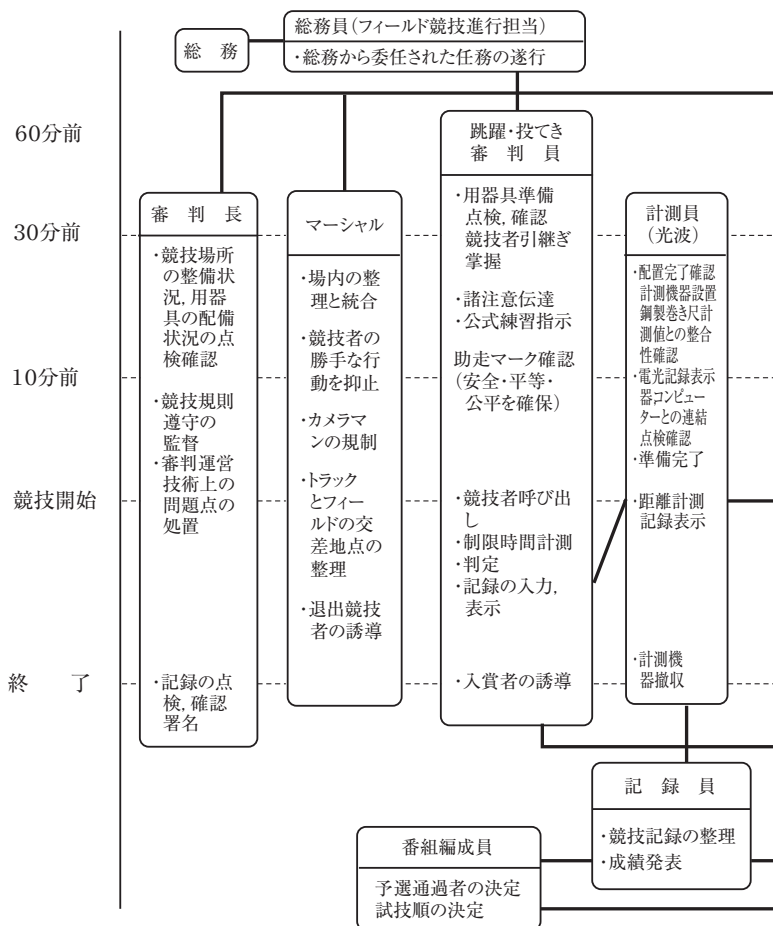


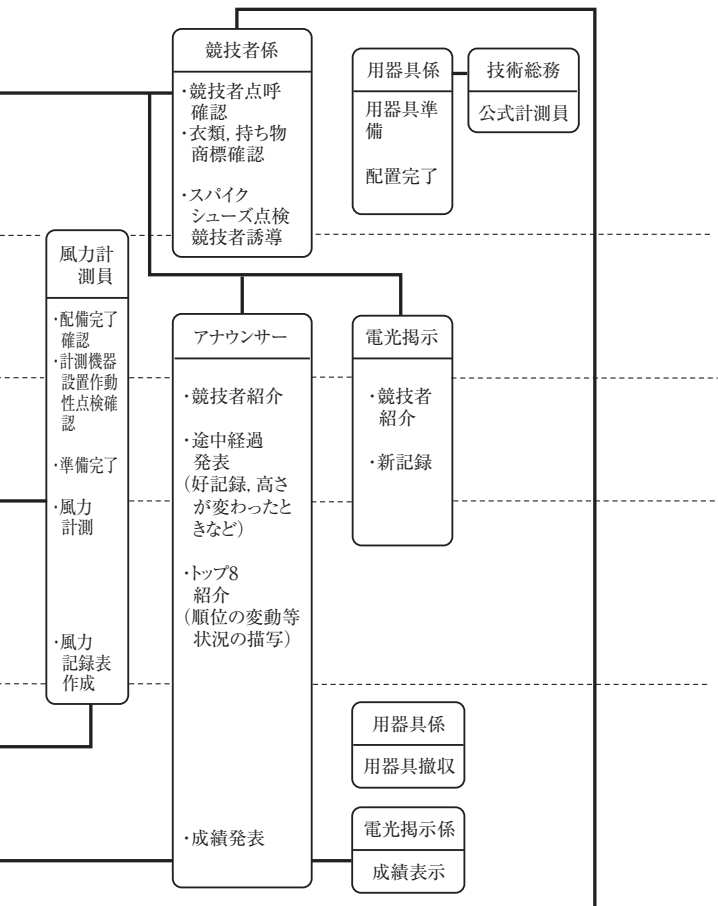
# トラック競技の進行と競技役員間の連携





# フィールド競技の進行と競技役員間の連携





# 総括進行表の例① (第94回日本陸上競技選手権大会進行表)

第2日目 6月11日(土) TV放映 NHK総合:16:00~18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技順序								
					誘導時刻	競技紹介	スタンバイ	S		R		S R	
								予定時刻		実行時刻		実行時刻	
		(担当役員)			招集	アナ	出発	アナウンス					
14:00	14:00	女 800m 予選 (3-2+2)	1組		13:45	13:57	13:58	58	14:03	14:03	14:04		
	14:07	女 800m 予選 (3-2+2)	2組			—	14:05	05	10	10	11		
	14:14	女 800m 予選 (3-2+2)	3組			—	14:12	12	17	17	18		
	14:19	プラス2 決勝リスト発表											
	14:25	男 800m 予選 (3-2+2)	1組		14:10	14:22	14:23	23	28	28	29		
14:30	14:32	男 800m 予選 (3-2+2)	2組			—	14:30	30	35	35	36		
	14:39	男 800m 予選 (3-2+2)	3組			—	14:37	37	42	42	43		
	14:44	プラス2 決勝リスト発表											
	15:00	男 110mH 準決 (2-4)	1組	8	14:45	14:57	14:58	58	15:01	15:01	15:02		
	15:06	男 110mH 準決 (2-4)	2組	8		—	15:04	04	07	07	08		
	15:10	決勝リスト 発表											
	15:25	女 100m準決 (2-4)	1組	8	15:10	15:22	15:23	23	26	26	27		
15:30	15:31	女 100m準決 (2-4)	2組	8		—	15:29	29	32	32	33		
	15:35	決勝リスト 発表											
15:45	15:45	女 3000SC 決勝		16	15:30	15:41	15:42	42	57	57	59		
16:00													
16:05													
	16:15	男 3000SC 決勝		9	16:00	16:12	16:13	13	25	25	26		
16:30													
	16:35	女 1500m 決勝		12	16:20	16:32	16:33	33	40	40	41		
	16:45	男 1500m 決勝		12	16:30	16:42	16:43	43	50	50	51		
	16:55	女 400m 決勝		8	16:40	16:52	16:53	53	56	56	57		
17:00													
	17:10	男 400mH 決勝		8	16:55	17:07	17:08	08	11	11	12		
	17:25	男 110mH 決勝		8	17:10	17:22	17:23	23	26	26	27		
17:30													
	17:35	男 200m 決勝		8	17:20	17:32	17:33	33	36	36	37		
	17:50	女 100m 決勝		8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52		
18:00													
18:30													



S: スタートリスト紹介、映: リプレイ、速: 記録速報、R: 結果報告、Eは掲示終了、数字は発表時間

表彰	大型掲示			時刻	フィールド競技						表彰
	S	R	E		跳躍			投てき			
					女三段跳	男棒高跳	男走幅跳	女砲丸投	女やり投	男ハンマー投	
表彰	大型掲示板			人数	18	11	20	15	13	13	
				14:00							
					19 表彰						19女:三段跳
						紹介					
	23	29		14:30		競技開始					
	30	36					招集完了				
	37	43		14:40			練習開始				
									44 表彰		44女:やり投
	58	15:02		15:00							
	04	08									
							紹介				
				15:15			競技開始				
										招集完了	
	23	27									
	29	33		15:30							練習開始
16:58	42	59									
											紹介
				16:00							競技開始
				16:05		競技終了					
						結果発表					
17:04	13	26									
							Top 8				
				16:30							
17:17	33	41									
17:28	43	51								Top 8	
				16:50			競技終了				
17:41	53	57					結果発表				58女:3000SC
				17:00		01 表彰					01男:棒高跳 04男:3000SC
17:53	08	12									17女:1500m
											競技終了
18:00	23	27									結果発表 28男:1500m
				17:30							
	33	37					38 表彰				38男:走幅跳 41女:400m
	48	52									
				18:00							53男:400mH 00男:110mH
										03 表彰	03男:ハンマー投
											10男:200m 20女:100m
				18:30							

総括進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会進行表)

第3日目 6月12日(日)

TV放映 NHK総合:16:00~18:00(予定) Live

時刻	開始時刻	競技種目等	ラウンド	人数	トラック競技			S	映	速	R				
					誘導時刻	競技紹介	スタンプハイ					予定時刻			
												招集	アナ	出発	アナウンス
14:30															
	14:45	女 100mH 準決 (2-4)	1組	8	14:30	14:42	14:43	43	46	46	47				
	14:51	女 100mH 準決 (2-4)	2組	8		14:48	14:49	49	52	52	53				
	14:55	女 100mH 決勝リスト発表													
15:00															
	15:15	男 100m 準決 (2-4)	1組	8	15:00	15:12	15:13	13	16	16	17				
	15:21	男 100m 準決 (2-4)	2組	8		15:18	15:19	19	22	22	23				
	15:25	男 100m 決勝リスト発表													
15:30	15:30	女 400mH 決勝	1組	8	15:15	15:27	15:28	28	32	32	33				
	15:45	女 800m 決勝	1組	8	15:30	15:42	15:43	43	48	48	49				
16:00															
	16:05	男 800m 決勝	1組	8	15:50	16:02	16:03	03	08	08	09				
	16:15	男 400m 決勝	1組	8	16:00	16:12	16:13	13	16	16	17				
16:30	16:30	女 200m 決勝	1組	8	16:15	16:27	16:28	28	31	31	32				
	16:45	女 100mH 決勝	1組	8	16:30	16:42	16:43	43	46	46	47				
17:00	17:00	女 5000m 決勝	1組	21	16:45	16:55	16:57	57	17:18	17:18	17:20				
		スタート後紹介				16:58	16:59	17:00	17:18	17:18	17:20				
	17:25	男 5000m 決勝	1組	44	17:10	17:20	17:21	21	41	41	46				
17:30		スタート後紹介				17:23	17:24	25	41	41	46				
	17:50	男 100m 決勝	1組	8	17:35	17:47	17:48	48	51	51	52				
18:00															
18:30															
19:00															

S: スタートリスト紹介、映: リプレイ、速: 記録速報、R: 結果報告、Eは掲示終了、数字は発表時間

S	R	表彰	大型掲示			時刻	フィールド競技					表彰	
			S	R	E		跳躍		投てき				
実行時刻		表彰	大型掲示版			人数	男走高跳	女走幅跳	女円盤投	男砲丸投	男やり投		
						14:30	競技開始	22	19	16	13	22	30女:円盤投
									30 表彰				
						14:50							招集完了
						15:00					00 表彰	練習開始	00男:砲丸投
						15:15	紹介 競技開始						
				13 19	17 23								
			16:18	28	33	15:30							紹介 競技開始
			16:22	43	49								
						16:00							
			16:48	03	09								
			16:51	13	17								18女:400mH 22女:800m
			18:15	28	32	16:30	競技終了 結果発表						
			17:30	43	47								48男:800m
						16:50							51男:400m
			17:43	57	17:20 17:20	17:00							
						17:20							競技終了 結果発表
			18:11	21 25	46 46	17:30							30女:100mH
													43女:5000m
			18:25	48	52								
						18:00	00 表彰	03 表彰					00男:走高跳 03女:走幅跳 06男:やり投 11男:5000m 15女:200m
													25男:100m
						18:30							
						19:00							

# フィールド競技進行表の例① (第94回日本陸上競技選手権大会跳躍進行表)

第3日目 平成23年6月12日(日)

TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
14:30	男 走高跳	B	22	予定時刻	13:30	13:40	13:50	13:52	13:55	14:25	14:30	2m05
				実施時刻								
				見 所 有 望 選 手	日本記録 2m33(2006:90回日本選手権) 鹿嶋直幸(富士通)			鹿嶋直幸 PB 2m33 3連覇を含み5回優勝 高雲広海(日立ICT)PB 2m24 前年度優勝				
					大会記録:同上			戸邊 直人(筑波大)PB 2m24 土屋 光(ソニー) PB 2m25 92回大会優勝				
15:15	女 走幅跳	メイン	19	予定時刻	14:15	14:25	14:35	14:40	14:45	15:10	15:15	15:15
				実施時刻								
				見 所 有 望 選 手	日本記録 6m86(2006:国際GP大阪) 池田(現・井村)久美子(スズキ)			梶見 映智子(九重工)PB 6m65 山 紗英子(山口TFC)PB 6m56				
					大会記録7m03(74回) R.レズナイ(ソ連) 日本人最高:6m82(85回)花園麻帆(ofc24)			井村(旧:池田)久美子(IDEAR) SB:6m54				

# フィールド競技進行表の例② (第94回日本陸上競技選手権大会投てき進行表)

第3日目 平成23年6月12日(日)

TV放映 NHK総合 16:00 ~ 18:00 (生中継)

競技順序		競技場所	参加人数	進行項目	準備			備			競技開始	1回目開始
開始時刻	競技種目				諸準備完了	審判員配置完了	招集完了	競技者到着	練習開始	競技紹介選手紹介		
12:30	女 円盤投	A	16	予定時刻	11:30	11:40	11:50	11:55	12:00	12:25	12:30	12:30
				実施時刻								
				見 所 有 望 選 手	日本記録 58m62(2007:中部実業団) 室伏由佳(スズキ)			室伏由佳:9連覇中(全11回優勝)				
					大会記録59m94(75回)関春風(中国) 日本人最高 56m36(88回) 室伏由佳(スズキ)							
13:00	男 砲丸投	B	13	予定時刻	12:00	12:10	12:20	12:23	12:25	12:55	13:00	13:00
				実施時刻								
				見 所 有 望 選 手	日本記録 18m64(09:新潟国体) 山田壮太郎(法大)			山田壮太郎(富士通)PB 18m64 畑瀬 聡(群馬総合)PB 18m56				
					大会記録 18m56(90回) 畑瀬 聡(総合)PB			村川洋平(スズキ浜松AC)PB 18m43 大橋 忠司(チームスズキ)PB 17m94				
15:30	男 やり投	A	22	予定時刻	14:30	14:40	14:50	14:55	15:00	15:25	15:30	15:30
				実施時刻								
				見 所 有 望 選 手	日本記録 87m60(1989:国際GP) 溝口和洋(ゴートウイ)			村上 幸史(スズキ浜松AC)PB 83m15 11連覇中				
					大会記録 81m70(73回) 溝口和洋(ゴートウイ)			デーモン元氣(早大)PB 79m10 井 謙(七十七銀行)PB 78m86				

競			技						結 果		備考
2回目 開始	3回目 開始	3回目 終了	トップ8 発表	4回目 開始	5回目 開始	6回目 開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	表彰開始	
2m10	2m15	2m19	2m22	2m25	2m28					18:00	
15:35	15:55	16:15	16:18	16:20	16:30	16:40	16:50	1' 35	16:55	18:03	

競			技						結 果		備考
2回目 開始	3回目 開始	3回目 終了	トップ8 発表	4回目 開始	5回目 開始	6回目 開始	競技終了	競 技 所要時間	結果発表	表彰開始	
12:45	13:00	13:15	13:18	13:20	13:30	13:40	13:50	1' 20	13:55	14:30	
13:15	13:30	13:45	13:48	13:50	14:00	14:10	14:20	1' 20	14:25	15:00	
15:55	16:20	16:45	16:48	16:50	17:00	17:10	17:20	1' 50	17:25	18:06	

## インカム配置の例（東京国体）

MMM		有線				有線・無線				トランシーバー	PHS
		1	2	3	4	5	6	7	8		
1	総務統括								SS-8		1
2	技術総務								SS-8		1
3	ジュリー（上訴）								SS-8		
4	トラック審判長					BR-5					
5	跳躍審判長									1ch	
6	投擲審判長									2ch	
7	進行統括								BP-8		
8	トラック進行			SS-3		SS-5		SS-7			
9	フィールド進行	SS-1	SS-2								
10	表彰進行				SS-4						
11	フィールド 1・跳躍	BP-1									
12	フィールド 2・跳躍	BP-1								1ch	
13	フィールド 3・跳躍	BP-1									
14	フィールド 4・投擲		BP-2								
15	フィールド 5・投擲		BP-2							2ch	
16	写真判定					SS-5	BP-6				
17	スター・リコー						BR-6				
18	スター・リコー						BR-6				
19	監察主任					SS-5	BP-6				
20	監察 1					BR-5					
21	監察 2					BR-5					
22	監察 3					BR-5				3ch × 6	
23	監察 4					BR-5					
24	出発 1							BR-7			
25	出発 2							BR-7			
26	競技者 1（トラック）			BP-3							
27	競技者 2（フィールド）			BP-3							
28	マニアル（場内指令）									4ch × 6	1
29	記録室					SS-5		SS-8			
30	周回記録					BP-6					
31	ミックスゾーン										1
32	用器具 1							BP-8			
33	用器具 2							BP-8		5ch × 3	
34	表彰				BP-4						
35	ドーピング室										
36	練習所										2
37	駐車場										1

	使用数	残	合計
BP（フィールドバック）	14	1	15
SS（スピーカーステーション）	13	2	15
BR（アレスト）・無線インカム	9	7	16
PHS	7	0	7
トランシーバー	19		

# 技術総務

## 1 任務

技術総務の任務については、競技規則第123条に記載されている。

- (1) 総務の直接指導のもとで行動し、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、フィールド競技の着地場所が正しく整備されているかを確認する。
- (2) 用器具が規格に合致しているかを確認する。
- (3) 得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。
- (4) 技術代表によって承認された競技会の技術的・組織的計画に従って用器具が準備され、設置・撤収する。
- (5) 競技会前に公式計測員から第135条に従う必要な報告を受け取る。

そして、技術総務のもとに用器具係をおき、各競技に必要な用器具を整備し、開始前に配置、終了後に撤収させる。

また、技術総務の直接指揮下に、公式計測員、用器具係（競技場整備係）などがおり、これらを掌握する必要がある。

なお、競技会に許可された個人の投てき用具の点検等は、公式計測員が行う。

## 2 競技会前の準備と留意点

- (1) 使用される競技場が、公認競技会として開催されるのに十分であるかどうか事前に調査をする。
- (2) 競技場の競技施設が「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」の各条項に基づき、競技の実施が可能であるかどうかを公式計測員に計測させ報告を求める。もし、不都合なものがあれば、競技場管理者と折衝して整備を依頼する。
- (3) 競技場の機器、機材が使用するに可能な状態かどうか、用器具係に調査検討させ、不十分なものについて競技場管理者に整備を依頼する。
- (4) 常備用器具については管理者の了解を得て用器具係に検査させ、使用可能なものとその他のものを区別する。また競技会の規模に応じて、その員数を決定し、不足の場合には補充の計画をす

る。

- (5) 競技実施種目および競技開始時刻が決定したら、競技場管理者にできる限り早く連絡し、諸準備を依頼する。
- (6) 用器具係、競技場整備係から、プログラムに基づく運営進行表を提出させて、競技の円滑な進行を図る。

### 3 競技会開始前の準備と留意点

- (1) スタートライン、フィニッシュライン、テーク・オーバー・ゾーン、各助走路の長さ、投てき角度線、投てき目標距離線等を、あらかじめ決定する。
- (2) 任命された競技役員に競技場の諸施設、用器具等の準備状況の説明をする。そのためには現地の報告に頼らず準備段階で視察・確認しておくべきである。
- (3) 用器具は、用器具係主任にそれぞれの員数を確認しつつ引き渡す。機器類は異常の有無を点検し、担当審判員に引き渡す。  
特に雨天時における準備態勢や危険防止の措置（ハンマー投の防止ネット、危険エリアへの立ち入り禁止措置）などの用意も必要である。
- (4) 全天候舗装競技場においては、トラックの各ライン、縁石、走路の傾斜状態、排水路の流水状況および助走路の状態など、公式計測員とともに競技開始前に点検しなければならない。また雨天時においては、走路、助走路の水分除去方法について、用器具係（競技場整備係）を指揮して措置する。
- (5) 公式計測員、用器具係（競技場整備係）から、それぞれの分担事項について報告を受け、正しい状態で競技が実施できることを確認し、その旨を各審判長と総務に連絡する。
- (6) 競技進行中は全般的に観察し、たえず審判長や総務と協議を重ねて競技の円滑な進行を図る。



# ジュリー (Jury：上訴審判員)

## 1 任務

ジュリーは競技規則第146条に規定された抗議について裁定し、また競技会の進行中に生じた問題のうち、その決定を付託された事項について裁定することを基本的な任務とする。その決定は最終的なものである。しかしながら、新しい事実が提出され、それが規則に適合していれば、再審議してもよい。(競技規則第146条9)

## 2 配置

全国的な競技会および国内の大規模な競技会では、通常3人または5人からなるジュリーを任命(主任1人を含む)する。国内競技大会では、ジュリーの秘書は任命しない。

オリンピック、世界選手権大会などでは、大会の規定でIAAF評議員が毎日7人ずつ交代でつくことになっている。これにならって、本連盟が主催する国内大会では、陸連理事が交代で任務にあたることになっている。

## 3 実施要領(抗議と上訴の手続きと裁定について)

### ① 競技者の資格に関する抗議の手続きと裁定

加盟団体(都道府県陸上競技協会)あるいは加入団体(クラブ、学校、職域)の責任者より、文書をもって、競技会の開始前に大会総務を通してジュリーになされなければならない。

### ② 競技の結果または行為に関する質問・抗議の手続きと裁定

(a) 担当総務員は、競技者又は代理人による質問・口頭による抗議の受付時間やその内容を記録する。

・正式発表後30分以内か、同一日に次のラウンドがある場合には15分以内まで受け付ける。

(b) 審判長に判定理由を聞き、記録し、当該者に口頭で伝える。

注) 黄旗などの措置があった場合は、その内容を事前に把握しておく迅速に対応できる。

注) 国際競技大会では競技規則第146条4、5が適用される。日本では〔国際〕扱いである。

(c) 当該者が担当総務員の回答に納得できない場合、当該者は「抗議」をおこない、審判長が当該者に判定理由を口頭で直

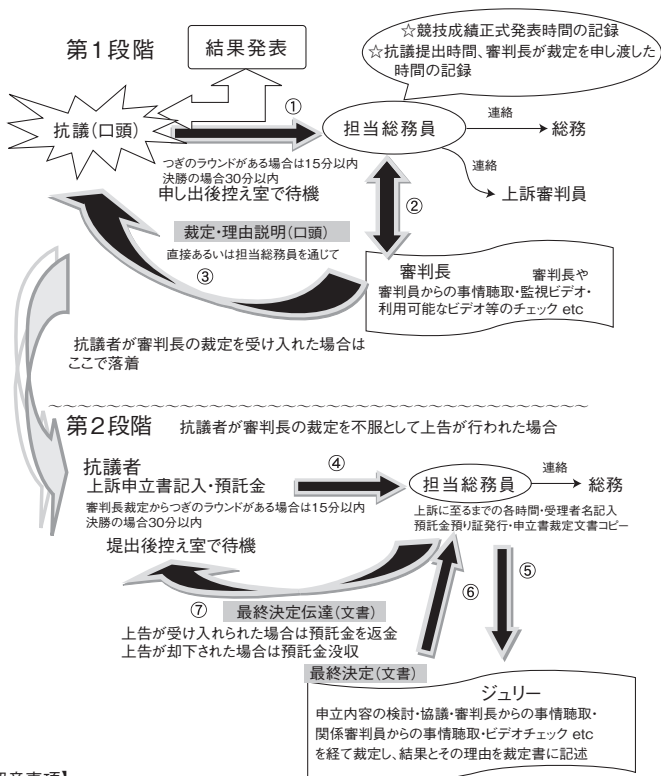
接説明し、裁定する。

- ・総務員はそれまでの対応状況や説明を実施した時刻を記録する。
  - ・総務から Jury に状況を連絡する。
  - ・抗議に部外者が介入すると、冷静な対応が阻害されるので、関係者以外の入室ができない抗議者控室を必ず設置する。
- (d) 当該者が審判長の裁定に納得できない場合、競技者に代わってそのチームの責任ある役員がさらに Jury に「上告」することができる。この場合、審判長裁定後30分以内（同一日に次のラウンドがある場合には15分以内）に、総務員に「上訴申立書」を提出し、現金10,000円を預託する。総務員は預託金預り証を発行する。総務員は審判長を経て、Jury に回付する。
- ・上訴申立書を提出した責任ある代表者（抗議者）は、裁定を待つ間、抗議者控室で待機する。
  - ・上訴申立書のひな型は次ページおよび本連盟HPを参照のこと。
- (e) Jury は、申立書に基づき関係役員より事情聴取をおこない、必要に応じて関係書類等を確認し、Jury で協議して、裁定書を作成する。総務員は裁定書の内容を抗議者に伝達する。

#### 4 留意事項

- ① 競技中の Jury の席は競技場全体が見通せるような高い場所に設置すると共に、競技本部と連絡するための通信機器を準備する。
- ② 抗議と上訴の手続きについては、競技注意事項に明記し、監督会議などで説明しておくことよい。
- ③ 抗議者控室は、可能な限り個室を用意し、落ち着ける環境を確保する。

## 5 抗議提出から最終決定までの流れ



### 【留意事項】

- ☆ 対応は常に冷静に、言葉遣いは丁寧に
- ☆ 部外者は絶対に口出ししない
- ☆ 裁定や決定は簡潔に示す
- ☆ ジュリーの協議で意見が分かれても、最終決定は総意とする
- ☆ 最終決定の伝達は、ジュリーが直接申し渡すより抗議担当総務員が粛々と行うのが良い

## 6 上訴申立書と記入例

### 上 訴 申 立 書

所 属 \_\_\_\_\_ (加盟団体名 \_\_\_\_\_)

氏 名 \_\_\_\_\_

陸上競技規則第146条により、金10,000円を預託して、下記のとおり上訴の申し立てをいたします。

#### 記

競 技 会 名 \_\_\_\_\_

年 月 日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_

種 目 \_\_\_\_\_

競技者氏名 No. \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

以下については、競技役員のための記入とする。

競技成績発表時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

口頭による抗議受理時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

審判長が裁定した時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

上訴申立書の受理時刻 \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分

#### 裁 定 書

裁定者氏名 (ジュリー主任) \_\_\_\_\_

裁定結果 \_\_\_\_\_

— — — キ — — — リ — — — ト — — — リ — — —

#### 預託金預り証

年 月 日 時 分

金10,000円を預かりました。

預り者氏名 \_\_\_\_\_ 印

2012\_03 改訂 (陸連 No.34)

## 上 訴 申 立 書

所 属 ○○ クラブ \_\_\_\_\_ (加盟団体名 ○○ 陸協 \_\_\_\_\_)

氏 名 \_\_\_\_\_

陸上競技規則第146条により、金10,000円を預託して、下記のとおり上訴の申し立てをいたします。

### 記

競 技 会 名 \_\_\_\_\_ ○○ 大会 \_\_\_\_\_

年 月 日 \_\_\_\_\_ 平成 ×× 年 × 月 ×× 日 \_\_\_\_\_

種 目 \_\_\_\_\_ 4×400mR 準決勝 第2組 \_\_\_\_\_

競技者氏名 No. \_\_\_\_\_ 147 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ △ △ ○○ \_\_\_\_\_

#### 上訴理由：

4×400mRの第2走者△△が、第2局走路の出口から直線路付近を先頭で走行中、外側から追い抜こうとした××チームの競技者が必要以上に肩や肘を入れてきたために、△△のバトンに当たって、バトンが手から落ちてしまった。

以下については、競技役員のための記入とする。

競技成績発表時刻 \_\_\_\_\_ 12 時 13 分 \_\_\_\_\_

口頭による抗議受理時刻 \_\_\_\_\_ 12 時 25 分 \_\_\_\_\_

審判長が裁定した時刻 \_\_\_\_\_ 12 時 35 分 \_\_\_\_\_

上訴申立書の受理時刻 \_\_\_\_\_ 12 時 40 分 \_\_\_\_\_

### 裁 定 書

裁定者氏名( Jury 主任) \_\_\_\_\_ 陸連 太郎 \_\_\_\_\_

裁定結果 \_\_\_\_\_ 上訴申し立ては却下する。 \_\_\_\_\_

#### 裁定理由：

監察員の報告やビデオ記録によると、追い抜いていた外側の競技者は故意に肩や肘を入れて△△競技者の走行を妨害したとは認められない。

よって審判長の裁定を支持する。

— — キ — — — — リ — — — — ト — — — — リ — — — —

### 預 託 金 預 り 証

2010 年 × 月 ×× 日 12時 40 分

金10,000円を預かりました。

預り者氏名 \_\_\_\_\_ 担当総務員 \_\_\_\_\_ ◇◇ ◇◇ \_\_\_\_\_ 印

2012\_03 改訂 (陸連 No.34)

# JTO (Japan Technical Officials)

## 日本陸連技術委員

国際陸上競技連盟 (IAAF) では、オリンピックや世界選手権などの主要競技会に於いて、技術代表 (Technical Delegates : TD) および国際技術委員 (International Technical Officials : ITO) をおいている。この ITO は、可能な限り競技が進行する各種目にそれぞれ 1 人、ITO 主任によって指名され担当することになる。

2006 年度から本連盟が主催する競技会においては原則として JTO (Japan Technical Officials) をおいている。この JTO は総務の直下に位置づけられ、ITO に準じた任務を行う。

### 1 任務 (ITO : 競技規則第 115 条)

- (1) ITO はその種目の審判長に必要な支援を行い、競技が IAAF 競技規則と競技会規則ならびに技術代表の最終決定に従って行われるようにする。
- (2) 競技の進行をいかなる方法においても妨げてはならないが、問題が起こったときや意見を述べる必要がある場合は、審判長に注意を促し、必要に応じて助言する

### 2 陣容

2013 年度資格試験合格者 10 名を加え、2015 年 3 月末現在 44 人が有資格者と登録され、JTO として本連盟主催・後援大会などで各種支援を行なっている。

# JTO（日本陸連技術委員）の派遣基準と 競技会での任務

## 1 派遣基準

- (1) 本連盟主催競技会には原則として3名のJTO（内1名は本連盟競技運営委員会所属）を主管陸協に派遣する。
- (2) 本連盟後援競技会には、主管陸協から要請があった場合に必要数を派遣する。
- (3) 派遣経費を考慮し、極力、主管陸協や近隣陸協所属のJTOを選任する。
- (4) 全てのJTOを少なくとも1年度1回は本連盟主催・共催・後援競技会に派遣する。

## 2 任務

- (1) 原則として本連盟競技運営委員会所属のJTOが主任を務め、招集所・トラック・跳躍・投てきの各部署の担当JTOを決定する。混成競技大会の場合は、男女に分かれて、それぞれの全種目を同一JTOが担当する。
- (2) 競技会総務・総務員との連携を密にして審判長に必要な支援を行い、競技が本連盟競技規則と競技会申し合わせ事項、競技注意事項ならびに競技会総務の最終決定に従って行われるよう、審判長を補佐することを最も重要な任務とする。
- (3) 競技開始に先立ち、競技場所に必要な用具・機材が準備されているかどうかを点検・確認する。
- (4) 競技の進行を妨げてはならないが、問題が起こった時や意見を述べる必要がある場合は審判長に注意を促し、必要に応じて助言する。

## 3 報告義務

- (1) 派遣されたJTOは、競技会終了後2週間以内に、本連盟専務理事と本連盟競技運営委員長を宛先（併記）とする報告書を作成して、本連盟競技運営委員長に提出する。
- (2) 報告書はA4版2枚程度とし、Word等のワープロソフトを用いて作成したものを、極力、メール添付ファイル（電子データ）

で送信する。

- (3) 報告書の内容は自由とするが、抗議があった事項や上訴に上がった事項がある場合は、必ず、その経緯と裁定結果を記載する。



# JRWJ (Japan Race Walking Judges)

## 日本陸連競歩審判員

### 1 IRWJとJRWJ

国際競歩審判員 (IRWJ:International Race Walking Judge) は IAAFが育成認証する競歩審判員資格で、IAAFレベルと Area (地域) レベルがある。IAAFレベルは、Areaレベルを取得後1年以上経過したのち、IAAFが行う INTERNATIONAL RACE WALKING JUDGES EVALUATION SEMINAR (IRWJES:国際競歩審判員評価講習会) で IAAFが定める基準に合致したものに与えられる資格である。近年では IRWJES で行う3種 (筆記、歩型判定、面接) の試験での得点が概ね各80%以上でなおかつ上位30名にのみ与えられている。Areaレベルの資格は各国の競歩審判員資格 (レベルI:日本では JRWJ すなわち日本陸連競歩審判員) 取得者が、本連盟の推薦を受けて、RDC (Regional Development Center:アジアでは北京とジャカルタの2か所) で行われるセミナーに参加し、IRWJ同様3種の試験を行い、その得点がそれぞれ概ね80%以上のものに与えられる。アジア地域では20数名がその資格を持ち、日本には2名いる。IAAFレベル、Areaレベル共に4年に一度更新試験が行われており、終身資格ではない。定年は70歳である。

JRWJは本連盟が認証した資格で、本連盟の主催、共催競技会では必ず任命しなければならない (競技規則第230条2)。JRWJ育成セミナー (JRWJ規程第3条) では IAAF国際競歩委員会の基準に準じて競歩審判員を JRWJとして認証しており、その判定技能は国際レベルである。JRWJには上級資格としてS級があり、IRWJと本連盟が定めた試験に合格したものに与えられる (JRWJ制度施行細則第7条)。なお、JRWJは全国各地でその判定技能や競歩競技の運営方法について普及する役目も担っているため、競歩競技会ではこれらの JRWJを活用していただきたい。

### 2 JRWJの派遣基準

本連盟が主催共催する競技会への JRWJの派遣は、開催される会場の地域性を勘案して競技運営委員長が決定し、委嘱する。派遣者

は担当委員が原案を作成し、審判部長が調整する。原則として競技会に派遣する JRWJ のうち 3 名以上は S 級 JRWJ とする (JRWJ 制度施行細則第 6 条)。

### **3 JRWJ の報告義務**

本連盟より協議会に派遣された JRWJ は任務完了後、2 週間以内に派遣 JRWJ 全員もしくは代表者がとりまとめ所定のレポートを提出しなければならない (JRWJ 制度施行細則第 8 条)。

## テクニカル・インフォメーション・センター (TIC)

テクニカル・インフォメーション・センター (Technical Information Centre, TIC) は、大規模の国際競技大会 (オリンピック, 世界選手権, ユニバーシアード, アジア大会, アジア選手権など) において設置される部署である。国外ではロサンゼルス・オリンピック大会 (1984) で、国内では東京世界陸上競技選手権大会 (1991) で最初に設置された。

その後、広島アジア大会 (1994)、福岡ユニバーシアード大会 (1995)、前橋世界室内陸上競技選手権大会 (1999)、大阪東アジア大会 (2001)、福岡世界クロスカントリー選手権大会 (2006)、大阪世界陸上競技選手権大会 (2007) において設置され、有効に機能した。

### 1 任務

TICの任務は、競技会がIAAF規則に沿って円滑に運営されるように、各選手団 (監督・コーチ・選手) と競技役員 (組織委員会, IAAF技術代表等) の間に立って、必要な情報を関係者に提供することである。

### 2 配置

通常、TICは、選手村と競技場に配置されるが、選手村や競技場の設置条件によって両者の業務内容に多少の違いがある。以下に主な業務内容を示す。

### 3 業務内容

#### (1) 入村手続き時

テクニカルガイドブック (または、チームマニュアル)、ビジョンボックスの鍵、競技運営に関する質問紙、監督会議入場章、最終確認書、リレーオーダー用紙、上訴申立書、ナンバーカード等を配布する。

#### (2) 監督会議 (テクニカル・ミーティング)

会場内のレイアウトの確認、入場者のチェック、同時通訳者への情報提供、監督会議における質疑応答の整理。

#### (3) ユニフォーム撮影

各選手団の競技会用ユニフォームを撮影し、アルバムに整理し

て総務（技術代表）、表彰係、競技者係に配布する。TICにも保存しておく（注：競技会では撮影されたものだけが着用できる）。

(4) 最終確認

当該種目の全エントリー者の出場確認を、決められた時刻までに行い、技術代表に渡す。

(5) 情報提供

スタートリスト、リザルト、総務や技術代表からの（緊急）連絡事項、デイリープログラム、練習場案内等を掲示すると同時に、各選手団のピジョンボックスに投函する。

(6) 競技中

競技に関する質問、抗議・上訴の対応（総務、審判長、技術代表への連絡）、上訴裁定の発表、リーレーオーダーの受け取り、ナンバーカード紛失の際の再発行、ドーピング・コントロール・テストの付添者への連絡・対応、競技場に持ち込めない物（携帯型音楽プレーヤー等）の保管・返却。

(7) 競技者（選手団）の要望を取り次ぐ。

(8) その他、マラソンのスペシャルドリンク用容器の提供、競技場や練習会場への競技者やポール輸送、記録証明書の受付等を行う。情報提供のための掲示板やピジョンボックスの管理など。

#### 4 留意事項

(1) 競技会における広告および展示物に関する規定（2014年4月修改正）および日本陸連競技規則と IAAF 競技規則の相違点（国際）の確認、大会要項などを熟知しておく。

(2) 各選手団の入国（入村）、帰国（退村）を把握する。特に監督会議以降に入村するチーム（選手）に注意する。

(3) ウォームアップからドーピング検査までの競技者の一連の流れを心得ておく。

(4) 抗議・上訴の受付は、特別のスペースを確保しておき、そこで落ちついて丁寧に対応する。その際、専門の通訳者をつけて、総務に文書で正確に内容を伝達する。たとえ口頭による簡単な抗議や問い合わせであっても、その内容を記録する。

(5) ユニフォームの撮影について

① 撮影スペースを確保する。

- ② ポラロイドカメラ・フィルム，（またはデジタルカメラ・パソコン・カラープリンター），ハンガー，アルバム，商標の大きさ（面積）判定定規等を準備する。
- ③ 写真撮影時にユニフォームの商標やチームロゴ等のチェックをする。
- ④ 入村手続き係と密な連絡をとり，迅速な撮影を心がける。
- (6) 競技場と選手村とのホットラインを確立して，情報等を1ヶ所に集約し連絡ミスを防がなければならない。
- (7) コピー機，ファクシミリ，パソコンなど情報機器を整備して，取り扱いに熟知しておく。
- (8) チーム・アタッシュェに対する助言や情報提供について  
各チームに1人～3人の語学ボランティアが付くので，具体的な仕事内容やその開始時刻などを確認する。例えば，最終確認や競技場の練習場など。
- (9) 選手村 TICと競技場 TICに必要な言語の通訳者を確保する。
- (10) テクニカルガイドブック（または，チームマニュアル）を熟読して，競技場 TICや選手村 TICの各メンバーや通訳者のための日程別業務計画表（チェックリスト）を作成する。

## 5 日本における TICの設置とその業務

日本国内で開催される全国レベルの競技会（例えば，日本選手権大会）では，TICは主催者と競技者のコミュニケーションの（受付）窓口として，2010年の日本陸上競技選手権大会で初めて設置された。競技場内の「競技者案内所(TIC)」という名称で，「抗議」「棄権届」「持ち込み競技用具の受付」「賞状（4～8位）」「遺失物」「記録証明書受付」「棒高跳ポール（送付・受付）」などを業務として担当した。

# イベント・プレゼンテーション・マネージャー (EPM)

## 1 イベントプレゼンテーションマネージャーの役割の具体例

イベントプレゼンテーションマネージャー (EPM) は、以下の様に広範囲かつ専門的な役割を担っている。

- (1) 「イベントプレゼンテーション実施計画 (EPプラン)」の策定  
場内アナウンス、進行連携 (TV放送・表彰・タイムテーブル管理)、電光掲示盤、映像、スコアボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ「プレゼンテーション実施計画」を作成し、主催者 (組織代表・技術代表) の承認を得る。
- (2) EPプランに基づく連携確認と、事前打合せの実施  
EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行ない、それぞれの部署の準備状況について総務と協働して進捗管理を行う。
- (3) 競技進行についての準備  
事前に分刻み進行表を作成し、競技会で起こり得る可能性のある事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。
- (4) 競技会開催中の役割  
競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EPプランと事前に策定した分刻み進行表に沿って競技会をコーディネートする。

## 2 観客が満足する競技会演出

競技場へ足をはこび観戦している観客やテレビを通じて観戦している陸上ファンが満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露出来る競技会にするために特に留意すべき点は以下のとおり。

- (1) 「常に何かが起こっている空間」の演出  
競技会ではトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に「何も行われていない」状況が起こることがある。その様な状況は事前に策定する分刻み進行表である程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観客が沈黙している事がないようにタイムテーブルを事前に調整したり、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合

には、臨機応変に対応することが求められる。

#### (2) 観客にとって分かりやすい競技会の演出

多種目が展開する競技会において、観客が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下、「今注目の種目は何か」を正確に把握して選び、アナウンスなどでガイドして注目させるといった役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合にはトラック競技の進行を一部留め置くという措置も選択される。

#### (3) テレビ中継との連携

テレビ中継が生放送で行われている場合には、テレビ局のディレクターと連携して中継が円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている陸上ファンへのサービスにも配慮する。テレビとは事前に策定する分刻み進行表などで予め打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。

テレビ局側の意向を踏まえつつも、全体のコントロールはEPMが行うよう注意する。

### 3 日本国内での運用

EPMは〔国際〕扱いとされ、本連盟が指定した競技会に任命される位置づけになっているが、実際はその任務の大部分を総務員（進行担当）が従来業務に加えた形で行っている。

また、最近の大規模競技会では、電光掲示盤などを活用したLive Resultの表示や、音楽の効果的な活用などを企画し、推進している。

### 4 イベントプレゼンテーション実施計画で検討される事項

#### (1) イベントプレゼンテーションの方法

- ① アナウンスの方針、トラック競技とフィールド競技のバランス
- ② アナウンサーの役割区分とその役割
- ③ 大型映像（スクリーン）映像方針と具体的な表示内容（Live resultなど）
- ④ 音楽と効果
- ⑤ 役員相互の連携と連絡手段・方法

#### (2) 選手プレゼンテーション

- ① プレゼンテーションの原則

タイミング・方法

競技開始時間の定義

フィールド競技終了の定義とプレゼンテーション方法

② トラック種目のプレゼンテーション

短距離種目，長距離種目，リレー種目それぞれの方法

ラウンド毎（予選，準決勝，決勝など）の出場者紹介方法

③ フィールド種目のプレゼンテーション

出場者紹介方法（競技開始前に全員か，トップ8か，など）

紹介の際の並べ方（図による明示）

(3) 各ラウンドの時間尺

種目紹介，出場者紹介の所要時間尺，ラウンド毎の違い（表にて明示）

(4) 場内インタビュー

場内インタビューのタイミング，インタビューの実施場所，実施種目，中継局や報道係との連携方法，表彰係との連携確認，予定所要時間

(5) 表彰式

表彰式実施についての基本ルール（入賞者数，タイミング，表彰方法など），想定所要時間尺，その他競技会で定める事項

※ 式典表彰マニュアルにて定められている場合はその内容も考慮する

(6) オープニング・エンディングイベント

オープニングイベントの役割，内容と時間尺，アナウンス要領，ハイライトシーンの映像，スポンサーなどのVTR

エンディングイベントの役割，ハイライトシーン，翌日の見どころなど



# アナウンサー

## 1 任務

アナウンサーの任務については競技規則第134条に記載されているが、最近ではこれらに加えて見(魅)せる競技会実現への重要な役割を担っている。

アナウンサーのコメントするタイミングや言葉が選手や観客に大きな影響を与えるということを自覚して、事前準備を行い、マイクに向かう必要がある。

## 2 アナウンスする上での留意点

- ① 紹介や発表に際しては、トラック競技のスタートやフィールド競技の試技に悪影響を及ぼさないように配慮する。
- ② 成績発表は情報を入手(電光掲示板への表示を含む)したら、できるだけ早くわかりやすく発表する。また抗議があった場合に備え、発表時刻やアナウンサー名を記録する。
- ③ トラック種目の途中計時については、審判長、計時員主任らと協議して、速やかにアナウンスできるようにする(競技規則第144条1)。また、1着の速報をどのような要領(フィニッシュ・タイマーを用いる等)でアナウンスするかについても関係者間で協議しておく。
- ④ フィールド競技については、一跳一投をアナウンスできるように努力する。そのためにはフィールド競技審判員と連携して、記録表示器を活用する、無線で情報を伝えてもらう、ワイヤレスマイクを持ってアナウンサーが助走路横などでアナウンスする等の方法を検討する。
- ⑤ 電光掲示板(スクリーン)がある競技場では、表示とアナウンスのタイミングを連動させる。
- ⑥ コンピューターシステムがある競技会では、モニターを見ながらアナウンスできるようにする。
- ⑦ 競技規則を理解し、観客にわかりやすく説明する。
  - (a) 第165条10,23 計時の単位
  - (b) 第144条1, 第165条3 途中計時
  - (c) 第166条3,4 予選と組合せ

- (d) 第167条, 第180条22, 第181条8 同成績, 順位
- (e) 第181条9 ジャンプオフ
- (f) 第146条2 抗議に対する措置
- (g) 第260条22, 第163条8,9,10,12, 第184条10,11,12 風力
- (h) 第160条3,4, 第163条1,5, 第170条12,13 トラック, レーン
- (i) 第170条6 リレー

### 3 場内の統制に関するアナウンス

- (1) 競技開始前, ウォームアップエリアとしての開放時に競技者へ注意(接触・衝突事故の防止)
  - ① 使用レーンの制限
  - ② 芝生への立ち入り制限・禁止
  - ③ 投てき練習の制限・禁止・注意
  - ④ 商標規定の注意
  - ⑤ 練習終了時刻告知
- (2) 競技上の注意(対競技者)
  - ① 時刻規正
  - ② 招集時刻・招集場所
  - ③ 持ち込み投てき器具の取り扱い
  - ④ ポールの受け取り・輸送方法
  - ⑤ 不正スタートの取り扱い
  - ⑥ フィールド競技における予選通過条件(標準記録)
- (3) 全般的注意(対観客)
  - ① 熱中症対策
  - ② 盗難防止対策(貴重品管理)
  - ③ 盗撮禁止(不審者警戒)
  - ④ 応援マナー(スタート前お静かに, 通路・階段部分に立ち止まらない, 最前列の着席等)
  - ⑤ 場所取り禁止
  - ⑥ 緊急呼出(迷子)などへの対応
  - ⑦ 火災・地震などの災害時における, 避難誘導

## 4 競技者紹介のアナウンス

競技者紹介のアナウンスは、トラック競技とフィールド競技で異なるが、事前にイベントプレゼンテーション実施計画（EPプラン）などでその方法を意思統一しておく。EPプランを作成しない競技会では競技会開始前にアナウンサーをはじめとする関係者が同じレベルで共通認識を持つことが重要である。特にトラック競技では競技開始時刻は「号砲」なのか「On your marks」なのかを明確化する事。また、種目紹介（見どころ解説）とレーン・バイ・レーン、ワン・バイ・ワン（個別紹介）は連続して行なう必要はなく、競技進行の状況を見ながら間をあけて行なっても構わない。

### (1) トラック競技

#### ① 予選

レーン・バイ・レーンか、欠場レーン・人数のみ紹介に留めるかを事前に決定し行なう。

#### ② 準決勝・決勝

種目紹介（見どころ解説）に続いてレーン・バイ・レーンを行なう。

フルネームか苗字のみに留めるか、所属の紹介方法、ナンバーを言うか言わないか、長距離種目の場合、出場者紹介はスタート前かスタート後か等を統一する。

### (2) フィールド競技

#### ① 予選

ワン・バイ・ワンか、欠場者・人数のみの紹介かを事前に決定し行なう。

予選通過標準記録がある場合は、その記録を伝える。

#### ② 決勝

種目紹介（見どころ解説）→ワン・バイ・ワン→競技開始とワンパッケージで続けると観客にはわかりやすい流れになる。

フルネームか苗字のみに留めるか、所属の紹介方法、ナンバーを言うか言わないか等を統一する。

競技開始の「旗上げ」とアナウンスの同期を取る。

## 5 状況描写

### (1) トラック競技

- ① トラック偏重にならないよう、同時に進行しているフィールド競技にも留意する。
- ② 短距離種目ではコメントを入れず、「見せる」ことに徹してもよい。何も言わない時間があることを恐れない。
- ③ 中長距離種目では、途中の通過タイムからフィニッシュタイムを予想。大会記録等の更新可能性がある場合は強調する。
- ④ 不正スタート、不適切行為発生時のコメント。

出発係から状況を連絡してもらうことが必須となるが、スタート時に発生した事象についての的確にコメントし、競技者本人や関係者に状況を伝える。

(コメントの例)

- ・きちんと静止しなかった
- ・態勢に入るのが遅かった
- ・号砲前に身体が動いたので、警告が与えられます。

- ⑤ スタート→描写→フィニッシュ→1着速報の流れをパッケージ化して作る。

## (2) フィールド競技

- ① トラック競技の進行状況にも留意し、一試技毎の競技者と記録を紹介。
- ② 記録に応じて日本新、大会新、歴代〇位、自己ベスト等のコメントを随時挿入。
- ③ 現在の順位、トップとの差、8位との差。  
同記録でも順位に差がつく(2番目の記録、試技数等)ことに注意。
- ④ 試技順変更の理由が、パスか他種目への出場か。
- ⑤ トップ8の記録と4回目以降の試技順の変更。
- ⑥ 残っている競技者数による、一競技者の制限時間の変化。
- ⑦ 優勝決定戦(ジャンプ・オフ)が行われる際の対応。
- ⑧ 競技終了時の「旗下ろし」とアナウンスの同期を取る。

## 6 結果発表(リザルト)

抗議への対応のため、結果を発表した時刻を記録しておく必要があるが、補助員などを使い進行表に記入させると良い。

決勝種目のフィニッシュ(優勝決定)→優勝者・記録発表→花束

贈呈・フラッシュインタビュー→正式結果発表まで一連の流れを意識する。

#### (1)トラック競技

- ① 何着まで発表するか（1着のみ，3着まで，入選条件を満たすまで全員）フルネームか，苗字のみか，所属をどこまで発表するか，ナンバーを言うか言わないか，レーンナンバーか等を統一する。
- ② Live Result，リプレイ，結果確定まで一連の流れを作る。
- ③ 日本新，大会新，歴代〇位，自己ベストなどのコメント挿入。
- ④ 同着の場合，同タイム着差ありの場合等のコメント。
- ⑤ DQ，DNS，DNF等の略号の意味や，失格の内容について説明。
- ⑥ 次ラウンド進出者のコメント方法（特に+ $\alpha$ がある場合）。

#### (2) フィールド競技

- ① 何位まで発表するか（1等のみ，3等まで，8等まで，全員），フルネームか，苗字のみか，所属をどこまで発表するか，ナンバーを言うか言わないか等を統一する。
- ② 日本新，大会新，歴代〇位，自己ベスト等のコメント挿入。
- ③ 同記録でも順位がついている場合のコメント。  
特に，距離を競う種目では2番目の記録，高さを競う種目では最後に越えた高さの試技数等に注意すること。
- ④ 予選終了後の決勝進出者の発表（特に予選通過標準記録突破者が12名に足りず+ $\alpha$ がある場合）

### 7 表彰アナウンスの仕方

表彰係と表彰方法について十分打合わせをし，あらかじめ表彰アナウンス要領を作成する。

- ① 表彰実施のタイミングをよく考え，競技進行の妨げにならず，また，競技者を長時間待たせないようにする。
- ② 表彰は成績発表後に行なわなければならない。抗議があることを想定し，原則として，成績発表後30分は表彰開始時間を空ける。
- ③ 表彰の手順  
何人表彰するのか？ 3位まで（日本選手権）8位まで（国体）

1位から行うか、3位から行うか？

渡すものは何か？ 賞状・メダル・選手権賞・花束・副賞など、所要時間はどの位か？

- ④ ファンファーレや音楽（BGM）を使用すると、より演出効果が高まる。
- ⑤ 決勝記録用紙は別に整理しておくとともに、入賞者の氏名、所属の読み方、表彰者の氏名、役職、優勝杯等の寄贈者名などをあらかじめ確認しておく。表彰係に必要な事項を記入した表彰用紙（カード）や表彰者一覧を作成してもらうとよい。
- ⑥ 対校競技のように、校歌を演奏し、部（校）旗を掲揚するような場合には、特にその実施方法について入念な準備を行う。
- ⑦ リレーの場合、賞状、メダル等をどのように渡すか（全員か代表者か等）も事前に確かめておく。
- ⑧ 過去に何回優勝したか、他の種目とあわせて制覇したかなどについても調べておき、適宜挿入する。特に日本記録や大会記録などが出た種目では、コメントでも表彰を盛り上げるよう工夫する。

## 8 用語の統一

詳細は「アナウンサーのしおり」を参照のこと。特に重要な事項を列挙する。

### (1) 競技者

- ① 呼称 「くん、さん」を付ける。競技会によっては付けないこともある。
- ② 所属 「所属校名・会社・クラブ名」の場合と「都道府県名」の場合がある
- ③ ナンバー 紹介しないケースも多くなっているが、競技会の規模や性格に合わせて紹介有無を考える。
- ④ その他 紹介時は、「氏名」＋「所属」。描写時は、「所属」＋「氏名」の方が読みやすい場合もある。

### (2) 用器具・施設類

- ① スクリーン、大型映像、ビデオボード・スコアボード
- ② フィニッシュ・タイマー、風力表示器、周回表示器、競歩警告掲示板

- ③ フィールド順位表示器, フィールド成績表示器
  - ④ 光波距離計測器, 走幅跳・三段跳距離測定器, 投てき物運搬車
  - ⑤ 不正スタート発見装置
- (3) 種目名
- ① トラック競技
    - 100m競走 800m競走:「競走」をつける
  - ② 日本語での紹介
    - 3,000mSC:「3,000m障害」(×:ステイプル・チェイス, 障害物競走)
    - 5,000mW:「5,000m競歩」(×:ウォーク, ウォーキング・レース)
    - 4×100mR:「400mリレー」(×:4カケル100mリレー)
    - 4×400mR:「1600mリレー」(×:4カケル400mリレー, マイルリレー)
- (4) 数字の扱い
- ① 「0」:レイ(×:ゼロ), 「4」:ヨン(×:シ), 「7」:ナナ(×:シチ), 「8」:ハチ(×:ハッペン)
  - ② 400m(400mH)のタイム
    - 表記は「1分02秒△△」とあっても、「62秒△△」と「秒単位」でコメントした方が聞き取りやすい。
  - ③ 中長距離種目における1週の所要時間:67秒, 72秒
    - (「1分0秒23」と言っても間違いではないが, 統一されていること)
  - ④ 十秒の単位が0の結果の発表:2分05秒27, 9分07秒
    - 十秒の単位を「れい5秒」「れい7秒」とは言わず, 「2分5秒27」「9分7秒」とコメントした方が聞き取りやすい。
- (5) 記号の扱い
- ① 「+」「-」の風=追い風, 向かい風
    - (×:プラスの風, マイナスの風)
  - ② トラック競技・フィールド共通
    - ・DNS=棄権   ・DNF=途中棄権   ・DQ=失格
    - ・NM=記録なし

\*失格理由は必要に応じて事由を説明する（特にリレー）

③ フィールド競技

- ・「○」＝成功
- ・「×」＝失敗
- ・「－」＝パス
- ・「／」＝試技放棄

(6) 正しい日本語

① 先頭は○○さん。続いて□□さん，△△さんと続きます。

「続いて～続きます」重複させない。

→その後～と続きます。続いて□□さん，△△さんです。

② 先頭は○○さん。二番手に□□さん，三番手には△△さん。「番手」は出場する順序をいう語なので使わない。

→二番目，三番目または現在第2位，第3位

③ 第一曲走路の方では，スクリーンの方には…「方では」「方には」を避ける。

④ 「バックスタンドで行われる棒高跳」

「第二曲走路で行われる砲丸投」「前」や「内側」等を補わないと，大変なことになる。

最近曲走路内側のピットを「Aゾーン」「Bゾーン」と表記している競技会もある。

⑤ 「～の模様です」「～のように思われます」

明らかに60mラインを越えているのに「60mを越えた模様です」大会記録を上回った結果が表示されているのに「大会新記録が誕生したように思われます」という表現は避ける。

⑥ 「風は追風○m」

短距離走や跳躍競技で風のコメントをする場合，重複表現にならないよう，「この時，追風○m」と表現する。

(7) 表彰における留意事項

① プレゼンター紹介の際の肩書き

・肩書きが複数ある場合は氏名の前後につける（主催・共催者）  
「所属，氏名，肩書き」

例）公益財団法人日本陸上競技連盟 横川 浩 会長

・肩書きが一つの場合は名前その後につける（主催・共催者）  
「名前，肩書き」

例）○○△△内閣総理大臣，△△○○長崎県知事



- ・協賛者・来賓の場合は名前の後に敬称が必要な場合もある  
「所属・肩書・氏名・敬称」

例) 本大会に協賛いただいております

〇〇産業株式会社 代表取締役社長 △△△△ 様

## 9 他の部署との連携

通信・情報機器の発達により、各部署との連携がとり易くなった。機器の特性、取扱い方法を熟知し、最大限活用すること。

### (1) 機器の種類と特性

#### ① コンピューター

一度に他部署に情報提供が可能。業者によって書式や操作方法が異なるので、取扱いに慣れる事が必要。

#### ② インカム(有線)

特定の相手と交信することが可能。レシーバーをつけていないと、呼び出す手間がかかる。また、単一人しか情報を伝えられない。

#### ③ トランシーバー(無線)

同時に複数個所に情報を伝えることが可能。チャンネルの混線や受信状態が悪い場合がある。機種によって送受信ボタンの扱いが異なる点に注意。

#### ④ (携帯)電話 単一人しか情報を伝えらず、呼び出すのに手間がかかるが、電波の品質は良く、距離が離れていてもクリアな音声での情報交換が可能。

### (2) 活用の例

この他にも、通信機器は存在するが、上記の機種を活用して他の部署との連携を例示する。

#### ① 競技者係、記録情報係(競技者係での招集=ロールコール)

ロールコールの状況がどうなっているか(全員出場か棄権者がいるか)に始まり、各競技者の紹介、フィールド競技の途中経過・成績、トラック競技の成績を入手し、必要事項をアナウンスする。

#### ② 出発係

トラック競技の次レースの出場人数等、準備完了の合図をトランシーバーで受けてから紹介アナウンスを行う。

競技者名や所属名な等の難読名があれば、事前に連絡して調べてもらう（選手への聞き取り）ことも可能。

不正スタート発生時の詳細連絡もしてもらう。

長距離走の選手紹介にタイミング（スタート前か後か）についても連絡を取りながら調整する。

### ③ 電光掲示（大型映像）係

競技者の紹介、結果発表等、アナウンスと同じ内容が同タイミングで表示されるのが原則。極力、アナウンサーと同室で、肉声により、次にアナウンス・表示する内容を伝え、その準備が電光掲示係側でも行われることが望ましい。他の部屋で、インカムなどの通信機器を使用せざるを得ない場合、専属の調整役（進行担当総務員、交代でアナウンサー担当する等）を置く必要がある。

### ④ 表彰係

表彰担当アナウンサーが、表彰台付近で行うのか、アナウンサー室から行うかによって、連携の度合いが異なる。特に表彰係とアナウンサーが離れて行う場合、専用回線のトランシーバーなどが確保されていることが必要。

### ⑤ 進行担当総務員

電光掲示系（大型映像）係と同様、次に何を紹介、発表すべきかを判断していく必要があるので、アナウンサーと同室で、肉声により、情報交換・伝達できることが望ましい。

### ⑥ その他

進行担当総務員が置かれる競技会では、そこから各部署への連携が取れるように、インカムなどの通信機器が設置される。

トラック競技で失格者が出た場合など、写真判定、審判長から情報が入るので、アナウンサーは進行担当総務員からの指示を受けながら速かな対応（場内への説明等）ができる。

## 10 アナウンサー間の連携

少人数で一つの競技会を担当する場合、用意されるマイクも1～2本で、時間交代で競技を担当し、日程通りに進行させるのが精一杯というケースも多い。一方で、4名以上、3本以上のマイクが用意される競技会では、役割分担も複雑化し、アナウンサー間の連携

をどう構築していくかという問題が生じる。特に複数のフィールド競技が行われ、表彰を実施する必要がある場合など、アナウンサーがディレクター的な役割を果たしながら競技会を進めていく必要がある。

主任を中心にその日の役割分担を明確にすると共に、その競技の状況に応じて、種目の優先順位を決め、声を掛け合うなどして、アナウンサー相互の連携を図ることを心がける。どのような場面で、何を優先させるかなどの判断はマニュアル化できるものではなく、その場で臨機応変の判断をするしかないが、基本的な考え方やよくある事例については、機会をつくって関係部署が意思統一を図っておくこと。

### <具体的留意点>

#### (1) トラック競技—フィールド競技担当者との連携

ともするとトラック競技を優先しがちだが、「トラック競技予選よりはフィールド競技決勝優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方を意思統一する。

走高跳とトラック競技のスタートが重なった場合など「走高跳は大会新記録への挑戦です。その後にトラック競技を行います」と挿入することで、観客の注目を喚起するとともに、関係部署に進行の流れを伝えることができる。

#### (2) フィールド競技担当者間での連携

複数のフィールド競技が同時に進行している時には、担当者間で優先順位を決めておく。また、紹介後に間が空くと、競技者が集中に入ってしまう、他種目の描写を挿入するタイミングを逸することがある。このような場合は、「走高跳は〇〇君」「走幅跳は〇〇さん」「やり投げは〇〇君」のように、間髪入れずに複数種目を紹介する工夫を行う。同一アナウンサーが集約して複数の種目を紹介した方がよい場合もある。

#### (3) トラック競技—表彰担当者間の連携

競技日程や競技の進行状況にもよるが、トラック競技が準備段階であれば、スタート前に表彰を行うことが多い。出発係、電光掲示係、表彰係の各部署と事前に連絡する時間的余裕がない場合は、「男子400m競走決勝の前に、女子走幅跳の表彰がメインス

タンド前で行われます。期待のトラック競技はその後です。」などのアナウンスで、観客及び関係部署に進行の流れを同時に伝えることもできる。

#### (4) アナウンサー間の連携

自分がマイクに向かっていると、他の競技の進行まで細かく把握できない場合がある。アナウンサー間の連携を保つために、お互いに状況をそのつど進行状況を確認しあうとともに、その時間帯に担当から外れている他のアナウンサーが競技進行全体に目を配り、「トラックは選手がスタートラインに出てきた」「フィールドは〇〇が大会記録へ挑戦」等の声をかけるとよい。

## アナウンスで盛り上げる

好記録に沸くスタンド。その主役はもちろん出場者であることは間違いない。しかし観衆に正確な情報を伝え共に喜ぶことを通じてアナウンサーも名脇役として重要な役割を担っている。

陸上競技の記録、順位はすべて“数字”で示されるが、時としてその重要な情報である“正確な数字”がアナウンサーに速やかに届かないということが起こってしまう。

一斉にスタートし全員が同じフィニッシュラインを目指すトラック競技と違い、フィールド競技ではそれぞれの競技者がトライアルする中で記録が更新され最終順位が決まるので“競技途中の正確な情報”こそがアナウンスの生命線となってくる。

フィールド競技の記録表示には電光や手動のフィールド記録表示器やフィールド順位表示板（トップ8板）などが使用されるが、これら記録表示器や板の前に審判員や補助員、報道関係者などが立って数字が読みづらくなることや、表示板の廻し方が早すぎて読みとれないということがよく起こる。また砲丸投などでは記録の表示、次の投てき者のナンバー表示が追いつかないといったこともよく目にする。せっかく接戦を描写し競技者を奮い立たせるアナウンスをしようと思っても、タイミングがずれてしまっただけでは元も子もない。競技者本人もアナウンスを期待し、観衆の声援を望んでいるのであればなおのことである。

好記録は審判員各署の連携とタイミングの善し悪しにかかっているとも言えるのである。

## ライブ・リザルト

陸上競技の面白さに、誰が勝ったのか？という「勝負」と、その記録はどうだったか？という「記録」の二本柱が挙げられる。観客に対していかに早く、正確に情報を伝えることができるかは、魅せる競技会を運営する上で重要な課題となる。

そのような中、最近では全国の地域選手権規模の競技会においても大型映像（スクリーン）を用いたライブ・リザルトによるトラック競技の結果発表が一般化してきた。

これは、写真判定員が判定中の結果を逐次大型映像に表示していくもので、大型映像系の負担は大きくなるが、それ以上にレースの興奮を観客に持続させ、競技会を楽しんでもらうためには、ぜひとも取り入れたい技法である。

ただし、これはあくまでも「判定中」の途中経過を表示しているのであって、「正式発表（確定結果）」ではないことを理解してもらう必要があり、後から入力された競技者のタイムが良い場合があったり、同タイムの競技者の着順が入れ替わったりすることもしばしばあることに留意しなければならない。

また、黄旗が挙げた競技（1着が失格になる場合あり）や、競技終了後に歩型違反で失格者が出る可能性がある競歩競技においては、ライブ・リザルトは差し控えた方が無難であろう。

ライブ・リザルトに合わせてアナウンスする場合、まず「判定中の画面である」ことの断りを入れることと、3着程度までに留めること、フィールド競技が佳境に入っている時などは余計なコメントを入れずに「写真判定の速報をご覧ください」の一言にすることも必要で、何も言わなくても観客に対する効果が期待できる。

確定結果が表示されたら、そのことを伝える必要があるが、順位や記録を再度読み上げなくても良い。

## 順位のアナウンス

2008年度発刊の「アナウンサーのしおり」（本連盟 web サイト参照）では、トラック競技の結果発表においては「1着〇〇番〇〇君〇〇秒〇〇」という具合に「着」を、フィールド競技の結果発表では「1等〇〇番〇〇君〇〇 m〇〇」のように「等」を、そして表彰式においては「第1位〇〇君〇〇秒〇〇の記録に輝きます」といった具合に「第〇位」を用いることにしている。

では、混成競技の総合得点＝順位の発表やタイムレースが行われた時の総合成績のアナウンスはどのように表現すべきだろうか？

タイムレースの総合順位で、「着」が該当しないのは容易に理解されるのだが、はたして「等」にすべきか「第〇位」にすべきかは少々悩むところであろう。

「位」は「イ」一音であるので、それ単独では言いにくいし聞きづらいものがある。「第（ダイ）」と組みあってこそその言葉であろう。しかし、「第」をつけると堅苦しく聞こえたり、言い回しにくいというのも事実である。一方「等」は言いやすいが、普段使わない言葉なので（運動会などでは「一等賞」のように使うことが多い）違和感を覚える向きも少なくない。

どちらも順位を示す言葉であるので、どう言っても間違いではないのだが、「第〇位」とした方が収まりやすそうである。

# 報道係

## 1 任務

報道係の任務については特に規則によって定められてはいない。その任務を一言で言えば、報道関係者へのサービスである。

- (1) 競技運営に支障のない限りにおいて報道関係者が取材・撮影を行いやすいよう報道対応を行う。その際は、マーシャルやフィールド競技の競技役員、入賞者管理係や表彰係等の関係役員と連携をとりながら行うとよい。
- (2) 競技会を取材する報道関係者が、正確かつ十分な報道ができるよう競技成績の記録や、必要な資料を配布する。競技運営が円滑に運営され、選手が所期の目的を達成できるよう報道関係者に協力を求めこれにあたる。

## 2 報道関係者

日本新聞協会に加盟する報道機関、新聞社、通信社、電波・映像を発信するテレビ・ラジオの放送会社、写真記者協会、日本雑誌協会、陸上競技専門誌、雑誌写真記者会、スポーツニュース協会、外国特派員協会、日本スポーツプレス協会(AJPS)の加盟社および日本陸連オフィシャルカメラを対象とする。

上記以外の団体、都道府県・市町村の広報、選手所属企業の広報、その他からの取材申請があるときは、事前に下記の書類の提出を要請し審査する。

- ・社名／団体名：
- ・取材目的(発表媒体名)／方法
- ・取材期間／人数

## 3 事前準備

### (1) 事前広報

大会規模に応じて事前に(少なくとも2週間前までに)、大会要項、競技日程、出場予定選手、取材要項等の記者発表を行う。選手を招聘しての記者発表会、大会関係者による記者クラブ等でのレクチャー形式の発表リリース配信等)。大会規模によっては、記者発表時に取材申請書を添付し、事前に取材予定媒体を把握しておくるとよい。



(2) 記者席・諸室の準備—取材予定人数を見極めつつ十分なスペースを確保することが必要。

① 報道員受付所の設置。

② 記者席の設置。

スタンドのフィニッシュライン延長上付近に設置する。

③ 控室（プレス・ワーキングルーム）の設置。

机・椅子の他、人数分の電源が必要。電話回線、インターネットに接続の準備ができればなおよい。記録用紙（リザルト、スタートリスト）入れの棚を設置する（仕様は定めていないがレターケースなどでも可）。臨時電話は、各社から直接競技場管轄の電話会社に申し込むよう要請する。

ワーキングルームの閉鎖は、競技終了後2～3時間程度を目途とし、事前に通知しておくことよい（室の管理）。

④ カメラマンのための機材置場の設置（ロッカー・棚の設置）。

機材置場はできる限り、グラウンドに近い室を準備できるとよい。またその部屋をカメラマンのためのワーキングルームとしても使用する場合は、ここにも机・椅子・電源が必要。

プレスルーム同様、想定される人数により十分な席数・電源を準備できるとよい。

⑤ インタビュールームの設置。

複数種目の入賞者が入っても十分な取材活動ができるスペースを確保したい。

⑥ ミックスゾーンの設置。

全選手が通過する導線上に報道員の取材活動を可能にするスペースを確保したい。

※報道受付所、スタンドの記者席、ミックスゾーン、プレス・ワーキングルーム・インタビュールームはワンブロックに集中させた方が機能的であり、記者の導線をできる限り短くするように努める。

⑦ テレビ中継放送がある場合は、放送席・控室等の確保が事前に必要であり、また同様にスタンドおよびフィールド上のカメラ位置等を中継局担当者と事前に打ち合わせ、確保することが必要である。さらにフィニッシュライン先のカメラ撮影エリア

については、中継局と一般報道カメラマンとの撮影位置の調整を行うようにする。

#### ⑧ 報道のしおり作成

大会当日の取材・撮影エリア図面、取材・撮影に関する注意事項等を記載した「報道のしおり」を用意し、報道受付の際に報道関係者に渡せるようにする。

### (3) 要員手配

競技会・大会規模・想定される取材者数により、必要な要員を確保する。

#### ① 報道主任

全体を統括し、マーシャルやフィールド競技の競技役員、入賞者管理係や表彰係等の関係役員との連携を図り、報道関係者が円滑に取材・撮影ができるように努める。

#### ② 報道受付：役員2名，補助員4～6名

#### ③ 記者席：役員1名，補助員2～3名

#### ④ プレス・ワーキングルーム：役員1名，補助員2～4名

#### ⑤ インタビュールーム：役員2名，補助員2～4名

#### ⑥ 記録配布：役員1名，補助員4～6名

#### ⑦ フォトコーディネーター（撮影エリア作成・管理，カメラマンワーキングルーム管理）：役員4名，補助員2～4名 （その他必要に応じて）

\*ミックスゾーン内プレス対応，フラッシュインタビュー対応

## 4 競技場内の取材

### (1) ペン記者

① 記者席（スタンド）、控室（プレス・ワーキングルーム）、ミックスゾーン、インタビュールームでの取材活動を認める。

② 競技本部、記録室、印刷室、ドーピングルーム、表彰控室等のテクニカルエリアへの立ち入りは認めない（通行区分の指定）。

### (2) フォトグラファー

① グラウンドレベルでの撮影は、ビブスを着用したフォトグラファーだけに認める。

② スタンドでの撮影は、観客の視界の邪魔にならない範囲で自

- 由とするか、優先エリアを設ける。
- ③ アウトフィールド、インフィールドの撮影取材については、ビブスの色で指定区分をする（表参照）。
- ④ 正面スタンド前のエリアは撮影禁止（ただし表彰式は除く）。  
競技運営本部があるため、表彰時を除き、ビブスを着けたいかなる報道関係者も通行を禁止する（掲示物、コーン&カラーバー、柵等で明示）。
- ⑤ インフィールドでの撮影は、競技運営と安全管理の点で三脚の使用は認めない。低い姿勢での撮影に協力を求める。ただし、完全に腰を下ろした姿勢での撮影は危険なので、危険を察知した場合にすぐに動ける態勢で撮影するよう注意を呼びかける。  
またカメラ撮影を兼ねた記者が認められてインフィールドに入る場合においても、危険防止のため、グラウンド上で記事を書くことは認めない。
- ⑥ 審判員の視界を妨げる場所、記録表示板の前、写真判定装置の列での撮影は認めない。
- ⑦ 表彰式の際は、どのビブスでも表彰台の周辺での撮影を認める。ただし、移動と撮影のタイミングについて、係からの指示に従うこと。
- ⑧ グラウンドレベルでの撮影に対し、種目別の撮影可能エリアを明示した用紙（報道のしおり）を作成・配布し、その範囲内での撮影を認める。
- ⑨ フィニッシュ先撮影エリアや、走幅跳・三段跳・棒高跳等、トラック外側で行われる種目の場合、撮影エリアを明示し、その範囲内での撮影を認める。  
\*トラロープ・カラーコーンの使用や、グラウンドへの直接テープ貼付等で明示するとよい。低い姿勢で撮影するカメラマンに配慮し、コーン使用の場合は、ミニコーンにバーをかける形で設置するとよい。

＜陸連主催大会での撮影カメラマン用ビブスの区別＞

	アウトフィールド	インフィールド
スチールカメラ(含デジカメ)	オレンジ	グレー
テレビカメラ(含ビデオカメラ)	グリーン	グレー
中継 TV局	青	青

〔注 A〕 オレンジとグリーンของビブスは、アウトフィールドおよびインフィールドによって指定された場所での撮影を許可する。

〔注 B〕 グレーのビブスは、日本陸上競技連盟が32枚発行する。

写真記者協会15枚、日本雑誌協会2枚、日本スポーツプレス協会2枚、外国特派員協会1枚、専門誌陸上競技マガジン2枚、専門誌月刊陸上競技2枚、スポーツニュース協会6枚(含系列局)、日本陸連オフィシャル2枚

〔注 C〕 青のビブスは、中継 TV局用に30枚(含補助スタッフ)。アウトフィールド、インフィールドでの撮影、音声作業を認める。

〔注 D〕 デジタルカメラ・ビデオカメラによる撮影についてもビブスの着用が必要であり、撮影・取材規制等もスチールカメラ、テレビカメラと同様とする。



カメラマンビブスと、走幅跳撮影エリア例

## 5 インタビュー

- (1) 陸連主催競技会では、すべての競技者の退場はミックスゾーンの先とする。競技者の誘導は、トラック種目はマーシャル、フィールド種目は当該審判員に依頼する。別に担当係を設けてもよい。

- (2) ミックスゾーンでは、記録が出るまで待機している選手へのフラッシュインタビューを認める。
- (3) 特に決勝終了後は、上位3人または8人（表彰との関連）を誘導し、インタビュールームで行う。ただし、中継局があるときは、希望選手のインタビューを最優先に実施する。
- (4) 表彰後のインタビューは競技場外で行ってもらう。
- (5) 競技者のインタビューは5～10分を目途とし、表彰係またはドーピング係に引き継ぐ。インタビュールームは広さも含め、決勝種目の重複を考慮する必要がある。



ミックスゾーン

## 6 記録用紙

- (1) 結果（リザルト）、スタートリストは記者席（スタンド）では各人に配布する（かご等の活用）。控室（プレス・ワーキングルーム）では棚に種目別に整理し、各人に自由に選択させる。
- (2) 予選以降のスタートリストは、番組編成用紙のコピーを配布する。

## 7 その他

- (1) 受付
  - ① IDカード、プログラム、記録配布用カゴを渡す。
  - ② 取材記者、カメラマン、テレビ局を区分した受付表を作成する。受付表に記入を促し、ビブスの番号を控える。ビブス、記録配布用カゴは毎日返却を要請する。

- (2) 自社腕章については、国際大会、全国規模の大会で必要に応じて要請する。すべての大会において必須のものではない。
- (3) 大型映像（競技場の電光掲示盤用）のカメラの撮影場所は、報道取材エリアに準ずる。カメラマンには特別に定めたビブスカ上記以外の色のビブスを着用させる。
- (4) フィールド競技の撮影エリアについては、競技場のレイアウトを考慮し、当該種目の審判長と協議して決定する。

## 8 道路競技

- (1) 競技場をスタート、フィニッシュする場合は競技会に準じて対応する。
- (2) 競技場以外の場所がスタート、フィニッシュである場合は、記者控室（プレス・ワーキングルーム）、撮影場所等を臨時に設置する。
- (3) 折り返し、中継所等は必要に応じて撮影場所を指定する。
- (4) 道路での取材については、交通規則の範囲での取材を認める。
- (5) 歩道橋上での取材は禁止する。

〔注〕上記(4)(5)は警察との道路使用許可条件による。

**\*陸連主催競技会における『報道係と関係競技役員・係との連携・確認事項』『カメラ撮影エリア（撮影許可区域）』**

### 1 関係競技役員・係との連携、確認事項

- (1) 総務
  - ・競技終了からミックスゾーンへの誘導、インタビュー、表彰式、ドーピング検査終了までのコントロール
  - ・競技運営他、各種変更事項・情報のメディアへの伝達
- (2) 投てき・跳躍審判長及び審判員
  - ・インフィールド種目撮影エリア確定
  - ・ワイヤレスカメラ設置対応
  - ・記録誕生の際のフォトセッションサービス
- (3) 用器具係・投てき審判員、総務
  - ・防護ネット設置種目、位置
  - ・競技者情報（右投げ、左投げ等）
- (4) 跳躍審判員、総務

- ・使用ピット決定時の連絡
- ・棒高跳競技者の退場時ボールの扱い（ミックスゾーンへの誘導は選手のみが望ましい）
- (5) アナウンサー
  - ・中継局フラッシュインタビュー音声の競技場内への橋渡し
- (6) 記録・情報処理員
  - ・リザルト，スタートリスト等の配布枚数・受け渡し場所
  - ・リザルトのミックスゾーンへの速配（入賞者確定・確保）
- (7) マーシャル（含 競技者誘導係・入賞者管理係）
  - ・記者，カメラマンの場内規制
  - ・トラックレース（跳躍・投擲競技）におけるすべての選手のミックスゾーンへの誘導，入賞者確保，インタビュールーム・表彰控室への誘導
  - ・中継局フラッシュインタビュー対応
- (8) 競技者係
  - ・欠場者情報（理由）
- (9) 表彰係
  - ・表彰時のカメラマン規制
  - ・インタビュールームから誘導するタイミング，引き継ぎ・表彰予定者からの表彰時間変更希望（他種目へのウォームアップ希望等）
  - ・周回板の設置（必要種目の時だけ出す）
- (10) 監察員
  - ・フィニッシュ先に位置する監察員の場所の決定（フィニッシュ先撮影エリアとの関係）
- (11) 出発係（含衣服係）
  - ・ミックスゾーンレイアウト（特にリレー予選待機時のスペース考慮）
  - ・トラックレース，フィニッシュ後の衣服の移動場所
  - ・レーンボックス，スターティングブロック搬出のタイミング
- (12) 写真判定員（記録表示）
  - ・記録誕生時のフォトセッションサービス
- (13) 大型映像係

- ・フィールド各種目及び、トラック種目の大型映像用カメラの撮影位置の確定（撮影エリアとの関係）

#### (14) 中継局（TV）局

- ・フィールド各種目およびトラック種目の中継用カメラの撮影位置の確定（特にフィニッシュ先固定カメラと撮影エリアとの関係）
- ・優勝者、特定選手へのフラッシュインタビュー予定、対応

## 2 カメラ撮影エリア（撮影許可区域）

以下の図は、国民体育大会・インターハイにおける撮影エリア設置についての例を示すものである。それぞれの競技場のレイアウトや競技者レベル等から判断して、関係競技役員と協議のうえ、競技運営に支障のない範囲で各大会によってエリアは定めるようにする。

撮影するカメラマンには競技の状況により、撮影エリアを変更する必要があることを告知し、審判・役員の指示に従っての撮影に協力してもらえよう願います（大会当日配布する「報道のしおり」に記載する）。



フィニッシュ先撮影エリアでの撮影状況





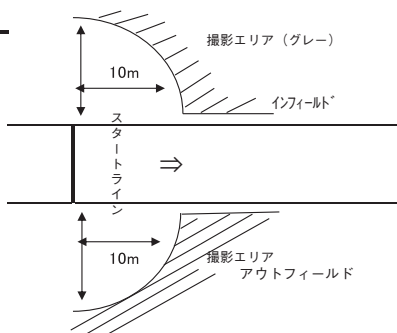


投てき種目撮影エリアと，撮影状況

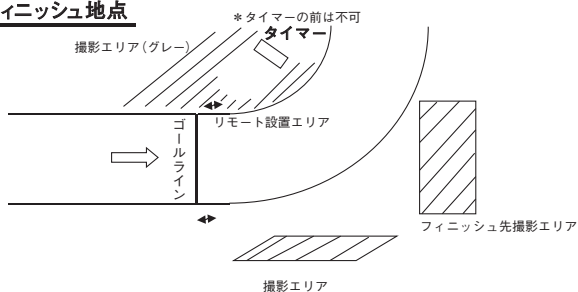


プレスルーム

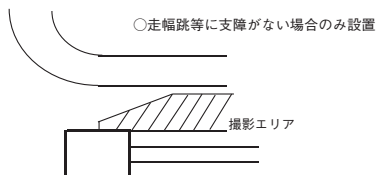
## スタート地点



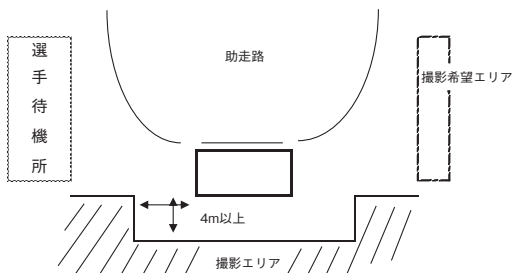
## フィニッシュ地点



## リレー/200m/400mエリア

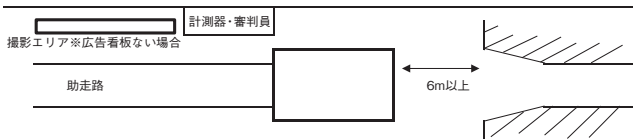


## 走高跳 (インフィールド跳躍時)

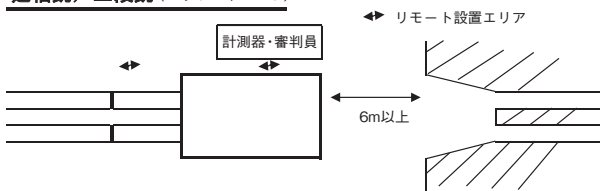


撮影希望エリアは、撮影エリアに加え、さらに競技運営上支障がないと判断した場合に、エリアとして撮影を許可する

## 棒高跳 (アウトフィールドピット)



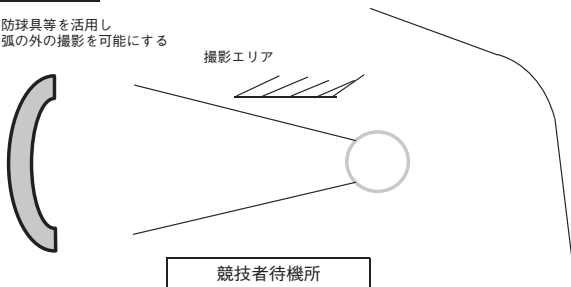
## 走幅跳 / 三段跳 (アウトフィールド)



選手正面からの撮影は不可

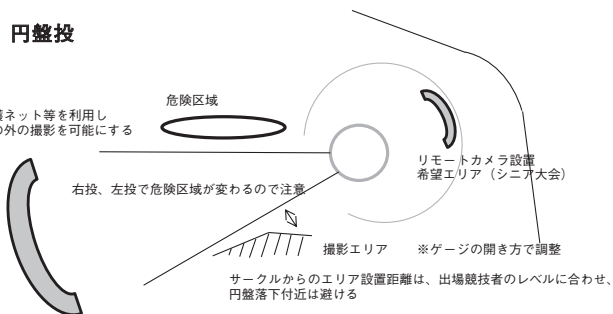
## 砲丸投

防球具等を活用し  
弧の外の撮影を可能にする

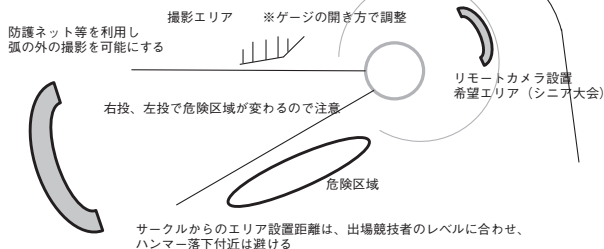


## 円盤投

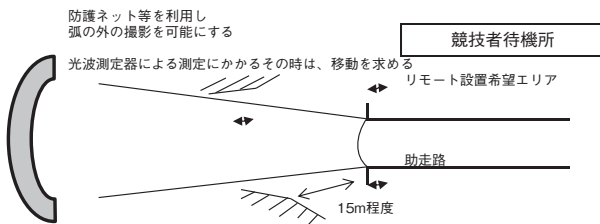
防護ネット等を利用し  
弧の外の撮影を可能にする



## ハンマー投



## やり投



## 競技終了から表彰までを担当する 役員・系の視察研修

全国レベルの大会を控え、多くの都道府県陸協は数年前から開催県へ視察団を送って視察研修を行うのが通例となって来たが、限られた予算の中では少人数での視察が現状である。

審判技能は県内競技会でも高められるが、リハーサル大会と位置付けた競技会でもなかなか訓練できないのが競技を終えた競技者の誘導法と導線の確保である。「ミックスゾーンを通じたの退場」、「インタビューコーナーへの誘導」、「入賞者確定通知と表彰係への引継ぎ」等々に関係する報道系の役割と行動に関する認識が不足していることが多い。

よく見かけるのが、視察の際、必携や行動マニュアルを持ち帰って単に開催競技場バージョンに直ただけで済ましてしまい、大会本番で大きく異なる行動を求められて困惑するパターンである。

開催県でも必携・マニュアルとは異なる行動や対応を行っているはずなので、視察団は大会後に再度各係主任と連絡を取り、必携・マニュアルから実際に行った変更点や追加点を書面でもらって、事前に持ち帰った必携・マニュアルに落とすことが真に、そして最新のその係の必携・マニュアルとなる。

ここでは「競技中から、競技終了者全員をミックスゾーンへ誘導し、その先で退場させる。または、表彰を経て退場させる。」というマニュアルに関する総務・総務員の視察ポイントと報道係の中の各担当の視察ポイントを例示する。

### 総務・総務員

- 1 ミックスゾーン・インタビュールーム・表彰控室他の関連施設
- 2 全競技者の退場、表彰までの競技者担当の流れ
  - ① トラック 予選/決勝  
予選 マーシャル→ミックスゾーン担当→退場へ

決勝 マーシャル→ミックスゾーン担当(入賞者管理係)  
 [ドーピング検査]→インタビュールーム担当  
 →表彰係

\*衣服のやりとり、リレー競技者の誘導、入賞者が他種目出場のため予定どおりに表彰までいけない場合などの対応

② フィールド種目 予選/決勝

予選 跳躍/投てき審判員→マーシャル→ミックスゾーン担当→退場へ

トップ8, 決勝

跳躍/投てき審判員→マーシャル→ミックスゾーン担当(入賞者管理)→インタビュールーム担当→表彰係

\*各種目の誘導導線やボールの扱いなど

3 TV中継がある場合の関わり

- ① カメラ位置と死角となるテント等の扱い
- ② フラッシュインタビュー対応

**報道係**

1 受付担当

- ① ペン記者/スチールカメラマン/TV局別の受付と受付時の配布物
- ② ビブスや記録用かごの配付と回収
- ③ 地方紙梓抽選要領

2 撮影エリア作成管理担当

- ① 各エリア作成や管理要領

3 プレスルーム/記者席/カメラマン控室担当

- ① 各室の管理及び要領
- ② 記録情報からの情報の流れと配付・整理

4 インタビュールーム担当

- ① ルーム内での取材管理  
 \*複数種目が重なったときやりレー種目対応

5 その他

イレギュラーな流れの際のミックスゾーンから表彰までの流れの変更

## 記録・情報処理員

現在の記録・情報処理システムは、道路競技においては、1980年の福岡国際マラソン、トラック・フィールド競技においては、1984年の8カ国対抗陸上でコンピューターによる競技記録処理を導入して以来、大会運営の根幹にかかわる業務となっている。日本選手権、国体などでは申し込み競技者の資格審査の補助データとしての利用から、プログラム原稿作成、主放送局、通信社へのリアルタイムな情報提供や競技終了後の総合記録作成まで、一貫して行えるシステムとして定着してきた。さらに、コンピューターを利用する競技会では、競技場にネットワーク・システムが導入されて、トラック競技のみならずフィールド競技でも競技と同時進行で記録処理が行われている。

また、大型映像が設置されている競技場では、競技終了後ただちに結果を発表できるようになった。

しかし、記録・情報処理にコンピューターが活用されない競技会も多々あることから、コンピューターを利用するしないにかかわらず、記録・情報処理員は従来の番組編成、記録集計・配布、公認記録申請書作成等を行う。

### 1 番組編成関係(番組編成員)の任務

番組編成員の任務については、競技規則第142条、第166条、第180条、第215条等によりレーン・オーダー、試技順を決定し発表する(第1ラウンドの発表はプログラム掲載、その後は総務、審判長の承認を得て、競技者係付近等に掲示)。この任務のためにコンピューターを使用しない場合は抽選器、編成用紙、編成用個人カード等を用意する。

### 2 番組編成の留意点

トラック競技

- ① 同一団体に所属する競技者は、できる限り異なる組に編成する(競技規則第166条2)。特に、対抗(校)戦等ではこのことを配慮する。ただし、その競技会が選手権大会や選考競技会などでは、あまり考慮しなくてもよい。
- ② 予選では、少なくとも各組2着まではつぎのラウンドに出場



する資格があり、できれば各組の3着まで出場資格を与えることが望ましい(競技規則第166条6)。このことについては、好記録保持者らが順当にラウンドを進めるように(競技規則第166条2〔注意〕)ということとも合わせて配慮する。

- ③ 中・長距離走の1組の人数は、つぎの人数を原則としている(競技規則第166条2〔国内〕2)。特に3,000mSCでは第1障害物の安全性に配慮する。

1,500m, 3,000mSC 15人以内

3,000m, 5,000m (グループスタートの場合) 27人以内

10,000m (グループスタートの場合) 30人以内

予選を行った場合の決勝進出人数は1,500m, 3,000mSCで12人以内, 3,000m, 5,000m, 10,000mで18人以内とする。

これらの種目の決勝進出者の決定には、着順およびタイムを併用する方法が望ましい。

例 1,500m 2組-5着+2

- ④ 組・レーンの決定

(a) 100mから800mまでの競走と、4×400mまでのリレー競走で複数のラウンドが行われる場合、第2ラウンドからのレーン順は、その前のラウンドの着順と記録により、上位グループ4人(チーム)、中位グループ2人(チーム)、下位グループ2人(チーム)に分ける。そして、8レーン仕様のトラックの場合、上位グループには3, 4, 5, 6レーン、中位グループには7, 8レーン、下位グループには1, 2レーンを抽選により割り当てる(競技規則第166条3,4)。

同記録のため、4人-2人-2人に分けられないときは、同記録者間で抽選により上位・中位・下位グループを決定し、そのうえでレーンの抽選を行う。

(b) 800m競走において、1レーンに2人を走らせる場合は安全性に配慮しレーンを決める(競技規則第166条4(b)〔注意〕ii)(コラム参照)。

(c) レーン順決定の公正を示すため、番組編成用紙の備考欄に前のラウンドの順位、記録を記入するとよい。

(d) 競技者の数がレーン数より少ないときには、内側レーンを

保全のために空けるのが望ましい。

⑤ 予選・準決勝における同記録・同順位

トラック競技において、2組3着+2の条件で3着に同着（複数人）が出たり、+上位者2人という条件のところを越える同タイム者が出た場合はつぎのように解決する。

A レーンに余裕がある場合

- (a) 着取りする順位の最終枠に同タイム着差なしが出た場合、レーンに余裕があれば、 $+ \alpha$ の人数はそのままつぎのラウンドに進める。
- (b)  $+ \alpha$ の最終枠で同タイムが出た場合、組が違っていても同記録者は同一の扱いでつぎのラウンドに進める。

B レーンに余裕がない場合

- (a) 着取りする順位の最終枠に同タイム着差なしが出た場合、レーンに余裕がないので、 $+ \alpha$ の人数を減らす。
- (b)  $+ \alpha$ の最終枠で同タイムが出た場合、組が違っていても写真を拡大して優劣を判定する。それでも優劣が判定できなければ抽選とする。

この時の写真は0.001秒単位で精査し、0.002秒以上の差があるときに着差があるものとする。

- (c) 抽選する場合には当該競技者等を集め、状況を説明した後本人に抽選を行わせるのが一般的である。その方法は、まず予備抽選をしてくじを引く順番を決め、その順番に従い本抽選を行うことを薦める。

つぎのラウンドの出場者が決定したならば、競技者たちに（アナウンス、掲示によって）速やかに知らせる。

⑥ 欠場者がいる場合

申込者の人数で予選を設定したが、招集時に欠場者があり予選を行う必要がなくなった場合は、競技をせずに招集完了者全員をつぎのラウンド進出者として抽選でレーン順を決定する。

（例）100m 予選（2組4着）

第1組 8人中3人欠場 出場者5人

第2組 7人中4人欠場 出場者3人

フィールド競技

- ① 予選が行われる場合、その人数により組数、競技者の組と試技順を決定する。予選通過標準記録を突破した競技者は全員決勝ラウンドに進める。また、記録突破者が12人に満たない場合、予選の成績から追加補充をする。12位の競技者が同記録で複数名のときには競技規則第180条22, 第181条8を適用する(競技規則第180条15)。
- ② 決勝進出者の試技順を決定し発表する(掲示場所の決定)。  
混成競技
  - ① 混成競技におけるトラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は最終種目(800m, 1,500m)を除いてプログラムに掲載する。最終種目はそれまでの総得点の上位者で1つの組を編成する(競技規則第200条7)。
  - ② 途中、棄権者等により、混成競技審判長から組編成を変更するよう指示があった場合は再編成する(競技規則第200条8)。
  - ③ トラック種目では、1組の人数は5人以上で編成することが望ましく、3人未満では走らせない。走高跳、棒高跳では競技運営面から2ピット(2組)編成にすることもある。

### 3 記録・情報処理関係の任務

記録情報部署は班編成により任務の正確・迅速化を期す。

〈班編成〉例

- ・主任(副主任)
- ・成績記録班(トラック/フィールド/混成の部, 得点計算)
- ・記録整理班(記録の確認, 成績一覧表: 公認記録申請書作成)
- ・印刷・送信班

各班員は各自が以下の任務を行うと同時にお互いの連携を密にする。

### 4 記録・情報処理の留意点

- ① 競技会前の情報処理
  - (a) 出場競技者の基礎データ(氏名, 読み仮名, 所属団体(学校)名, 学年, ナンバー, 出場種目, 参加資格記録等)を整理し, 番組編成員に渡す。
  - (b) 訂正, 変更等の競技会開始前の諸連絡事項  
監督会議における変更事項(予選通過標準記録の修正, 高

さの競技のバーの上げ方の修正等), その時の棄権等の情報を把握し, 関係部署に連絡する。

## ② 競技会に必要な記録の把握

世界記録, 日本記録(ジュニア), 高校記録, 中学記録, 大会記録等その競技会に必要な記録を確認し, プログラム原稿とする。また新記録が誕生したとき, どこまでをコメントとして発表するのかあらかじめ主催者や総務と打ち合わせをしておく。

## ③ 記録・成績の集計

各審判長, 計時員主任, 写真判定員主任, 競技者係, 風力計測員から提供される各種目の結果を集計する。

(a) トラック競技の集計は途中棄権(DNF), 失格(DQ)が生じた場合, それが失格の場合には備考欄に, その理由を簡潔に記す。

(b) フィールド競技の集計は記録担当者・審判長によって整理されてくる記録表について, 最高記録, 順位, 各種の新記録, 走幅跳, 三段跳においては風力の確認を行う。

(c) 得点集計は各決勝種目終了後, 速やかに総合, 男女別, トラック, フィールドの得点を発表する。

(d) 各種目の順位の決定は競技規則にあるが, 対抗(校)戦の順位決定方法を確認する。

※記録の集計・確認が済んだら成績記録表を6部作成する(複写等)。

## ④ 成績の発表

各種目の結果(リザルト, スタートリスト等)をアナウンサー(含む大型映像係)に伝え, 総務に渡し(審判長, 表彰係, 報道係等に配布する), 掲示板に発表する。

## ⑤ 記録証明・記録申請等について

公認記録の申請書作成のためにプログラムの変更点の訂正, 成績表を作成する。

日本記録, ジュニア日本記録等の申請用紙及びドーピング検査(必要な場合)の準備をする。記録誕生時には申請書類の作成のために総務に協力する。

また、記録証明書発行の手順を確認しておく。

## 5 運営の流れ

### (1) 競技開始前

競技者係において、招集完了時刻後、出場者と欠場者が把握されたスタートリストが当部署に配布されてくる。このデータにより成績記録用紙のレーン順、ナンバーをチェックしておく。

### (2) 競技中

競技の状況を観察し、競技中のトラブルをチェックしておく。

### (3) 競技後

トラック競技では、記録用紙に写真判定の記録、もしくは決勝審判員主任からの着順および計時員主任からの計時値、風向風速が必要な種目については風力計測員からの風力値などを記入する。このとき、競技中のトラブルが解決されているか確認する。

つぎのラウンドが行われる場合は、データを番組編成員に渡す。

### (4) リザルト、スタートリストの配布

#### 記録用紙の使い分け

スタートリスト	白色
予選リザルト	黄色
準決勝リザルト	水色
決勝リザルト	桃色
番組編成	緑色

必要な枚数を複写（コピー）されたりザルト、スタートリストを配布すると同時にリザルト、スタートリスト用掲示板にて発表する。

## 日本陸連主催・共催競技会 ラウンド通過と番組編成に関する申し合わせ

### A:トラック競技

#### 1. レースの全部か一部に各自のレーンを用いる種目

- (1) 予選が2組の時のラウンド通過は着順+記録上位とするが、予選を経た準決勝が2組の時は着順のみ(4着取り)とする。
- (2) ラウンド通過着に同着があるときは下記(3)の場合を除いて同着者全員を次のラウンドに進ませる。その結果、レーンに余裕があれば記録上位による通過数は変えないが、レーンが不足する場合は800mを除いて記録上位によるラウンド通過数を減じる。
- (3) 複数組のラウンド通過着に同着があり、記録上位によるラウンド通過数をゼロにしてもなおレーンが不足する場合は次の手順で通過者を決定する。
  - 1) 各組内の同着者で抽選し組内の着順枠通過者を決定する。
  - 2) 残りの枠は、前のラウンドの記録に関係なく、上記1)での抽選に漏れた競技者全員で抽選し次ラウンド進出者を決定する。

〈例1〉3組2着+2の準決勝結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 2着 C君 4着以下省略

第2組 1着 D君 2着 E君 2着 F君 4着以下省略

第3組 1着 G君 2着 H君 2着 I君 2着 J君 5着以下省略

- 1) B・Cから1人、E・Fから1人、H・I・Jから1人を抽選によって選び着順枠の6人を決定する。
- 2) 残りの枠(8レーン競技場では2, 9レーン競技場では3)は、上記1)での抽選に漏れた4人全員で抽選して決定する。

〈例2〉2組4着の準決勝の結果が以下の状況であった場合

第1組 1着 A君 2着 B君 3着 C君 4着 D君 4着 E君

第2組 1着 F君 2着 G君 3着 H君 3着 I君 3着 J君

1) D・Eから1人, H・I・Jから2人を抽選によって選び、着順枠の8人を決定する。

2) 9レーン競技場では、上記1)での抽選に漏れた2人で抽選して1人を決勝進出者に加える。

Q: 第2組の落選者は3着同着なので、第1組の4着同着落選者よりも上位ではないか？

A: 第1組の落選者の格付けは組内で5番目、第2組の落選者も組内では5番目となるので同格とみなす。着順は組内で独立しており、他の組の着順と比較はしない。

(4) 救済措置があり、ラウンド通過数が増えた時の番組編成

1) 9レーン競技場の場合

前のラウンドで救済があった場合は9レーン目を使用し、救済者のレーン・シードは下位グループに含める。救済が無く、9レーン目が空いている場合は、前のラウンドの通過最終枠同着者を次のラウンドに進ませるが、同着者が複数ある場合は先に示した方法によって抽選して通過者を決定する。

2) 8レーン競技場の場合

準決勝は組数を増やすなどして対応するが、決勝は前のラウンドの着順あるいは着順+記録上位のみとし、前のラウンドでの救済は原則として行わない。

2. レーンを用いない種目

ラウンド通過着に同着がある場合は、その全員を次のラウンドに進ませ、記録上位による通過数は変えない。

B: フィールド競技

1. 予選を行う場合は各組の競技力が均等になるように編成する。

2. 決勝だけを行う長さの跳躍種目において、最初の3回の試技を2カ所に分けて行う場合は両組の競技力が均等になるように編成する。

## 国内競技会での0.001秒差は「着差なし」

発表される0.01秒単位の記録が同じ場合は、競技規則第167条同記録に定めているように、0.001秒単位の記録を比較して着順を決定するが、同条〔国内〕1に示されているように、国内競技会では0.001秒差は計測誤差範囲内として同着扱いとしている。

従って、次のラウンドに進むことができる最終枠に発表された0.01秒単位では同じ記録が複数あった場合でも、抽選の対象となるのは最も良い記録と0.001秒差の記録だけで、最も良い記録から0.002秒以上劣る記録は着差があるので抽選の対象にはならない。

<例>3組2着+2で行われた100m準決勝において、各組3着以下の記録上位者の2番目に10秒57の同記録が4つあり、これらの0.001秒単位の記録は次の通りであった。

A: 10秒561 B: 10秒562 C: 10秒562 D: 10秒563

この場合、最も良いAの記録と同着扱いとなるのはBとCだけであるので、決勝への最終進出枠はA, B, Cの3名で抽選をして決定することとなる。

### 【注意すべき関連事項】

同記録による0.001秒単位の比較は、発表された0.01秒単位の記録が同じ場合にのみ行うものであり、実質的には0.001秒差であっても、発表された0.01秒単位の記録が異なる場合は比較することなく、当然、発表記録の良い方が上位となる。つまり、10秒560と10秒561には0.001秒差しかないが、前者の発表記録は10秒56であるのに対して、後者は10秒57となるので0.001秒単位の記録を比較する必要はない（参照：写真判定）。



## レーンに余裕があれば 着差があっても同記録者は次ラウンドに

レーンを使用する種目の予選や準決勝で、着順に加えてプラスする記録の最後に同記録があった場合には0.001秒単位の詳細な着差判定を行い、それでも解決しない場合は抽選によって進出者を決定するが、レーンに余裕がある場合は競技規則第167条〔国内〕2に示されている通り、着差判定を行うことなく同記録者を次のラウンドに進ませる。

この〔国内〕は、異なる組で発生した同記録への適用を定めているばかりではなく、同じ組での着差があった同記録にも適用することに留意しなければならない。つまりこの〔国内〕は同じ組での同記録で着差があったため着順表示が下位で発表された競技者でも、9レーンがあり、その記録が次のラウンドに進めるプラスの最終枠の記録で、なおかつ他の組に同記録が無い場合には次のラウンドに進ませることを示している。

「レーンに余裕があるのだから、これを有効に活用して最終枠の同記録者はできるだけ次のラウンドに進ませよう」というのがこの〔国内〕の趣旨である。

## 一つのレーンに2人を入れることができる 800m

前ラウンド通過後の100mから800mまでのレーンシードの方法は規則第166条4に示されているが、同条項〔注意〕iiで800m競走ではそれぞれのレーンで2人の競技者が走っても良いとしている。

つまり、次のラウンドにタイムで進出する最終枠に同記録者がいたり、妨害を受けた競技者を審判長が救済したときなどは、この〔注意〕を適用して1つのレーンに2人を配置して、レーン数を超える競技者数で実施することが可能となる。

そうした状況下でしばしば議論されるのは「どのレーンに複数の競技者を配置するべきか」という問題である。競技規則に従って考えると1, 2レーンとなるが、接触等の安全面を考慮すると外側のレーンを使用すべきという意見がある。

ただし、近年の大規模競技会（例：日本選手権やゴールデングランプリ）では、外側レーンぎりぎりまで広告ボードがぐるりと配置され、不正スタート発見装置に連結しているスターティング・ブロックも外側レーンのぎりぎりに置かざるを得ない状況がある。したがって、一番外側の8レーンを避け、一つ内側の7レーンを使用することが適切であると言えよう。

当日、混乱をきたさないようにするためには、競技注意事項の中に「800m以上の種目で最終枠に同タイムがあった場合は、その全員が次のラウンドに進出できることとし、800mについては中位の第7レーンに2名の競技者を配置する」等のように明記しておくことを推奨する。

また10人で実施しなくてはならない場合は7, 8レーンの混雑を避けるために第7レーンの次には第2レーンに2人を入れると良い。いずれの場合も外側レーンは中位グループで、内側レーンは下位グループで抽選する。

## コンピューターを利用する競技会運営

全国大会や国際大会規模の大会処理は、ほとんど参加申し込みから記録集印刷原稿作成するまで処理を行う場合が多い。大会によっては、プログラム作成と大会運営システムは、別々に依頼していることがあるので、各加盟団体主催競技会等を含めてコンピューター処理はどの段階までを行うのか後々の混乱をさけるために事前に確認する必要がある。

### <確認事項>

- ・申込みから資格審査の段階で利用するか。
- ・プログラムの印刷原稿を作成する必要があるか。
- ・競技会処理だけを行うか。
- ・インターネット上に記録等の発表をするのか。
- ・ペーパーレス大会運営をどこまで行うのか。
- ・競技会終了後、デイリープログラムの原稿が必要であるか。
- ・記録集を発行するための原稿が必要か。
- ・参加した各加盟団体に電子データの提供が必要か。
- ・テレビ中継等オンラインによるリアルタイムのデータ提供が必要か。

### 1 記録センターの設置

コンピューターを利用する競技会では、記録センターを設置する。記録センターでは総務員（総括）の下で記録に関するすべての情報を管理把握するとともに、各部署で使用しているコンピューターが正常に作動しているか管理把握する。

#### ① 構成

全国的大会における基本人数（大会期間、1日の競技時間、競技会の性格、種目数等によって増減する）

### <センターメンバー>

- 記録センター長 1人（総務員がなる場合が多い）  
副センター長 1人（記録情報主任がなる場合が多い）

番組編成員	2人～4人（得点集計係を兼ねることもある）
記録担当	2人～4人
情報処理担当	6人～10人（各競技の入力を行う者は除く）
システムエンジニア	2人～4人（公認審判員とは限定しない）
印刷係	8人～10人（必要な場合のみ割り当てる）

※どの担当にも補助員が必要な場合がある。

競技者係、番組編成員、大型映像操作員（競技場に設置されている場合）、アナウンサー、得点集計係（記録員や番組編成員が兼ねる場合もある）、混成競技係、光波計測員、風力計測員、写真判定員、フィールド審判員、出発係、監察員など、それぞれの場所で機器を操作する部署との密接な連携が重要である。

## ② 任務

記録センターの大会での業務は、機器の設営から開始される。事前に競技開始時刻を周知徹底し、業務開始集合時刻を決定し準備に入る。

大会前日までに準備を開始することが可能であれば、可能な場所から設営しておくことが望ましい。

### (a) 記録センター長；

センター内におけるすべての業務を統括し把握する。

### (b) 副センター長（記録情報主任）；

センター長を補佐し、他部署との調整を行う。

### (c) 番組編成員；

予選以降のラウンドの番組編成を行う。競技会の性格によっては決勝後の得点集計係を兼ねる。申合わせ事項等により規則に定める以外の編成を行う場合には、事前に主催者に編成基準を確認しておく。

### (d) 記録担当；

記録の点検を複数人で行う。新記録の管理、競技会記録・申請書類の作成も行う。

### (e) 情報処理担当；

コンピューターやインカムの管理、測定機器（写真判定装置・光波距離計測装置）や表示装置（大型表示盤・フィール

ド競技記録電光表示盤)との連動接続等を担当する。

競技会前に情報処理機器の操作方法を各担当部署の競技役員に講習し、操作間違いや機器のトラブルのときに対応する。

(f) システムエンジニア；

ハード・ソフトウェアの専門技術を担当する。加盟団体内で機器、操作に熟知した審判員を割当てることが前提だが、全国大会規模の大会等では、予期せぬ事態が発生することがあるため、陸連競技運営委員会委員や専門職があたることもある。

特に競技規則以外で特別な申合わせ事項を決めている場合には、ソフトウェアの機能追加・修正などが必要な場合もあるので、大会準備の段階から運営組織に参画していることが望ましい。

(g) 印刷係；

各種リストの印刷・配布を担当する。あらかじめ配布先・必要枚数を確認しておく必要がある。大規模な大会で印刷室が複数になる場合は人数が増える（配布は補助員が行うこともある）。

## 2 留意点

### ① 情報処理の機器整備と位置づけ

加盟団体内で情報処理を行うには、二つの大きな要素が整備される必要がある。まず、第一にコンピューターなどの情報機器の整備などインフラ整備である。情報機器は全国大会や国際大会を開催する第1種公認競技場の使用条件になっているが、実際に競技場に導入されたとしても、そこに出かけてデータ作りを行うわけにはいかない。

競技会のときだけ特別に業務が発生するのではなく、日常恒常的に業務が行なわれている実状なので、委員会や部を位置づけるとともに加盟団体で自由に使用できる機器を導入することも計画しなければならない。個人の好意で機器を使うことにもおのずから限界がある。十分に検討したうえで、一部の人間だけに業務が集中しないように方向づけを行うことが望ましい。

第二に情報処理部門の位置づけである。コンピューターを取

扱う情報処理部門の養成については、加盟団体内での機構に組み込み各種競技会や講習会で養成することが必要である。このことは浸透して来ていると思いますが、より多くの競技会でのコンピューター導入のために部門員の要請をお願いしたい。

## ② 配電施設の配慮

競技場に情報機器等の弱電施設が整備されるようになってきた。

今後、競技場に弱電設備を導入または改修するときは、以下の点を考慮して計画することが望ましい。

## ③ 個人情報の保護

コンピューターを利用することで情報を簡単に交換できるようになった。データをまとめ、メールでエントリーしたり、結果を簡単にブラウザ上で見ることができる。安易にそのようなことができるようになったが、だからこそ必要な人が必要な情報だけを見られるように制限をかける必要がある。個人情報保護の観点からは是非、この問題に関してはじっくり考え、対応したい。

### <弱電施設の導入・改修時の留意点>

- ・競技場の規格に合致しているか。
- ・コンピューター室（記録室）やフィールドアーリーナの弱電ハンドホールの電力容量は十分か。
- ・コピー機や内線ファクシミリが設置されているか。
- ・屋内および屋外のケーブル取り出し位置が適切か。
- ・コンピューターやインカム、タイミングシステムのケーブルが正しく敷設（埋設）されているか。
- ・コネクター盤のコネクターの取り付け方が統一されているか。
- ・インカム配線の端子台はチャンネルごとに分けられているか。クストークはないか。
- ・コネクター取付のピンアサインは間違っていないか。
- ・ハンドホールおよび屋外のコネクター端子盤の防水加工は十分か。

- ・無線 LANを使用する場合利用台数を想定した負荷を考慮してアクセスポイントが設置されているか。
  - ・停電時のバックアップバッテリーは確保されているか。
  - ・その他加盟団体が特に要望する設備，規格等が満たされているか。
- など

[参 考]

- ・現在，陸連運営システムとして，数社が開発運用しているが，全て統一されているものではないので各加盟団体で競技場や使用条件等を検討する必要がある。
- ・競技場内のネットワーク (LAN)  
大別すると下記のネットワークが考えられる。今後，新設・改修する場合，LAN方式の単体使用より組み合わせて使用することが増えると考えられる。

名 称	伝送導体	規格・伝送速度	最大伝送距離
イーサネット (Ethernet)	ツイストペアケーブル 光ファイバー	IEEE802.3 10M/100M/1000Mbps 10Gbps	100m 100m～数十 km
トークンリング (Token Ring)	ツイストペアケーブル	IEEE802.5 4/16Mbps	100m～400m
無線 LAN (WirelessLAN)		IEEE802.11a/b/g/n 2/11/54Mbps	数m～数百m

ただし，組み合わせた場合は，最低の速度となる。

※無線 LANを屋外で使用する場合には，他の無線設備や電子機器等との干渉を受けやすいためあらかじめ通信状態の確認が必要である。また，屋外で使用できない規格もあるので注意が必要である。

### 3 記録の速報について

コンピューターを利用することで迅速で正確な記録処理が可能になり，記録速報も確実にできるようになってきた。ただし，コンピューターもひとつの道具であるから使い方を間違えるとまったく機能しなくなるため，人間がきちんと管理し，一定のルールがなければうまく機能しない。

そのことを踏まえ、コンピューターを利用した記録速報について検討したい。

現在、大型映像表示装置が設置してある競技場では映像と記録発表を効果的に組み合わせて、競技会を盛り上げるとともに、競技を見る人にいろいろな意味で陸上競技に対して興味や関心を持たせる工夫をしている。その中で記録速報は、フィニッシュ付近に置かれたフィニッシュタイマー、フィールド各ピットに置かれた記録電光表示盤、また大型映像表示装置を利用して写真判定の結果をその場で見せるライブリザルトという手法が用いられている。すべて速報であるので、アナウンサーが「速報です。正式結果をお待ちください。」などとアナウンスしたり、大型映像には「判定中」等の文字を表示するなどして、今、どのような結果が競技場内に知らされているのか確認しながら、正式結果をできるだけ迅速に正確に示す必要がある。

このような速報表示ができない競技場では別の記録速報のやり方を検討する必要がある。フィニッシュタイマーやフィールド記録掲示板などがあれば、それを有効に活用して正確で迅速な記録速報を発表する工夫をしたい。また、正式結果をいち早くたくさんの人に伝えるために携帯電話で速報サイトにアクセスさせ、記録が確認できるようなサービスなども有効である。

その競技会にあった記録速報の形を決め、迅速かつ正確な発表ができるよう心がけたい。



#### 4 コンピューターを使用した競技会例

大会名：第77回日本学生陸上競技対校選手権大会

大会規模：1500名程度参加3日間開催

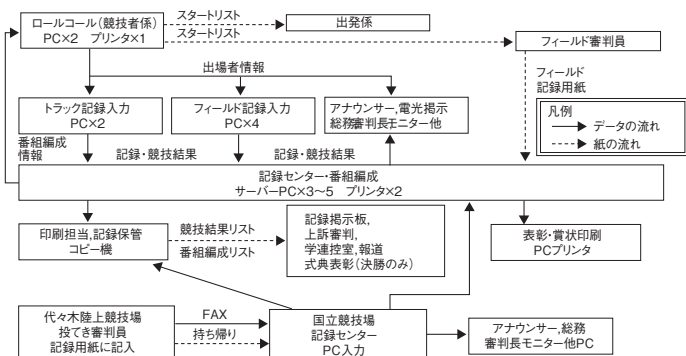
場所：国立競技場

##### ① コンピューターを設置・使用する部署

部署	台数
記録センター	4台，プリンタ1台
写真判定	1台
フィールド各ピット	1台ずつ 計6台
競技者係	2台，プリンタ1台
表彰	1台，プリンタ1台
電光掲示	1台
アナウンサー	4台
総務	2台
審判長	4台
ジュリー（上訴審判）	1台
貴賓室	2台

※このほかに報道用として2～3台用意したほうが良い場合がある。

##### ② 記録の流れ



※ハンマー投予選の結果

- ③ 記録の発表方法など Webサイトおよび公式携帯サイトに競技終了後掲載しています。
- ④ このほか、ペーパーレス化に対応して、出発係や監察員等が携帯端末（i-Padなど）を利用してスタートリストの閲覧や監察の報告をあげることも検討されている。

# 医師（医務員）

## 1 医師および医療チーム

### (1) 国際競技会役員

競技規則第110条で、世界選手権、オリンピック大会、ワールドカップ、エリア大会、エリア選手権大会において、医事代表およびドーピングコントロール代表をおくとされている。医事代表は、医事関係の事項について最終的な権限を有し、競技場において医学的検査、治療、救急医療を行える適切な施設の提供、および選手村における医療の提供を確保する（第113条）。ドーピングコントロール代表は、ドーピング検査を行う適切な施設を整え、ドーピングコントロールに関する事項について責任を負う（第114条）。

### (2) 国内競技会

競技規則第120条で、主催者は競技会役員として医師（医務員）1人以上を任命することと規定している。規模の大きな競技会（都道府県選手権クラス以上）や道路競技会では医療活動を医師1人で行うのではなく、医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士などで構成される医療チームで行うべきである。道路競技では審判員を医務係としてチームに加え、救護車および収容バスに同乗させる。

参加する医療スタッフ全員は、主催者から競技会役員としての委嘱を受ける。

競技規則では医師の権限や任務についての記載はないが、競技会運営上、医師の判断や指示が必要な事項が多いため、その役割は重要である。代表的な事例は、競技中の検診、医療処置である。競技中の競技者に対する助力は厳しく禁止されているが、主催者が任命した医療スタッフ（医師、保健師、看護師、トレーナー、救急救命士など）による検診、医療処置は、助力とはみなされない。競技規則第144条（競技者に対する助力）に「すでに競技区域にいる競技者が理学療法や医療処置を必要とした場合、組織委員会に任命された腕章、ベスト、または他の識別可能な服装を着用した公式の医療スタッフのみが、活動可能である」、競技規則第230条（競歩競技、安全と医事）と第240条（道路競走、安全と医事）に「競技中に、主催者が任命し、腕章、シャツまたは類似の明確に識別できる服装を

着用した医療スタッフによる検診は助力とはみなされない」とある。

競技者は、主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命じられたときは、ただちに競技をやめなければならない。現実的には、医療スタッフから競技者に対する競技中止の助言をもとに、主催者が競技者へ競技中断を指示することとなる。

## 2 資格

競技会における医療スタッフ（医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士など）には公認審判員の資格は不要である。しかしながら、医師については日本医師会による健康スポーツ医、日本体育協会および日本整形外科学会によるスポーツドクター研修制度が実施されているため、これらを修了したものであることが望ましい。また、陸上競技を行っていた、もしくは現在行っている医師は、競技規則にも精通しており、かつ陸上競技者の心身の変化を理解しやすいので適材であろう。スポーツ看護に関する研修制度はないが、スポーツ現場に精通している保健師・看護師がよい。保健師・看護師資格をもっている公認審判員も多く、このような審判員に医療チームに加わってもらおう。トレーナーは日本陸連が実施している陸上競技に特化したトレーナーセミナーを受講修了した者、または日本体育協会公認アスレティックトレーナー資格を持つ者が望ましい。鍼師、灸師、あん摩・マッサージ・指圧師、柔道整復師、理学療法士の資格を持っているトレーナーは、その資格の範囲内で競技者への対応も自ら行える。医師、保健師・看護師、トレーナー、救急救命士は心肺蘇生術や自動体外式除細動器（AED）の取り扱いに習熟していることが求められる。

## 3 任務

医療チームの任務は、競技者、競技者支援要員、競技会役員、ボランティアスタッフ、報道関係者、陸連関係者、観客およびVIPに対して医療サービスを提供することである。主催者は大会の規模により医事衛生委員会を組織し、事前の打ち合わせと適切な準備を行うことが必要である。

国内競技会の場合、医療サービスを行う場所の範囲は主に競技場とウォームアップ場であるが、国際競技会の場合には練習場、選手村、VIPホテルや報道関係者宿舎も含まれる。競技会の応急処置に

対する医療サービス費用は主催者がまかなうのが原則である。しかし、応急処置のみでは対応できない事態に備え、主催者は参加者全員がカバーされる傷害保険に加入するか、もしくは参加者・参加チームに傷害保険加入を義務づける。また、主催者は後方協力医療機関を前もって指定しておく。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。競技会における医療サービスは応急処置を行うまでであることを競技会要項に明記する。

日本陸連（医事委員会）はドーピング検査を実施する国内競技会に対して、医事およびドーピングコントロールに精通したナショナルフェデレーションリプレゼンタティブ（NFR）を派遣する。NFRは日本陸連および主催者の立場で、競技会における検査、治療、救急処置についての設備を確保し、かつ日本アンチ・ドーピング機構（JADA）認定 DCO（ドーピングコントロールオフィサー）と協同し、ドーピング検査が円滑に行われる設備を確保する。

国際競技会の場合には、医事代表とドーピングコントロール代表が IAAF もしくはアジア陸連より派遣されるので、連絡を密に取り、競技会運営が円滑に行われるようにする。

#### 4 競技場における医務活動

主要国内競技会および国際競技会において、医療チームはメディカルステーション（医務室、救護室）、トレーナーステーション、スタジアム救護ステーションの3ステーション制を敷く。主催者は医療関係者を任命する。

メディカルステーションには医師、保健師、または看護師が常駐する。主に競技場、ウォームアップ場において傷害を受けた者に対して応急処置を行うため、競技の進行や傷害の発症機転が把握でき、かつ傷害を受けた競技者の移送を考え、競技場フィニッシュ付近のトラックに面した場所が望ましい。トレーナーステーションは、ウォームアップ場の中でメインスタジアムへの導線に近いところに設置、スタジアム救護ステーションはメインスタジアムのゴール付近と第3コーナーあるいは棒高跳のピット付近に設置し、トレーナーが待機する。大会の規模により2班から5班の編成で行うことがある。待機場所はトラック、フィールド両方の選手の競技が見え

る位置が望ましい。競技会役員が医療チームスタッフに必ず連絡がとれるようにするため、各ステーションには携帯電話、トランシーバーなどを用意することが望ましい。また、医療チームスタッフは、それとわかる目印となるものを身につけるべきである。

メディカルステーションに備えておくべき物品と備品（表1）や薬剤リスト（表2）をあげる。運動中の競技者・審判員や観客の心臓突然死防止のため、AEDを配備する。AEDはメディカルステーションの他、フィニッシュ付近および観客席などに複数準備されることが望ましい。医療記録および活動記録の整備もきちんとしておかなければならない。主催者は医師と必要物品について事前に連絡しあう必要がある。

熱中症発症の危険性が高いと判断される際（できる限り WBGT計を用いる）には、競技者がレース中に水分補給できるように、主催者に指示する（競技規則第144条 競技者に対する助力 給水とスポンジ、第240条 飲料水・スポンジおよび飲食物供給所、第250条 飲料水・スポンジおよび飲食物供給所）。

競技中に雷が発生した場合には、落雷事故を防ぐため、競技会主催者より競技継続または中断、中止に関する情報をただちに知らされるものとする。

## 5 ドーピングコントロール

競技会におけるドーピング検査（競技会検査）はIAAFから指示され実施するものと、JADAが日本陸連と共同で行うものがある。

ドーピングコントロールを実施する競技会は、その旨を競技会要項に記載する。また、IAAFおよびJADAは競技会外検査も実施する。

競技会外検査の対象となる競技者は、主にIAAFもしくはJADAの検査対象者登録リストに記載されているものである。

主催者は競技会役員としてシャペロン役員、検査室役員を任命する。それぞれの役員の要件はJADAにより定められている。JADAは日本陸連医事委員会と調整し、リードDCOおよびその他のDCOを決定する。DCOはリードDCOの指揮のもと、ドーピングコントロールステーションの設営、採尿立ち会い、検査手続きなどを行う。採尿立ち会いDCOは競技者と同性でなければならない。

日本陸連（医事委員会）より派遣されるNFRは日本陸連および

主催者の立場で、DCOと協同し、ドーピング検査が円滑に行われるようにする。

シャペロン役員は20歳以上の成人とする。シャペロン役員はドーピング検査の対象競技者に通告し、それ以降、競技者に付き添う。

競技者は通告後、速やかに検査室に到着しなければならない。競技者が未成年の場合には、成人の競技者支援要員をドーピングコントロールステーションに付き添わせるように競技者に伝える。主催者はシャペロン役員数についてNFRに事前に確認しなければならない。検査室役員はドーピングコントロールステーションの設営、セキュリティの確保、対象競技者などの受け入れ、他の競技会役員との連絡調整などを行う。

ドーピングコントロールステーションは独立した区画で、対象競技者の競技終了後の動線と、関係者以外の出入りをコントロールできるセキュリティを考慮して配置する。検査室は、1.受け付け、2.待合室、3.検査手続き室、4.採尿室（トイレ）で構成される。実施する検査数の規模により広さや採尿室数は異なる。詳細については、当該競技会NFRおよびリードDCOに確認する。

ドーピングコントロールステーションにおいて必要な物品についてあげる（表3）。ドーピング検査を新たに実施する希望のある競技会は、事前に日本陸連事務局まで相談すること。

ドーピングコントロールについては陸連発行「クリーンアスリートをめざして2014」またはその最新版およびJADAホームページを参照のこと。

国際競技会ではドーピングコントロール代表の指示に従う。世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出ること。

世界記録の検査費用は主催者が負担する。海外での国際競技会では、エリア記録、日本記録の検査費用は、競技者個人の立替払いとし、帰国後日本陸連が検査費用を弁済するものとする。

海外の競技会において、日本記録を樹立した場合で、ドーピング検査が行われなかった場合には、日本に帰国後ただちに、ドーピン

グ検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように競技者は陸連事務局へ連絡しなければならない。検査費用は日本陸連負担である。

国内競技会において、日本記録（オリンピック種目のみとする）が樹立された場合、ドーピング検査を24時間以内に受ける必要がある。主催者は日本陸連事務局員にただちに電話連絡を行い、ドーピング検査の実施方法について確認する。検査費用は主催者が負担する。

## 6 トレーナー活動

トレーナーはそれと明示されたビブス等を着用する。トレーナー活動は、トレーナーステーション班とスタジアム救護ステーション班で構成される。トレーナーは競技者の安全確保のため、トランシーバーなどを用い、メディカルステーションと緊密な連絡を行わなければならない。

トレーナーステーション班は競技者のコンディショニング活動を行う。通常はウォームアップ場付近に設営される。トレーナーの人数に合わせてマッサージベッドが必要である。治療器を用いることも多いため、屋外に設営される場合でもAC電源の準備は必要である。設備についてあげる(表4)。応急処置に必要な氷(アイシング用)を十分量用意する。

スタジアム救護ステーション班は、競技中に受傷した競技者に対して、現場にて緊急的処置を行い、または担架/ストレッチャーにてメディカルステーションに搬送する。通常は第1コーナー付近と第3コーナー付近に設営する。棒高跳の場合には、ピット付近へ移動する。応急処置に必要な氷を用意する。AED配備も行う。

## 7 道路競技における医務活動

スタート、フィニッシュ地点には必ずメディカルステーションを設置する。また、走路上に救護テントを設置する。医師、看護師、救急救命士などを配置する。メディカルステーション、救護テントにはAEDを配備する。

競技者は、医師または主催者が任命した医療スタッフから競技の中止を命ぜられたときは、ただちに競技をやめなければならない(競技規則第240条)。



競技規則第144条の「助力」に関するルールでは、主催者が任命した医療スタッフが行う理学療法や医療処置は助力とは見なさないとしているが、「他の人によるこのような介添えや手助けは助力である」と規定している。しかしながら、この条項は主として競技場内で実施される種目に関して規定されたものであり、競技が広域にわたって展開される道路競走では医療スタッフが直ちに現場に到着出来ないことが多いので、主催者は緊急事態が発生した場合に臨機応変に対応できるよう、医療スタッフが到着するまで、監察員や走路管理員に医療スタッフの権限の一部を付託しておく。

AEDを配備した移動救護車、収容バスを用意し、医療スタッフを同乗させる。十分な飲料、毛布などを準備する。競技者を収容したらただちに、大会本部へ競技者名とナンバー、収容地点を連絡する。

主催者は後方協力医療機関を前もって指定しておく。医療機関に対しては、道路競技があることを事前に連絡しておくとうまい。救急車を要請することもあるので、主催者は消防署救急隊へその旨を依頼しておく。

## 8 医師不在の場合

様々な理由で、主催者が医師を任命できない場合がある。主催者は審判のなかから、医療スタッフを任命し、後方協力医療機関や救急隊へ連絡がとれるようにしておく。公認審判員のなかの保健師・看護師免許をもつ者、もしくは救急救命士で心肺蘇生術に習熟し、AEDを取り扱うことのできる者が望ましい。

主催者から任命された医療スタッフは、競技者に競技中断を命じることができる。

## 9 選手村、VIPホテル、報道関係者などの宿舎における医務活動

世界選手権などの国際競技会では、宿舎において医療サービスを提供する。宿舎には医務室を設け、医療チームスタッフが対応する。夜間はオンコール体制とし、24時間対応できるように準備する。

地元医師会へ医師、保健師・看護師の派遣を依頼し、後方協力医療機関を決めておく。

トレーナーサービスも不可欠である。各国選手団が自由に使えるように、マッサージ台を備えたマッサージルームを確保する。

細かな点については医事代表の指示に従う。

## 陸上競技大会・ロードレース大会医事確認書

この確認書は、大会医事運営を滞りなく行うために必要なチェックリストです。

陸上競技審判ハンドブックを参照し、チェック項目を確認のうえ準備を進め、大会2週間前に陸連事務局（FAX: 03-5321-6591 もしくは Email: ma.moritani@jaaf.or.jp）へご回答下さい。

大会名 \_\_\_\_\_

場所 \_\_\_\_\_

競技会開催日 20\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日から\_\_\_\_日まで

総務ご担当者 \_\_\_\_\_

携帯電話 \_\_\_\_\_

### 1 医師または医療チーム

統括医事責任者（メディカルディレクター）氏名 \_\_\_\_\_

医師総数 \_\_\_\_\_名 看護師 \_\_\_\_\_名

トレーナー \_\_\_\_\_名 救急救命士 \_\_\_\_\_名

### 2 スタジアムでスリー・ステーション制を採用する

はい いろいろ

### 3 スタジアムでのステーション設置場所

メディカルステーション \_\_\_\_\_

トレーナーステーション \_\_\_\_\_

スタジアム救護ステーション \_\_\_\_\_

### 4 ロードレースでの救護所設置場所 \_\_\_\_\_

### 5 物品等のチェック

医療用備品チェック  確認済

医薬品チェック  確認済

自動体外式除細動器（AED）配備  確認済（ 台数 \_\_\_\_\_ 台 ）

- 6 後方協力病院への連絡  連絡済

病院名 \_\_\_\_\_

連絡電話番号 \_\_\_\_\_

- 7 日本陸連医事委員会へ連絡事項などがあれば、ご記載ください。

記入者 \_\_\_\_\_ 連絡電話番号 \_\_\_\_\_

記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

**表1 メディカルステーションの設備、備品**

下記の設備、備品は競技会規模やメディカルステーションの広さによって異なる。原則として競技場設備として考える。

流し	1台 (お湯も出る)	
診察用机	1台	
診察用椅子	2脚	
ベンチ	1台	
血圧計	2台	
診察用ベッド	1台 (トレーナー用ベッドのように硬めのもの)	
休養用ベッド	2台	
毛布	4枚	
シーツ	4枚	
まくら	3つ	
まくらカバー	3枚	
バスタオル	5枚	
酸素ボンベ	1本 (充填されているもの)	
携帯用酸素ボンベ	2本	
鼻カニューラ	2本 (ディスポーザブル)	
洗面器	2ヶ	
大型製氷機	1台	
小ビニール袋	20枚 (アイシングのために必要)	
冷蔵庫	1台	
ロッカー	2台	
場内モニターテレビ	1台	
点滴架台	2台	
担架	2本	
ストレッチャー	1台	
電話	1台	
ビニールゴミ袋	5枚	
WBGT計	1台	

自動体外式除細動器      AED      複数台

**表2 メディカルステーションの医薬品と医療用品・医療器具**
**I. 競技会医薬品** (代表的薬剤名をあげる)

**(A) 医療用医薬品**

(\* : 禁止物質であるため、取り扱いに注意を要する)

1. 抗生物質	
ケフラール、セフゾン、クラビット のうち1もしくは2	
2. 抗ヒスタミン剤	
タベジール、ニボラジン のうち1もしくは2つ	
3. 鎮痛解熱剤、抗炎症剤	
ロキソニン、ボルタレン、パファリン のうち1もしくは2	
4. 抗不安剤、鎮静剤	
セルシン	
5. 電解質溶液	
0.9%生理食塩水 500ml(TUE必要)、20ml	
乳酸リンゲル液 500ml(TUE必要)	
5%ブドウ糖液 500ml(TUE必要)	
20%ブドウ糖液 20ml	
6. 眼、耳、鼻	
タリビット点眼薬	
ブリビナ鼻用	
7. 気管支用	
メディコン、レスブレン、ノレプタン のうち1もしくは2	
8. 胃腸薬	
セルベックス	
ガスター	
ブスコパン	
9. 局所麻酔剤、抗炎症剤	
リドカイン1%注 (局所注射用)	
デカドロン注	
10. 交感神経刺激剤	
(i) エピネフリン注 (* : TUE)	
(ii) サルタノール エアゾル	
11. 狭心症治療薬	
ニトロール舌下錠	

TUE : 治療目的使用に係る除外措置の申請が必要。

**(B) 一般用医薬品 (医師の処方箋なく、薬局で購入できる医薬品)**

解熱鎮痛薬	バファリンA、イブ
総合感冒薬	新エスタック12
鎮咳・去痰薬	スカイナーせき・たん用
胃腸薬	ガスター10、ブスコパンA錠、新三共胃腸薬
アレルギー用薬	アレルギーール錠
点鼻薬	バブロン点鼻Z
目薬	サンテドウ
うがい薬	バブロンうがい薬
皮膚外用薬	バンテリンコーワ

**II. 競技会医療用品と医療器具**

<b>1. テープ</b>	
40mm	
25mm	
25mmエラスティックテープ	
75mmエラスティックテープ	
アンダーラップ	
75mm弾力包帯	
150mm弾力包帯	
3Mテープ (翼状針用)	
<b>2. 消毒用</b>	
滅菌ガーゼ 大、小	
アルコール消毒	
イソジン消毒	
ソフラチュール	
綿球	
7.5cm × 20cm粘着被覆材 (adaptic dressings)	
ディスポ消毒セット (セッシ、ハサミ、ガーゼ、綿球入り)	
<b>3. 注射器/注射針</b>	
5ml注射器 注射針つき	
10ml注射器 注射針つき	
20ml注射器	
注射針 18、21、23ゲージ	
点滴セット	

駆血帯	
4. 診断用医療用具	
聴診器	
血圧計	
ペンライト	
パルスオキシメーター	
打腱器	
電子体温計 または 鼓膜体温計（測定部カバー付き）	
5. 蘇生用機器	
自動体外式除細動器（AED） 複数台	
可能ならば アンビューバッグ	
可能ならば 携帯用心電計	
6. その他	
XL バンドエイド	
25mm バンドエイド	
綿棒	
バラマイシン軟膏	
ディスポ舌圧子	
ディスポ外科用メス, #11 と #15	
ディスポ検査用手袋 (M, L)	
ペアン	
ウエルパス 300ml (手指消毒用)	
シップ剤	
7. 非消耗品	
1リットルスクイズボトル 洗浄用 (0.9%生食)	
頸椎カラー ポリネック (M, L)	
ソフトシーネ 下肢用、上肢用	
ハサミ	
三角巾	

**表3 ドーピングコントロールステーションの備品**

DCOが準備する書類、器材以外に競技会主催者が用意するもの  
 競技会の規模により、備品の準備は異なる

血液検査を実施する場合には、事前に別途相談を要する

受け付け	机	1台		
	椅子	2脚		
検査手続き室	机	2台		
	椅子	6脚		
	ハサミ	2ケ		
	水洗トイレ	1式		
	(十分広くて、採尿の立ち会い役員も一緒に入ることができる。検査数によって複数あることが望ましい。検査手続き室付随)			
待合室	机	1台		
	椅子	10脚		
	ソファ	1台		
	毛布	5枚		
	冷蔵庫	2台		
	(1台は飲料保冷用で待合室に設置する、1台は検体保冷用で錠がかり検査手続き室に設置する)			
	競技者用飲み物			
	ミネラルウォーター	適量 (カン入りが望ましい)		
	スポーツドリンク	適量 (カン入りが望ましい)		
	(適量とは500mlまでの大きさをドーピング検査数の3倍程度である。) なお、カン入り飲料入手困難ならば、ペットボトル可			
	テレビ	1台	待合室に設置	
	電話	1台		
	ごみ用ビニール袋	5枚		
	ガムテープ	1巻		
	ティッシュペーパー	3箱		
ウェットティッシュ	1箱			
ボールペン	10本			



**表4 トレーナーステーション用設備**

1. トレーナーステーションが屋外の場合（大会主催者が準備する）  
 規格は大会規模によって変動する場合がある。

(1)	テント：2張り～3張り（40～60㎡）	
(2)	横幕：四方を完全に覆うもの	
(3)	床板：パネルによって床全体を覆うもの（雨天に備えて高さ10cm程度が必要である）	
(4)	電源：電源ドラム1～2基（治療機器に使用）	
(5)	照明：電灯の設置（日没後に活動する場合）	
(6)	サインボード（日本陸連トレーナーステーション）	

2. 共通設備（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する。  
 一部、陸連トレーナー部で所有するものがある。）

(1)	マッサージベッド：2～10台	
(2)	救急キット：1～3セット（スタジアム救護班2セットを含む）	
(3)	固定装具（リストA）1～3セット （スタジアム救護班用2セットを含む）	
(4)	テーピング用品（リストB）	
(5)	衛生材料（リストC）	
(6)	アイスボックス：大型1～3台	
(7)	トランシーバー：メディカルステーション1、 トレーナーステーション1、スタジアム救護2	
(8)	治療機器：活動するトレーナーの所有資格による。 ホットパック、低周波治療器、超音波治療器、その他の治療機器	
(9)	テーブル：折りたたみテーブル3～10台	
(10)	イス：5脚～15脚	
(11)	担架：1台	
(12)	パーテーション：4～8面（プライバシー保護用）	
(13)	ゴミ箱	
(14)	バスタオル 30枚/日、フェイスタオル30枚/日	
(15)	その他トレーナー活動に必要なもの	

### 3. スタジアム救護ステーション用設備（2セット）

（大会主催者とトレーナーが事前に相談して決定する）

(1) 固定装具（リストA）	
(2) テーピング用品（リストB）	
(3) 救急キット（リストC）	
(4) 担架およびバックボード	
(5) トランシーバー	
(6) アイスボックス（携帯用）	
(7) イス	

#### 【リストA】 固定装具

副子（各部位、各サイズ）	
エアスプリントまたはバキュームスプリント	
頸部固定装具（各サイズ）	
三角巾	
その他の固定装具	

#### 【リストB】 テーピング用品

非伸縮性テープ 12mm、25mm、38mm、50mm	
伸縮テープ（ハード）25mm、50mm、75mm	
伸縮テープ（ソフト）50mm、75mm	
伸縮テープ（キネシオソフト）25mm、50mm、75mm	
アンダーラップ	
ラバー（スポンジ）パッド（各種）	
粘着スプレー	
リムーバースプレー	
コールドスプレー	

【リストC】衛生材料：（救急キットの内容を含む）

滅菌ガーゼ（S、M、L）	
カット綿	
洗浄綿	
滅菌綿棒	
サージカルテープ（12mm、25mm）	
圧迫用伸縮包帯（75mm、100mm、150mm）	
医療用伸縮包帯（50mm、75mm）	
バンドエイド（各種）	
アイスバッグ	
テープシザー	
テープカッター	
ラテックスグローブ	
CPRマスク	
手指消毒液	
創傷用消毒液	
ワセリン	
ビニール袋（40cm以上）	
マッサージ用パウダー	
マッサージ用ローション	
マッサージ用オイル	
各種軟膏類	
スクイズボトル（洗浄用）	
その他衛生材料	

# 競技会ドーピング検査（ICT）の手順

## 1 ドーピング検査対象競技者の選び方

NFRおよびDCOが特定の競技者を選ぶこともある（ターゲット検査）が、通常はクジやサイコロにより無作為に対象種目と順位を選ぶ。予選、決勝を問わず競技会参加者は誰でも検査対象となる可能性がある。

世界記録、アジア記録、日本記録（日本記録はオリンピック種目のみとする）を樹立した競技者は、ドーピング検査を受けないと新記録として認められないので、競技者は主催者もしくは審判長にドーピング検査を申し出ること。

- (1) 海外での国際競技会では、世界記録の検査費用は主催者が負担する。エリア記録、日本記録の検査費用は、競技者個人の立替払いとし、帰国後日本陸連が検査費用を弁済するものとする。
- (2) 海外の競技会において、日本記録を樹立した場合で、ドーピング検査が行われなかった場合には、日本に帰国後ただちに、ドーピング検査を受けなければならない。ドーピング検査を帰国後すぐに受けられるように、競技者は陸連事務局へ連絡しなければならない。検査費用は日本陸連負担である。
- (3) 国内競技会において、日本記録（オリンピック種目のみとする）が樹立された場合、ドーピング検査を24時間以内に受ける必要がある。主催者は日本陸連事務局員にただちに電話連絡を行い、ドーピング検査の実施方法について確認する。検査費用は主催者が負担する。

連絡先：日本陸連事務局

※ 該当が予想される大会の担当者は事前に詳細を日本陸連事務局に問い合わせをすること。

## 2 対象競技者への通告とドーピングコントロールステーションへの来訪

シャペロン役員は競技終了後速やかに、対象競技者に対して「ドーピング検査の対象である」ことを伝える。その競技者は承諾書に署名し、競技者は監視下におかれる。署名の拒否はドーピング検査拒否で、ドーピング防止規則違反と判断される。対象競技者が署名した時刻（24時間制）が承諾書に書き込まれ、競技者は速やかにドー

ピングコントロールステーション (DCS) に到着しなければならない (2009年より DCS への到着は通告後1時間以内ではなく、通告後速やかにと変更された)。競技者が未成年者の場合、監督、コーチ、ドクター、トレーナーなどの成人を同伴者として一緒に連れて行くようにシャペロンは競技者に伝える。明確な理由がなく、DCS に速やかに到着しないと、ドーピング検査拒否と判断され、ドーピング防止規則違反と判断されることがある。通告後はシャワーを浴びたり、トイレを利用したりすることはできず、着替えは DCS で DCO 監視下で行う。ロッカールームでの着替えは認められない。

インタビューや表彰などの時も、シャペロンは付き添う。

### 3 ドーピングコントロールステーションでの作業

DCS は待合室、検査室、採尿室で構成される。検査室役員は、競技者を承諾書とナンバーカードで確認、受付をする。AD カードがある国際競技会では AD 確認をする。競技者は、十分な量の尿が出そうでないと思ったら、待合室に用意されているスポーツドリンクやミネラルウォーターを飲んでゆったりと待機する。飲み物は冷蔵庫などから自分でとり、きちんと封がなされていることを自分で確認する。ただし飲み物を飲み過ぎないように注意する。尿が出そうな時は DCO にその旨を告げて、待合室と一緒に付き添ってきた同伴者と一緒に検査手続き室に入る。手順については、DCO の指示に従い、密封された採尿カップを1つ選び、競技者と同性の DCO と一緒に採尿室に入り 90 ml 以上の尿を採尿する (2009年より最低量が 75 ml より 90 ml になった)。同伴者は特別な場合以外は、採尿室には入らない。未成年者が検査対象競技者の場合、同伴者 (競技者と同性でなくとも可) は DCO を監視できる。競技者は検査手続き室へ戻り、検査キット (ベレーグキット) を1つ選ぶ。DCO の指示に従い、競技者自身がキットを封印している青テープをはがし、続いて白テープを引き上げてキットを開封する。A 容器、B 容器、検体番号ラベルを取り出し、すべての番号が同一で、かつキット番号と同一であることを確認する。

競技者は容器のフタを開け、まず B 容器に 30 ml の尿を注ぎ、続いて A 容器に残りの尿 60 ml 以上を注ぎ、フタをしっかりと閉める (これを A 検体、B 検体と呼ぶ)。A、B 検体をキット内に戻し、キッ

トについていた白テープで再度封をする。DCOは採尿カップに残った尿の比重を測定し、各種物質の分析に適した尿検体であるかどうかを確認する。尿比重はデジタル比重計で用いた場合、1.005以上が必要で、尿比重がそれ未満の場合には、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が結果管理する競技会では検査を繰り返すが、次の採尿までの時間間隔の規定はない。また、JADAの指示により、尿比重が基準を満たさなくとも終了することがある。しかしながら、国際陸上競技連盟が結果管理する競技会では尿比重が1.005以上になるまで、繰り返される。次の採尿までの時間間隔は1時間以上空けなければならない。1時間以内に尿意を催した場合には、監視下で排尿するが、尿検体としては採尿しない。検尿テープの場合に1.010以上が必要である。

競技者は使用した薬物やサプリメントに関して申告する。治療目的使用の除外措置（TUE）を受けている場合には、その許可証もしくはコピーをDCOへ提出する。DCOがドーピング検査公式記録書に記入終了後、署名を行い、同伴者と競技者は記載内容を確認する。問題なければ同伴者が署名し、競技者が最後に署名する。競技者は競技者用のコピーをもらい、これで競技会ドーピング検査は終了する。尿検体は世界ドーピング防止機構認定分析機関であるLSIメディエンスへゆうパックチルドで送られる。

一度の採尿で90mlに足りない場合には、部分検体となる。部分検体を安全に保管するためDCOの指示に従い、部分検体キットとベレーグキットを選び、ベレーグキットよりA容器のみを取り出す。採取された尿すべてをA容器に入れ、部分採尿キットの白いフタを用いて閉める。A容器をベレーグキットに戻し、A容器のオリジナルのフタをし、ベレーグキットを部分検体キット青テープで閉鎖する。DCOは部分検体青テープに記載された番号をドーピング検査公式記録書に記載する。部分検体の入ったベレーグキットはDCOが保管する。競技者は待合室で水分補給をし、尿をためる。

同様の手順で再度、採尿カップを選び採尿を行う。部分検体が正しく保管されていたことを、DCOと競技者が確認し、競技者がA容器を取り出す。新たに尿カップを選び、その中に1度目に採尿したA検体尿を注ぎ、次いで2度目に採尿した尿を注ぎ入れ、総量が

90ml以上とする。十分な量があれば、上記のように検査は進むが、足りなければ再度部分検体となる。

待合室で水、スポーツドリンクなどの飲み物は準備される（ビールなどのアルコール飲料は準備されない）が、食事の準備はない。

競技者は自己責任のもと、自分で準備した飲み物および食事を摂ることは可能である。

ひとたび検査室に入ると室外に出られないのが原則であるが、表彰、インタビュー、医師やトレーナーによる治療、もしくはクーリングダウンが必要な時はDCOに相談し、シャペロンの付き添いのもと、室外へ出ることを許可されることがある。

DCS内では写真撮影、ビデオ撮影は禁止され、検査手続き室では携帯電話の使用も禁止される。

また、NFRはDCSで検査に立ち会うことができる。

# 公式計測員

## 1 任務

競技会前に公認陸上競技場としてのマーキングと設備の正確性を確認し、その旨を技術総務に証明する。これを確認するために、競技場の設計図、図面および最新の計測報告書を見ることを全面的に保証されなければならない。(競技規則第135条)。

国内競技会では上記の任務のほか、用器具について技術総務に代わって確認する。また、技術総務が兼任してもよい。

## 2 留意点

国内では公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程等に基づき検定を実施し、公式の陸上競技会を開催し得る十分な精度のある適切な施設であると認定しているので、次の事項について点検、確認をし、技術総務に報告する。また、検定報告書を閲覧できるようにする。

- (1)トラック1周の距離の確認…縁石の状況及び検定時の計測結果を確認する。
- (2)走路の確認…走路の状況及び幅・レベルの検定時の計測結果を確認する。
- (3)走高跳跳躍場の確認…着地場所と助走路の状況及び幅・レベルの検定時の計測結果を確認する。
- (4)棒高跳跳躍場の確認…着地場所と助走路の状況及び幅・レベルの検定時の計測結果を確認する。
- (5)走幅跳、三段跳跳躍場の確認…砂場、踏切板、助走路の状況及び幅・レベルの検定時の計測結果を確認する。
- (6)砲丸投投てき場の確認…サークルの状況及びレベルの検定時の計測結果を確認する。投てき角度を確認する。
- (7)円盤投投てき場の確認…サークルの状況及びレベル検定時の計測結果を確認する。投てき角度、囲いの設置を確認する。
- (8)ハンマー投投てき場の確認…サークルの状況及びレベルの検定時の計測結果を確認する。投てき角度、囲いの設置を確認する。囲いの開口部までの距離、高さが円盤投と異なるので注意する。
- (9)やり投投てき場の確認…助走路の状況及び幅・レベルの検定時



の計測結果を確認する。投てき角度を確認する。

- (10) 障害物競走設備の確認…水濠、固定障害物、移動障害物の位置・高さを確認する。
- (11) 各スタートライン、テーク・オーバー・ゾーン、ブレイクライン、ハードルの位置の確認。…検定時の計測結果を確認する。ハードルを設置位置は、技術総務、用器具係主任と連携して確認する。
- (12) フィールド内のレベル確認…レベルは検定時の計測結果を確認する。
- (13) 計測器具の確認…鋼製巻尺、走高跳用高度計、棒高跳用高度計、電気距離計測装置、跳躍距離透視計測器等を確認する。
- (14) 公式用器具の確認…競技規則に規格のあるものは競技開始前に検査しておく。
- (15) 借り上げ公式用器具の検査…本連盟が主催・共催する競技会で備え付け器具のリストにない場合、または主催、共催する競技会以外の競技会で、主催者が用器具を十分に準備できない場合、競技会規定に基づき競技者のものを主催者が一時借り上げることがある。

個人の投てき用具の借り上げを許可した競技会では、借り上げ用器具の検査項目の要領により検査する。

借り上げ用器具は、すべての競技者が使用できることが条件となる。

公式用器具（競技規則第187条）

- 1 本連盟が主催、共催する競技会で用いる用器具は本連盟が認可したものでなければならず、現在、本連盟の規定した規格に合ったものだけが使用できる。（以下略）
- 2 本連盟が主催、共催する競技会における用器具は主催者が用意する。これらの競技会で競技者は他のいかなる用器具も使うことはできない。（以下略）

- (16) マラソンコース、競歩コースの確認…計測されたコースとの合致、競技に支障となる個所の可否、スタートライン、フィニッシュライン、折り返し点、中間点、5km毎のポイントを確認する。

### 3 借り上げ用器具の検査

本連盟の規格に合った物だけが使用できるので、規格に一致しているか、技術総務に代って、公式計測員が以下の要領で検査を行い、合格したものには印またはシールを貼付する。

#### (1) 砲丸

- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 完全な球形で滑らかであるか。
- ③ 振って音がしないか。
- ④ 規格を調べる。…重量，直径を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，砲丸検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリバー）

#### (2) 円盤

- ① 本連盟の検定印（刻印）又は検定シールがあるか。
- ② 外側の縁（枠）の表面はでこぼこがなく，仕上がり全体は滑らかであるか。
- ③ 振って音がしないか。
- ④ 規格を調べる。…重量，直径を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，円盤検定器（ない場合＝厚みを計れるノギス・キャリバー）

#### (3) ハンマー

- ① 本連盟の検定印（刻印）または検定シールがあるか。
- ② 頭部は完全な球形であるか。
- ③ 振って音がしないか。
- ④ ベアリングまたはボールベアリングが回転するか。
- ⑤ 接続線（ワイヤー）が屈折していないか。
- ⑥ 規格を調べる。…重量，全長，直径を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，ハンマー検定器（ない場合＝直径を計れるノギス・キャリバー，メジャー）

#### (4) やり

- ① 本連盟の検定シールがあるか。
- ② 表面が滑らかであり，湾曲部分がないか。
- ③ グリップの紐がほころんでいないか。
- ④ 重心は正しい位置にあるか

⑤ 規格を調べる。…重量，全長，先端から重心までの距離，定められた位置とその直径，グリップの幅を確認する。

◆検査に必要な器具…はかり，ノギス，計算機，やり検定器（ない場合＝重心を計測する山型の部材，メジャー）

# 用器具係

## 1 任務

技術総務のもとに用器具係をおく。用器具係は、各競技に必要な用器具を整備し、その競技開始前にこれを配置し、競技終了後にこれを撤収する。(競技規則第123条〔国内〕)。

技術総務の指示により、競技者が満足な競技ができるように競技日程に従って整備計画をつくり、不備がないようにする。

競技会に必要な用器具を詳細に点検整備する。各競技の用器具は配置あるいは各担当審判員に引き渡し、その担当審判員が設置・撤収を行う(用器具配置分担表参照)。競技実施中における競技場、道路競技におけるコースの状況管理を行う。

トラックを整備するために置かれていた競技場整備係は、全天候舗装の競技場が普及し、トラック関係の任務をしていたが、最近では用器具係が行っている。

## 2 準備・引き渡し・配置

### (1) トラック

取り外し式縁石のチェック、障害物用代用縁石の設置、水濠の注水審判台およびフィニッシュポストの設置、ラップ用旗、コーナートップ用旗、レーンナンバー標識、スターティングブロックの配置。

ハードル・障害物の設置。手旗等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。

### (2) 各跳躍場

助走路の確認、砂場の砂の量と湿り具合の確認、棒高跳ボックスの設置、マットおよび支柱の配置、競技者用長椅子の搬送、踏切板等審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す。雨天時の競技者用テントの設置。

### (3) 各投てき場

足留材の取り付け、兼用サークル、やり投の助走路の確認、円盤投・ハンマー投の囲いを投てき審判員と共同で設置、サークル両側の750mmのラインの確認、白色等テープ・距離標識、投てき器具および審判用具一式を準備し担当審判員に引き渡す(投

てき角度線は状況により投てき審判員と共同で設置する場合もある)。天候に応じて競技者用テントの設置。

### 3 留意点

- (1) 技術総務の指示によりプログラムに基づく競技進行計画表と施設配置図をつくる。
- (2) 電気機器関係では、各種目毎の電源確保と情報機器の設置場所の確認をする。特に写真判定装置、情報処理端末器、電気距離計測器、デジタル式風力計の管理、動作状況について、技術総務と連携して競技場管理者と十分な話し合いを行い保管、整備について配慮してもらう。
- (3) 10,000m, 5,000m, 3,000mでグループスタートを行う場合、外側の走路では、スタートラインの約10m先より代用縁石を1本おきに置くようにする。
- (4) ハードルの種目毎の高さ、位置を確認し配置をする。担当の場所だけでなく、前後のハードルも確認する。競技中の修正は、監察員の任務となる。
- (5) 障害物競走の代用縁石の設置と水濠の注水時間の確認。9レーンで外に水濠がある場合、第1障害を移動する競技場がある。
- (6) 跳躍競技では風向きにより助走の方向が変わる場合があるので、跳躍審判長、技術総務と砂場、マットの位置を協議して決める(設置は担当競技審判員)。
- (7) 走幅跳・三段跳では踏切板・粘土板、計測機器を担当審判員に引き渡す。粘土は油性のものを用意する。  
三段跳では助走路が短い場合、補助マットを用意する。
- (8) 高度計、投てき用公式用器具は天候などの影響を受けないよう競技練習に合わせて引き渡すようにする。
- (9) 電光掲示盤、フィニッシュタイマー、テント等大型の機器、器材については観客席より競技中に死角にならないよう配慮して配置する。
- (10) 配置、設置した各機器等の撤収について、競技の邪魔にならないようにタイミングを考慮する。
- (11) 雨天時における走路、助走路の雨水処理について担当主任審判員と打ち合わせをする。

- (12) 走路，助走路が土質の場合は，レベルの調整，適切な硬さを維持するため，撒水のうえローラー仕上げをし，各スタートライン，テーク・オーバー・ゾーン等のライン引きを行う。棒高跳の助走路は，ボックスの入口が助走路と同じレベルになるようにする。

#### 4 用器具類 (参考例)

(1) トラック関係

フィニッシュポスト，審判台，周回表示器，スターティングブロック，監察員用手旗，レーンナンバー標識，ラップ用旗，コーナートップ用旗，吹流し，スタート用拡声器，折りたたみ椅子，信号器，スターター台，スタート合図用黒板，障害物用代用縁石，ハードル，障害物，バトン，表彰台，抽選器，監察マーカー，ラップ用旗，トラック競技速報表示器，競歩失格・警告用円板（パドル），競歩警告掲示板，フィニッシュタイマー，ブレイクラインマーカー。

(2) 走高跳

走高跳用高度計，走高跳用マット，支柱，バー，フィールド用成績表示器，フィールド位置表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカー，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，チョーク，吹流し。白色テープ。

(3) 棒高跳

棒高跳用高度計，ボックス，棒高跳用マット，支柱，バー，バー上げ器，ポール置き台，フィールド用成績表示器，フィールド位置表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカー，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，チョーク，吹流し，白色テープ，リボンロッドおよび止め金具。

(4) 走幅跳，三段跳

走幅跳・三段跳用距離測定器，または鋼製巻尺，踏切板，粘土板，踏切板標識，フィールド成績表示器，フィールド位置表示器，フィールド用制限時間告知器，フィールド競技用距離表示マーカー，記録用机・椅子，競技者用長椅子，テント，ビーチパラソル，ハンドマイク，ほうき，手旗，差し込み棒，チョーク，粘土，吹流し，白色テープ，リボンロッドおよび止め金具，記録標識，レー

キ、スコップ、散水用ホース、ブラシ。

(5) 砲丸投

砲丸、砲丸置き台、足留材、足拭きマット、雑巾、フィールド用成績表示器、フィールド用制限時間告知器、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、レーキ、光波計測器、または鋼製巻尺、計測ピン。

(6) 円盤投

円盤、円盤置き台、囲い、足拭きマット、雑巾、フィールド用成績表示器、フィールド用制限時間告知器、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、レーキ、光波計測器または鋼製巻尺、吹流し、計測ピン。

(7) ハンマー投

ハンマー、兼用サークル、ハンマー吊り台、囲い、足拭きマット、雑巾、フィールド用成績表示器、フィールド用制限時間告知器、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、レーキ、光波計測器、または鋼製巻尺、計測ピン。

(8) やり投

やり、やり立て台、雑巾、フィールド用成績表示器、フィールド用制限時間告知器、フィールド競技用距離表示マーカー、記録用机・椅子、競技者用長椅子、テント、ビーチパラソル、ハンドマイク、ほうき、手旗、チョーク、競技者表示用ペグ、距離目標線テープ（距離に応じて赤・黄色が必要）、角度線用白色テープ、リボンロッドおよび止め金具、距離標識、レーキ、光波計測器または鋼製巻尺、吹流し、計測ピン、コーン。

## 用器具分担表

	用器具係にて配置する用器具	当該主任審判員渡しの用器具	共同で設置の用器具
総務・総務員		机, 椅子, 旗	本部席
審判長		椅子, 審判用警告カード(赤・黄)	
番組編成員		机, 椅子, 抽選器	大会役員席(アナウンサー)
アナウンサー		時計・双眼鏡, 通信放送一式	大会役員席(番組編成員)
報道係		報道関係者制限ロープ, 机, 椅子, 記録配布箱, 報道に関するものすべて	
記録・情報処理員		机, 椅子, 雨天用覆い, 事務用品等記録に関するものすべて	事務用品(庶務)
マーシャル(場内司令)		報道関係者制限ロープ, 椅子, 安全ロープまたはコーン, コーンパー, 屑入れ	
医師		机, 椅子, 担架	救急箱(庶務)
競技者係	競技者用長椅子	机, 椅子, 掲示板, リレー用色テープ, はさみ	テント(監察員, 周回記録員)
役員係		机, 椅子	テント, 湯茶(庶務, 用器具係)
庶務係		机, 椅子, 事務用品	
表彰係		机, 椅子, 表彰台	お盆(庶務)
写真判定員		椅子, 望遠鏡, 写真判定に関するものすべて	
印刷係		印刷機器一式	
風力計測員		机, 椅子, 風力速報表示器, 風速計, 温湿度計, パラソル, 吹流し, 風力計測用曲走路標識(コーン), 時計, 通信機器	事務用品(庶務)



公式計測員		ノギス, 10kg はかり, 鋼鉄製巻尺, やり検定器, ハンマー検定器	
用器具係	ハードル(100mH, 110mH, 400mH), 障害物, 障害物競走・グループスタート代用緑石, 競技者用長椅子, スターティング・ブロック, レーンナンバー標識, コーナートップ用旗		
決勝審判員	フィニッシュポスト	机, 椅子 (ビデオ関係), トラック競技速報表示器, フィニッシュタイマー, 折りたたみ椅子, 通信機 (インカムなど)	テント (計時員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品 (庶務)
計時員		机, 椅子, 時計 (主任が一括), 折りたたみ椅子	テント (決勝審判員, 記録・情報処理員, アナウンサー), 事務用品 (庶務)
監察員	コーナートップ用旗, ラップ用旗, ブレイクラインマーカ	折りたたみ椅子, 通信機器 (インカム), 監察マーカ, 黄手旗, (ラップ用旗, ブレイクラインマーカ)の競技中の配置, 撤去)	
スターターリコーダー		折りたたみ椅子, 信号器, スタート黒板, 拡声器, スターター台, 時計記録板, 通信機器 (インカム等)	雷管 (庶務)
出発係	競技者用長椅子	スターティング・ブロック, バトン, スタート用警告カード (赤/黒, 黄/黒, 緑), レーンナンバー標識, 脱衣籠	
周回記録員		机, 椅子, 周回表示器 (鐘付), 画板	記録用紙その他 (庶務)

跳躍審判員	跳躍マット, 走高跳用支柱, 棒高跳用支柱(設置は担当審判員), 電光掲示板, テント, ボール置台, 競技者用長椅子	机, 椅子, 高度計(走高跳, 棒高跳), 距離測定器, 距離標識, 成績表示器, 位置表示器, 制限時間告知器, 踏切板, 粘土板, パー, 距離表示マーカー, 手旗, ハンドマイク, 粘土, チョーク, ほうき, ビーチパラソル, 吹流し, 白色テープ, リボンロッド	
投てき審判員	電光掲示板, 砲丸返送台, 用具置き台, テント, 競技者用長椅子	机, 椅子, 距離測定装置, 距離標識, 成績表示器, 制限時間告知器, 足留器材, 兼用サークル, 距離表示マーカー, 競技者表示用ペグ, 足拭きマット, 手旗, ハンドマイク, チョーク, ほうき, コーン, ビーチパラソル, 吹流し, 白・黄色等テープ, リボンロッド, 投てき用器具	罫い, ガード(公式計測員, 用器具係)
競歩審判員		競歩警告用円板, 失格用円板, 警告掲示板	

# 招集所審判長

## 1 任務

招集所審判長は必要に応じて1名以上任命され(規則第125条1),以下の任務を負う。

本連盟の指定した競技会には招集所審判長をおく。

### (1) 監視責任

招集が競技規則・競技注意事項によって正しく行われているかどうか(遵守)を監視し,その結果について責任を負う(規則第125条2)。

### (2) 技術的な問題の処理

招集所で起こったすべての技術的問題(規則に違反したかどうかの問題を含めて)について,適切に処理し決定する。また,競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する(規則第125条2,4)。

### (3) 規則にない事項

競技規則や競技注意事項に明らかに規定されていない事項についても,的確に処理し決定する(規則第125条2,4)。

### (4) 本連盟が主催・共催・後援する競技会や広告協賛を付し競技会におけるスポンサー広告保護について

競技者が着用する衣類やバック等についても,的確に対応する。(競技会における広告・商標,競技会における広告および展示物に関する規程)

## 2 権限

招集所審判長は,競技規則第125条により以下の権限を有する。

### (1) 棄権の裁定,および失格

招集完了時刻等に遅れた競技者を,棄権したものと裁定し処理し,また規則に違反した競技者を失格させる権限を持つ。

- ① 招集完了時刻に遅れた場合。
- ② リレーのオーダー用紙提出時刻に遅れた場合。
- ③ リレーのオーダーを不正に編成して提出した場合。
- ④ その他,規則や競技注意事項に違反した場合。

### (2) 警告と除外

不適当な行為をした競技者に警告を与えたり,当該競技から除

外する権限を持つ。警告は黄色のカード、除外は赤のカードを示すことによって競技者に知らせる。警告や除外の事実は記録用紙に記入する（規則第125条5）。

### 3 実施要領

#### (1) 競技開始前

##### ① 競技注意事項等の確認

プログラムに記載されている競技注意事項および申し合わせ事項（監督会議があった場合はそのときの決定事項）を確認し、競技運営が円滑に行われるように準備する。

##### ② 競技者係主任の任務を確認させるとともに、競技者係の役割分担を徹底させる。

##### ③ 招集場所とそこで使用する機器・器具の準備状況を点検し、落ち度のないように整えさせる。もし準備に支障をきたすようなことがあったら、ただちに総務・技術総務と連絡をとり、競技開始前に処理させる。

##### ④ 混成競技が行われる競技会においては、事前に混成競技審判長と役割について十分打ち合わせをしておくことが望ましい。

#### (2) 競技中

##### ① 招集が競技規則・競技注意事項によって正しく行われているかどうか（遵守）を監視する。〔競技種目、組別、招集開始時刻、ナンバーカード（ビブス）・ユニフォーム・スパイク・商標（バッグ・シャツ）などの点検・確認、招集完了、誘導等〕

##### ② 規則に違反する行為があった場合について、適切に処理し決定する。また、競技運営に関する異議もしくは抗議を裁定する。

## リレーメンバーの登録と交代

リレーメンバーの登録と交代に関する規則が変更になってから久しいが、未だにメンバーの組み方の可否に関する問い合わせがあるばかりでなく、規則違反による失格事例も少なくない。

提出されたオーダー用紙のチェックに関わる審判部署（競技者係や TIC）においては、規則違反のオーダーが提出された場合には瞬時に指摘して再提出をさせるなど、大きなトラブルに発展しない確認・指導システムを設定しておくべきである。

**1. 最初のラウンドからリレーメンバーに登録していない競技者が出場できる。**

最初のラウンドに出場できるのはリレーに登録した競技者以外にその競技会の他種目にエントリーしている競技者であれば出場できる。（ただし、後述の4. 遵守）

**2. 予選に出場した4人からすべての作戦が始まる。**

交代とは「一度出場した競技者が他の競技者と代わること」であるので、リレーに登録していない競技者が最初のラウンドに出場する場合は交代ではない。従って、最初のラウンドで出場した4人が基本となり、以後すべてのラウンドを通して2人以内の交代が可能である。（ただし、後述の4. 遵守）

**3. 一度出場した後で交代した競技者でも再びメンバーに戻ることができる。**

以前は一度出場した後で交代した競技者はチームに戻ることができなかったが、現規則では可能であり、しかも復帰は新たな交代数に加算されない。

例えば、予選を通過した後、メンバーを2人交代して準決勝も通過したが、決勝までの間に何らかのアクシデントが発生して走れない競技者が出てしまった場合、以前の規則では新たな交代は許されないので決勝を棄権するしかなかったが、現行規則では、予選の時に走った競技者であれば新たな交代数には加算されないので再びメンバーに戻って決勝に臨むことができる。

**4. 全ラウンドとも、リレー登録者が2人以上含まれていなけ**

ればならない。

上記の如くメンバーの組み方は多様化したが、どのラウンドにおいても出場する競技者4人のうち少なくとも2人はリレーに登録している競技者でなければならないことに十分留意しなければならない。

### 同一所属団体が複数のリレーチームを エントリーしたときのメンバー変更

各陸協が主催する競技会のリレー種目では、同一所属団体が複数のチームをエントリーすることを認めている場合が多いが、「同一所属団体であればチーム間にまたがるメンバー変更は認められるか？」との議論があり、本連盟への問い合わせも多い。

これに対する本連盟審判部の見解は「リレーのチームはそれぞれが独立しており、たとえ所属団体が同じであっても、チーム間にまたがるメンバー変更は認められない」と統一している。

しかしながら記録会等の小規模競技会では、できるだけ多くの者に競技会出場の機会を与えてやりたいという配慮から、4人ぎりぎりのメンバー構成で多くのチームをエントリーする団体もあり、チーム間にまたがるメンバー変更を一切認めないとすると、当日何かの事情で誰かが出場できなくなった場合はそのチームの全員が出場の機会を失うので、何とかしてやりたいという要望もある。

そうした競技会での最終判断は主催者側の決定であり、上記の本連盟見解を基本としながらも主催者があらかじめリレーのメンバー変更に関するローカル・ルールを設定して、申し込み時に周知徹底しておけば問題はない。

ただし、最初のラウンドでチームが組めなくなったメンバーがどこかのチームに加わることを認めたとしても、前のラウンドに出場して敗退したチームのメンバーを勝ち上がった他のチームに加えることは認めるべきではない。

# 競技者係

## 1 任務

- (1) 競技注意事項に定められた競技者招集の規定に基づき、出場者の出欠および競技にさしつかえない準備の状況を点検し、速やかに競技場所に誘導し定刻に競技できるように配慮する（規則第138条）。
- (2) 参加確認が終了した競技者名を、コンピューター処理を行う競技会ではコンピューター端末に入力し完了する。コンピューター処理を行わない競技会では、流し記録用紙に記入して、手早く関係役員に配布する。
- (3) 参加確認が終了した競技者を適切な時刻に競技場所まで誘導する。
- (4) 本連盟が指定した競技会には招集所審判長をおく。

## 2 実施要領

- (1) 競技会の規模に応じて以下の項目について、招集方法を決めておく。
  - ① 招集場所
  - ② 招集完了時刻
  - ③ 招集方法（複数組の場合は、1組単位の招集が望ましい）
  - ④ 2種目以上兼ねている時の招集方法
  - ⑤ 各種申請用紙の提出および確認の方法  
（リレー・オーダー用紙、2種目同時出場届、棄権届など）
  - ⑥ 点検・確認事項
  - ⑦ 混成競技の招集方法（つぎの種目への間隔は最小限30分を確保する）
- (2) 招集進行計画（確認事項）
  - ① 競技種目
  - ② 組別（組数が多い場合は数組に分けて実施）
  - ③ 競技時刻
  - ④ 招集開始
  - ⑤ ナンバーカード（ビブス）、ユニフォーム、スパイク、商標（バッグ、シャツ）などの点検、確認

- ⑥ 招集完了
- ⑦ 誘導経路～待機場所，ピット
- ⑧ 誘導出発，到着時刻
- ⑨ 流し記録用紙（コンピューター入力）
- ⑩ 担当班

<進行計画表作成例>

・招集開始	トラック	30分前
	フィールド	40分前
	（棒高跳	70分前）
・集合・点検	トラック，フィールド招集完了	4～5分前
・招集完了時刻	トラック	20分前
	フィールド	30分前
	（棒高跳 60分前 砲丸投	20分前）

### (3) 混成競技の招集

混成競技では競技が継続して進行するので，両日の第1種目，十種競技では第1日目100m，第2日目110mハードル，七種競技では第1日目100mハードル，第2日目走幅跳だけは一般の種目の招集方法と同様に行う。

混成競技係は，各日第2種目以降は，競技注意事項の定めにより混成競技者控え室または現地で招集に準ずる手続きを行い，スタートリストを配布する。

## 3 留意点

- (1) 誘導は迅速に行う。





- (2) 誘導経路は、バックストレート外側を通り（極力ホームストレート側の通路を避けて）、最後にトラック、フィールドを横切って競技場所に到着させる。



- (3) 競技会の規模によりトラック競技においては、役員に余裕がある場合、1組ごとに誘導する。
- (4) スタートリスト

コンピューターで処理する場合は、出場者・欠場者を入力し、各部署が確認できるようにする。

以下は、コンピューター入力を実施しない競技会の例である。

① トラック競技

スタートリストは、予選においては競技開始10分前までに配布を完了する。

配布先(例)

競技者係控／総務／担当総務員／トラック審判長／アナウンサー／出発係（リレー4枚）／決勝審判員主任／計時員主任／写真判定員／電光掲示係（施設がある場合）／風力計測員／本部記録／情報処理員／監察員主任（リレー4枚）／報道係／周回記録員（800m以上）／掲示用（2枚）

通常17枚     リレー23枚

② フィールド競技

スタートリストは、招集完了後速やかに配布を完了する。

配布先(例)

競技者係控／総務／担当総務員／アナウンサー／フィールド審判長／フィールド審判員主任／フィールド審判員記録担当（2枚）／風力計測員／本部記録／情報処理員／報道係，掲示用（2枚）

予選12枚

③ 決勝（参加競技者が24人を超え予選を行った場合）

番組編成員から編成用紙を受け、速やかに配布を完了する。

④ 棄権，追加，2種目以上出場している場合

棄権の印は，赤線で明瞭に抹消する。また，追加の際は，ナンバー・氏名・所属を記入する。他の種目に出場している時は，〇〇出場中と明記する。「2種目同時出場届」がある場合は配布，受領を行う。

⑤ リレーのオーダー用紙の提出時刻は，各ラウンドの第1組目の集時刻の1時間前までに提出。(規則第170条11)。

また，用紙は招集所に用意する。競技注意事項に明記しておく。

(5) ナンバーカード(ビブス)，ウェア，スパイクシューズ，バッグなどの点検

競技者の点呼と同時にナンバーカード(ビブス)が胸・背・腰に確実に且つ，脱落しにくく付けられているか，スパイクシューズ，ユニフォーム，および持ち込む荷物についてルールに抵触していないかを確認する(競技規則第143条・競技会における広告および展示物に関する規程)。

① 服装

全国的な競技会でのリレー競走においては，チームの出場者は，ランナーの身誤りをなくすために，同一のユニフォームを着用する。(短パン - スパッツの違い等は許容範囲)

② 商標の取り扱い

特に，Tシャツやトレーナー，ベンチコート，バックなどには大きな商標のついたものがあるので，持ち込む場合にはテープで隠すなどの処置をする。(競技会における広告および展示物に関する規程)

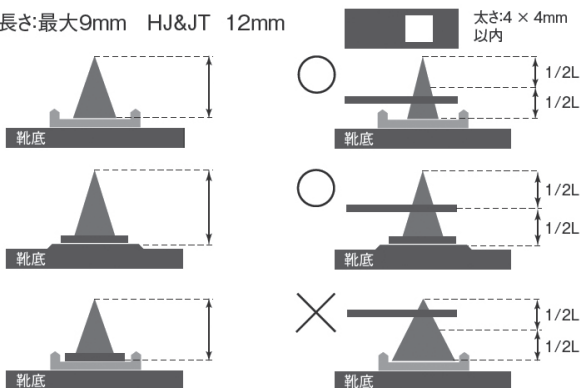


大会のロゴマーク等の入ったステッカーを使用した例

③ 競技用靴

- (a) 競技用靴は競技者にどんな補助をも与えるようにつくられたものであってはならず、バネやその他の仕掛けが靴に組込まれてはならない。
- (b) 靴底および踵は11本以内のスパイクを取りつけられる構造とする。11本以内であれば、スパイクは何本でも良い。
- (c) 全天候舗装競技場で行う競技会においては、スパイクの長さは9mm（走高跳、やり投は12mm）を超えてはならない。またスパイクの直径は先端近く（少なくとも長さの半分）で4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。
- (d) 靴底または踵にはうね、ぎざぎざ、突起物などがあってもよいが、これらは靴底本体と同一もしくは類似の材料で作られている場合に限る。
- (e) 走高跳と走幅跳の靴底の厚さは13mm以内、走高跳の踵の厚さは19mm以内でなければならない。その他の種目の靴底と踵の厚さは自由である（規則第143条）。

長さ:最大9mm HJ&JT 12mm



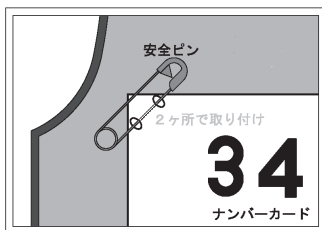


スパイクの検査

- ④ ナンバーカード (ビブス)
- (a) 競技中、胸と背にはっきり見えるように2枚のナンバーカード (ビブス) をつける。ただし、跳躍競技の競技者はどちらか1カ所が良い。
  - (b) 配布された形で着用する。切ったり、折ったり、たたんだりしてはならない。
  - (c) 長距離種目では、風通しの穴をあけてもよいが、数字や文字の部分に穴を開けてはならない。
  - (d) 写真判定装置を使用する競技会では、腰ナンバー標識をつけさせる。
  - (e) いかなる競技会であろうと、競技者は自分のナンバーカード (ビブス) その他の標識を着用せずに参加することは認められない。(競技規則143条)
  - (f) 競技中にナンバーカード (ビブス) が外れないように、競技者がナンバーカード (ビブス) をユニフォームに結着する際、確実に且つ、脱落しにくく付けられているか、ナンバーカード (ビブス) の4隅のそれぞれ2ヶ所に安全ピンを通し競技中にナンバーカード (ビブス) が外れないよう注意する。

また、競技中上着で腰ナンバーが隠れることの無いように注意する。

- ⑤ その他  
携帯電話・トランシーバーなどの通信機器や



ビデオカメラ・CD、MDなどの携帯音楽プレイヤーも競技場内に持ち込むことが禁止されているので注意を促すこと。申し合わせ事項によって一時預かる場合もあるので注意する。

持ち込み禁止リスト  
電子機器類  
MD CD  
携帯プレイヤー  
携帯電話  
持ち込めません  
  
預り証に記入し、  
競技者係に預けてください

ペットボトルのラベルを  
はがしてください！  
協賛保護のため、  
ご協力お願いします。

- (6) 招集所以降は、競技場所という扱いとなるので、競技開始前であろうと競技者以外の者は進入することは許されないで注意すること。



- (7) 「第1招集」「第2招集」とは必ずしも実施する必要はない。完了時刻に招集所に来ていれば問題ない。  
(8) 招集完了時刻に遅刻した競技者の扱い

必ず複数の者、ウォームアップ場係の協力を仰いで呼び出しを行い、遅刻を出さない努力をすること。定刻になっても招集に来ない場合は棄権扱いとしてスタートリストを流す。招集完了時刻以降に招集所に来た場合は招集所審判長の判断を仰ぐこと。招集所審判長をおかない場合は、総務の判断を仰ぐ。

## 持ち込み禁止品の取り扱い

規則第144条「競技者に対する助力」の中で、ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することを禁止している。特にフィールド内で着替えたり練習を繰り返すフィールド種目出場者に対する格段の配慮・注意が必要となる。

持ち込みを防ぐためにはいくつかの方策があるが、招集所付近にポスターを用意し、注意を促すのが効果的である。外国人競技者が出場する競技会ではイラストや写真で禁止品目を表示するとわかりやすい。

また、カバンの中の持ち物まで検査する必要はないが、全員が揃ったところで今一度注意を喚起しておく必要もある。学生が参加する競技会では、招集所付近まで同僚が付き添って来るのが常であるから、その人に預かってもらうように指示すべきである。

預ける関係者がいない場合は招集所で預かることになるが、その場合には保管場所の設置や預かり証の発行が必要となる。

また、携帯電話などではプライバシー保護のために本人にロックをかけて貰ったり、封筒を用意して競技者本人の手により厳封してもらう必要も出て来る。

万が一競技場内で発見された場合には、その場で回収して競技終了後に返却すべきであり、仮に使用していたとなれば、審判長により警告され、守らない場合には失格になることを勧告する。

お互いが気持ち良く競技に臨めるよう、マナーある参加を強く呼びかけたいものである。

# 役員係

## 1 任務

大会総務の直轄下で、以下の任務を担当する。

- (1) 競技役員、補助員の把握とその連絡
- (2) 役員の出欠整理、報告処理、公認審判員手帳の記入
- (3) 競技役員、補助員の食事、その他給与物の支給、休憩室の管理
- (4) 欠席競技役員に対する補充措置
- (5) 役員の集合解散の処置
- (6) 役員の服装のチェック

## 2 実施要領

- (1) 競技役員の出欠場所において、競技運営要領、プログラム等を配布し、審判員手帳を提出させ、出欠を確認し、役員原簿に記入する。
- (2) 総務に競技役員の出欠状況を報告する。
- (3) 欠席役員の補充については、総務、各係主任と協議する。
- (4) 役員の服装をチェックし、異装の者に対して注意を喚起する。
- (5) 競技役員の駐車場利用については、総務・総務員、駐車場係と連絡をとり、協力する。
- (6) 役員に食事、日当等を支給する。弁当については、空き箱、残飯等の回収・廃棄についても連絡し徹底する。
- (7) 役員の控室を確保し、管理する。
- (8) 補助員の扱いについて各係に依頼、協力を求める。
- (9) 雨天、荒天に備えて、競技役員用の貸し出し雨具を準備する。



## 3 留意点

- (1) あらかじめ競技役員に控室、任務につくときの出入経路を知らせる。
- (2) 競技終了後の措置について、あらかじめ連絡する。
- (3) 日当、雑費を交付するときは、交付要領を伝達しておく。

# 庶務係

## 1 任務

大会総務の直轄下で以下の任務を担当する。総務の片腕とも言える部署である。

- (1) 大会本部の開設運営をする。
- (2) 来賓，大会役員の接待をする。
- (3) 総務の担当する競技場施設の管理についての協力，および申込文書，印鑑等の管理を行う。
- (4) 競技会収支を取り扱う。
- (5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の保管管理。
- (6) 役員係と協力して競技役員，その他の役員の弁当，支給物の受け渡しを行う。
- (7) 表彰資材の受け渡しを行う。
- (8) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を行う。
- (9) 対外関係者との交渉を行う。
- (10) 会議会場の設営をする。
- (11) 他の係に属さない事項を取り扱う。



庶務係の支給物受け渡し風景

特に規模の大きな競技会の場合は，会議場の手配，部屋や門の開閉，IDカードによる入場規制，警備・場内整備について会場管理係を設置し独立して任にあたらせることもある。

## 2 配置

担当別に班編成をする。

- (1) 来賓，大会役員の接待を担当（プロトコールが置かれる場合は，プロトコールと協力して）。
- (2) 競技役員，その他役員等の弁当，支給物の受け渡しを担当。
- (3) 参加競技者の受付，監督・コーチとの折衝を担当。
- (4) 競技会の収支を取り扱う担当。



(5) 競技会に必要な物品，記録用紙，プログラム，消耗品等の担当。

### 3 実施要領

(1) 競技会申込原簿ならびに，関係書類を整理しておく。

(2) 競技会に必要な物品，消耗品等はあらかじめ各係主任と連絡をとっておく。

(3) 抗議申立書，用器具借り上げ（持ち込み）申請書，同時出場届け等，諸書式をあらかじめ用意する。

(4) 競技場管理者と連絡をとり，ゴミの回収について確認し各係に徹底を図る。



競技会に必要な物品の貸し出し

# マーシャル（Marshal：場内司令）

## 1 任務

- (1) 総務と協同して許可された者以外は競技場内（ウォームアップ場係と連携してウォームアップ場も）に立ち入らないように整理する（競技規則第122条）。
- (2) 場内の完全な統制権をもち、役員とその競技に出場する競技者あるいは入場が正式に許可されている者の他は、誰も場内に出入りさせない（競技規則第133条）。
- (3) 主催者と報道機関が予め打ち合わせた撮影のエリアを守らせる。このほかラジオ、テレビ中継のためにアナウンサーや記者を場内に入れることもあるので、主催者側が発行するマーク（ビブス、IDカード等）をつけ、一般役員と区別する必要がある。
- (4) 好記録が出たときなど、取材のために無制限に記者がトラック、フィールドに入る事態を予測して、あらかじめ打ち合わせをしたエリアを守らせる。
- (5) 観客、その競技に関係ない者、競技役員、大会役員で直接競技の審判をしていない者などは、場内に入れない。
- (6) 競技が終了した競技者をミックスゾーン（退場口）へ速やかに誘導する。
- (7) マーシャルの担当するエリアはトラック、フィールド、借用している競技場内施設であって、観客席は直接関係ない。また、腕章をつけるなど、他の役員と区別できるようにし、任務を明瞭にする。
- (8) 良好な競技環境の確保。
  - ① スタートライン付近では、待機競技者のスタート練習の規制
  - ② スタート時の集団応援等の自粛要請
  - ③ フィールド競技では、助力となる行為への注意のコントロールおよび助走路がトラックと交差する個所の安全確保
  - ④ 許可なく競技場内に入ってくるコーチなどの規制
  - ⑤ 許可なく競技場所を離れる者の規制
  - ⑥ 報道関係者の規制

## 2 配置

トラック種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
スタートライン後方 (待機競技者の混雑防止)	2	2	1	1
途中(競技実施重複度や傷害防止を考慮して)	1	1	1	
フィニッシュライン後方 (退場経路の指示)	1	1	1	1
小 計	4	4	3	2
フィールド種目	全国大会	地区大会	県大会	対抗競技会
跳躍助走路スタート地点付近、 着地場所付近	4	4	2	
投てき各種目サークル付近、や り投スターティングライン付 近、各種目角度線外(特にハン マー投)	1	1	1	
小 計	8	4	2	2
合 計	主任 1 12	主任 1 8	主任 1 5	主任 1 4

[注] フィールド種目においては競技実施重複度合いがはっきりしていないので、おおよその見当で人員を出してある。

## 3 実施要領

- (1) マーシャルの人数は競技会の規模の大きさ、競技実施重複度(特にフィールド競技)によって、増減をはからなければならない。軽快に動き、ルールや競技運営に熟知し、各方面に配慮できる人材をあてることが望ましい。全国的規模の大会では、13人程度は必要である。
- (2) 場内の統制方法は、あくまでも競技実施場所重点主義である。
- (3) マーシャルの役割分担は、主に
  - a) トラック、フィールド分割方式、
  - b) 競技場をいくつかのエリアに分けるゲートを中心とする方式、
  - c) 競技の行われている場所とゲートを対象とする方式
 などがあるが、競技の行われている場所(区域)を重点的に統制すべきである。

#### (4) 統制区域

#### 走り終えた選手を誘導するマーシャル

トラック競技では、

- ① 各スタートライン付近
- ② フィニッシュラインおよび同延長線付近
- ③ 競技前スタートライン待機場所中心
- ④ 競技終了後の競技場外への退出経路（フィールドと共通）
- ⑤ 障害物競走が行われている時の水濠付近



フィールド競技では、

- ① 各競技実施場所付近
- ② 棒高跳の助走路、着地場所
- ③ 競走種目と重複のおそれのある区域（やり投、走高跳と競走種目の関係）競技の進行を確認しながら任務にあたる。競技日程では重なる予定はなくても、進行の遅れ等によっては重なる場合もある。

#### 200 mとやり投を調整するマーシャル



- ④ 投てき競技の投てき物落下区域

#### 4 留意点

- (1) 一般的な対応方法（相手の立場を思いやり丁寧な対応をする）

マーシャルが注意しなければならない事項としてあげられるのは、対象が競技者・役員・監督・コーチ・観衆・報道関係者といった人であることから、親切丁寧に対応することである。過去の競技会において報道関係者と思わぬトラブルが起こったのも、そのほとんどが不適切な言行によるものである点に留意しなければな

らない。報道関係者もよりよい報道をするために仕事として取材しているので、運営側も競技運営に支障のない範囲で取材には協力することが必要である。したがって、行動を規制するときにはルールに従うこととお互いの立場を尊重して（してもらって）、話し合うようにしなければならない。

## (2) コーチ席に行く選手への対応

競技会によっては、コーチ席を設けている競技会もある。競技者は、競技に支障がなければ、トラックを横切りコーチにより近いところでコミュニケーションを取ろうとする競技者も出てくることが考えられる。試技順に影響が出ないように注意したい（競技規則第144条）。

助力に対しては、速やかにできるだけ穏便な方法で処置する。

## (3) 取材協定方法

詳細については、報道系の項も参照されたい。また規制をするにあたっては、競技場の構造、競技会の規模、競技者のレベルに応じて、報道係、報道関係者および現場の審判員と協議のうえ、立入取材禁止区域（あるいは取材エリア）を設定するとよい。

（一般事項）

- ① トラック上からの撮影はしない。
- ② 夜間のフラッシュ使用の撮影は禁止する。
- ③ トラック種目の撮影は、第1レーン内側および第8（9）レーンの外側で、トラックの縁石からフィールド内は1m以上離れる。スタート地点の前後10m以上離れる。
- ④ フィニッシュラインは、取材エリア以外の場所は禁止する。
- ⑤ 特に競技役員から要請のあった場所（例：曲走路などスターター、リコーラーの立つ位置、監察員が監察するのに支障をきたす箇所など）は禁止。
- ⑥ 競技場内練習時の注意喚起（フィールド審判員と協力して）。フィールド競技者と競技役員、報道関係者、トラック競技者との衝突防止。
- ⑦ フィールド競技は、正面からの撮影は競技運営上および危険予防のため禁止。競技の撮影は取材エリアから内側に入らない。
- ⑧ 投てき競技で風の関係で用具が流れる危険がある場所は、エ

リアを多少ずらす。ハンマー投のエリアは非常に広範囲であるので投てき物の行方には特に注意する。また、トラックから助走するやり投競技者（特に走者とやりの接触）について注意。

- ⑨ 競技者更衣室，シャワー室，および記録室や競技役員控室での取材は禁止する。

# ウォームアップ場係

## 1 任務

- (1) 競技者が競技に臨む前に、秩序ある練習ができるように場所を確保する。
- (2) 競技者係と連携し、競技者が招集場所にスムーズに移動できるようにする。

## 2 実施要領

- (1) ウォームアップ場のコンディションの保持・管理。
- (2) 秩序ある練習法、ならびに危険防止。
- (3) 練習に必要な器具、器材を確保する。

## 3 留意点

- (1) ウォームアップ場に入入りできる者について、競技注意事項に明記する。競技会の規模によっては、報道関係者、IDを持たないチームメイトも規制を受けることがある。
- (2) 定められた練習日程やトラックのレーン割り当てを守らせる。
- (3) 雨天、荒天時の対策と対応。
- (4) 競走路、助走路、投てき場の使用方法について、危険防止について周知徹底する。

### 審判員 (ウォームアップ場係)



インフィールド内への  
横断を調整する役員

曲走路と直走路の交差付近に立ち、  
競技者同士の接触を注意している

- (5) 本部との連絡手段、競技者への招集時刻の連絡手段を確保する。
- (6) 競技者係と協力して、**ウォームアップ場掲示板と係控室**  
競技者の招集時刻厳守  
を呼びかける。

また、ウォームアップ場でも準決勝、決勝進出者の掲示を行うことに協力する。



ウォームアップ場における レーン割り当ての例  
(直走路8レーン、曲走路6レーン)

<曲走路>

1～2レーン：周回・タイムトライアル用

3～4レーン：流し・バトンパス用

5～6レーン：400mH用

<直走路>

1～2レーン：周回・タイムトライアル用

3～5レーン：流し・スタートダッシュ用

6～8レーン：ハードル用

**レーンの割り当て**



\*競技日程に応じ、特にハードル種目・リレー競技等が行われる場合に出場する選手がウォームアップを行う時間帯には集中するので、ハードルやバトンパスの練習に使用できるレーンをその時間帯に限って増やすなどして対応する方法もある。



ハードルのレーンを  
増設した例



# 風力計測員

## 1 任務

- (1) 競技規則第163条、第184条の規定に基づいて風向風速計を設置する。
- (2) 当該競技における風向および風速を測定し、それを記録する。その結果に署名した後、記録・情報処理員に報告する。
- (3) 競技進行中の気象状況についても観測する。

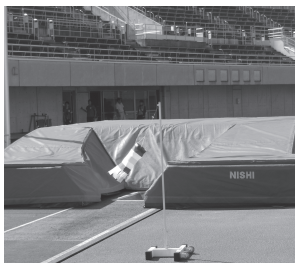
## 2 配置

- (1) 競走競技の場合、風向風速計は直走路の第1レーンに隣接して、フィニッシュラインから50mの地点で、第1レーンから2m以内に設置する。



- (2) 走幅跳、三段跳において風向風速計は踏切板から20m、助走路から2m以内の位置に設置する。
- (3) 風向風速計を設置する高さは、地上から1m220を基準とする。
- (4) 計測員の配置は、当該競技の運営に支障のない位置で、かつ風向風速計に影響を与えない位置とする。風向風速の表示板は、当該競技の記録速報板と並んで見やすいところに配置することが望ましい。
- (5) 競技場の風向風速を知る目安として、トラック競技用風向風速計と定時気象観測用風向風速計のほぼ中間（100mH 6台目付近）に吹流しを設置する。
- (6) 競技者がおおよその風向と風速を知ることができるように、すべての跳躍競技と円盤投・やり投においては、適切な場所に1つ以上の吹流し状のものを置く。砲丸投、ハンマー投では不要である。

## 吹き流しを置いた例



### 3 実施要領

(1) 観測，計測の結果は次の各係に連絡する。

- ① トラック競技                      記録・情報処理員
- ② フィールド競技                  跳躍審判員記録担当
- ③ 定時観測                          記録・情報処理員，アナウンサー

(2) 新記録が出た場合，気象状況，風向風速の確認と証明を行う。

(3) 風向風速の計測時間

トラック競技

200mまでの種目を計測する。

200mを除く競走では，スタートと同時に計測するが，200m競走においては，先頭の走者が直走路に入った時から10秒間計測する。

60m                                      5秒間

100m, 200m                          10秒間

100mH, 110mH                      13秒間

フィールド競技

走幅跳では踏切板から40m，三段跳では踏切板から35m離れた地点にマーカーを設置し，競技者がそのマーカーを通過したときから計測するが，これよりも助走距離が短い場合，助走を開始した時から計る。

走幅跳・三段跳                      5秒間

### 4 留意点

(1) 主任は，計測器が正確に作動するかどうかを点検する。

- (2) 記録の公認という観点から、風力速報表示器を利用して風力の記録を表示する。
- (3) デジタル式の風速計の場合は追い風(+), 向かい風(-)の方向に注意する。

#### デジタル式風力計

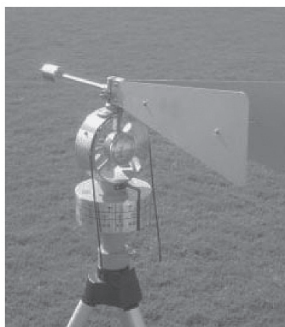
トラック内側ホームストレート  
トフィニッシュラインから50m  
地点に配置したところ



- (4) アナログ式(中浅式)の場合は、メーターの目盛りの移動量と同時に、測定時間内に振れた角度も同時に観測し、風速換算表で走路(助走路)方向の分速になおす。

- ・方位磁石で東西南北をあわせる
- ・矢羽根の下、中央が風力計
- ・両側のひもは風力計のメーターのロックスイッチ

#### 中浅式風向風速計



- (5) 定時気象状況の観測は、通常、正時(00分)に行う。慣例として競技開始時の気象状況も測定し発表している。
- (6) 定時気象状況の観測場所は競技場中央部ホームストレート側で第1レーンから2m以内に設置する。トラック競技の風力測定場所と違うので注意する。

また、風力の測定は気象学的には10分間の空気の移動量と定義されているが、陸上競技場では簡略化して、3分20秒(200秒)間測定し、秒速に換算するのを標準とする。

- (7) 乾湿計は地上から1m500の高さに設置する。競技場の気温湿度を代表すると思われる場所(ホームストレート中央付近のスタ

ンド下など日陰の部分が望ましい)で観測する。

測定値の有効数字については、使用する機器の精度に応じて読み取る単位を決める(0.1度単位でも0.5度単位でもかまわない)。



A・Bピット並行して設置されている例

### 中浅式風向風速計



## 風速計の故障

多人数が参加する走幅跳や三段跳では2つのピットを用いて同時に予選を行うケースがあり、最近の国内競技会では2ピット同時進行で決勝を行う例も少なくない。当然跳躍審判員と風力計測員も2班編成にする必要がある。そんなとき風向風速計が故障して、予備の計器もないとなったらどうすべきであろうか？

当然2ピットを交互に跳躍させ、それぞれの風力を計測すべきなのだが、問題はその計器の設置場所である。たとえばトラック側が故障した場合、スタンド側においてある計器からトラック側の助走路まで2m以上離れてしまうため公認記録とならなくなってしまうのである。規則第184条で助走路から2m以内に設置することになっているので、2つの助走路の間に置く必要がある。

ただし、電源からコードをどのように引いてくるかは工夫が必要である。延長コードが十分にあれば助走路の後方から回してくることも可能であろうが、それができない場合、走高跳のスタンドを利用して助走路の上を通して2ピットの間で計測したという報告もある。

# 表彰係

## 1 任務

各種目の決勝において入賞した競技者を表彰するために、表彰される競技者を表彰進行計画に基づき表彰する。また、栄章授与式が行われる競技会ではその業務も担当する。

## 2 実施要領

### (1) 種目表彰

- ① 表彰進行計画を総務の承認を得て決める。
- ② アナウンサー、報道係、ドーピングコントロールの係等、関係役員とあらかじめ打ち合わせておく。
- ③ 表彰方法を競技注意事項に記載し、競技者に周知徹底する。
- ④ 入賞した競技者は、スムーズに誘導できるように、入賞者管理係・ミックスゾーン係・マーシャル等に協力を求めそれぞれ控え室まで誘導方法を打合せておく。
- ⑤ 記録・情報処理委員と連絡を密にする。
- ⑥ 表彰用物品を確認しておく。
- ⑦ 表彰時の表彰状授与者をあらかじめ決めておき、表彰係の場所に案内しておく。
- ⑧ 種目ごとに表彰用紙(カード)を作成する。
  - (a) 種目
  - (b) 表彰する人(プレゼンター)、役職名
  - (c) 表彰される競技者名、所属
  - (d) 成績(新記録が出たときは明示する)
  - (e) その種目に寄贈されている賞杯名、寄贈者名

### (2) 栄章授与式

- ① 受賞者への連絡方法を事前に確認し出欠者の把握をする。
- ② 当日の受付場所・控室の確認、案内係等の手配を行う。
- ③ 授賞式の場所、手順を報道係、アナウンサー等関係部署間で協議しておく。
- ④ 授与式直前(30分程度)に出欠の最終確認を行い、アナウンサーへ連絡、授与物の確認も併せて行う。

### 3 留意点

- (1) 表彰式典マニュアルを作成する。それに基づく表彰計画で係分担当を作成し、十分打ち合わせておく。準備が整ったならば、表彰用紙をアナウンサーに渡し、関係進行担当総務員の指示のもとに行動する。
- (2) フィールドで行う表彰については、あらかじめ予行練習をしておく。
- (3) 表彰はトラック競技成績の発表後、競技の中断時に行うのが原則である。また、フィールド競技の進行にも十分配慮する。
- (4) 表彰係主任が連絡をとって、タイミングよく競技に支障なく表彰する。

特にファンファーレを入れるときは、音量やフィールド競技の試技開始に注意する。

- (5) 表彰時の競技者の服装に特に規定はないが、商標等に注意する。
- (6) できるだけ早く、競技者を待たせずに表彰することを心がける。

### 4 種目別表彰の具体例

#### 表彰ゾーン（表彰台）の設置



2010年日本 IC (3名表彰)



2008年埼玉 IC (8名表彰)

#### 入賞者待機所の設置例 (2008年埼玉 IH)



他とセパレートされたスペースを設ける。



入賞者×数種目分の席を用意する。



## 表彰直前の待機



後列に受賞者（補助員の先導で右側から入場）

前列左にプレゼンター前列右側に介添え（補助員）（直進して入場）

## 表彰式開始（入場）

受賞者が先導の補助員に導かれ表彰台の前に整列すると同時に、プレゼンターは直進し正対する。

正対したところで表彰が開始される。

（通常この状態で受賞者先導の補助員が「礼」などの声をかける）



## 受賞者への賞状の授与

受賞者1人1人への賞状授与  
全員への授与を終え最初の体形に戻る。このあとプレゼンターと賞状盆持ちの補助員は受賞者と先導の補助員を残し、回れ右をした後、出てきた通路をそのまま戻り式典は終了する。

終了後数分間、プレスへのサービスとして受賞者への写真撮影の時間が設けられた後、先導の補助員に導かれ受賞者が退場する。

（公式インタビューなどは表彰式の前に行われているケースが多い）

### 3人表彰の様子



3位までの表彰の場合、このようにシンプルなものとなるケースが多い。

(写真は2013年日本IC)

### 電光スクリーンやキャラクターが登場しての表彰



(写真は2011年日本選手権)

## 表彰式での連携

賞状やメダルの準備が整い、入賞者も全員揃った。授与者と介添えの補助員の準備も完了し、いつでも表彰できる状態であるが、今一つ大事なことを見落としていないか？ そう、他の部署との連携である。

表彰は、勝者や入賞者に対して最大の賛辞を送るべき一大セレモニーである。大規模な大会では、表彰進行担当総務員が介することが多いが、アナウンサーや大型映像係などの協力なくしては行えない。

表彰は、通常トラック競技の合間に行われるが、トラック競技が10分ダイヤで運営されている場合、フィニッシュ後にリプレイ映像を表示し、1着の速報を伝えるのに1分かかる。また、つぎの組の出場者紹介に後半部分の2～3分が必要となるので、間の6分間が表彰実施に与えられた時間となる。ただし、その間に結果発表や、フィールド種目の出場者紹介、4回目以降の上位8人の紹介などが組合わさっていくのが実際である。刻々と変わる状況の中で、何を最優先としてプログラムを組んでいくのか進行担当総務員、アナウンサーの腕の見せどころであるが、チーム全体の協力体制が整っていないとうまく成功しない。

せめて実施予定の2種目前には連絡をとりはじめ、担当者一同が臨機応変に対応できるようにしたいものである。

また、競技の進行を止めさせる必要はないが、正面スタンド前で行われる走幅跳や三段跳の跳躍審判員には、どのタイミングで表彰が入るか伝えておくべきで、競技者が表彰の間、直近での競技の中断を望むのであればそのように配慮することも必要である。ただし、最後の6回目に入ってから、特に最後の3人になってからの表彰は、競技に見入っている観衆にとっては興ざめとなりかねないので避けた方が賢明である。